

重複関係 第169号土坑に南西コーナー部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.40m、短軸4.56mの長方形で、主軸方向はN-2°・Wである。壁高は5~22cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部から南壁の中央にかけて踏み固められている。北壁の西側と南壁の西側が擾乱や重複のために確認できなかったが、煎溝は全周していたと推測される。

竈 北壁中央部に付設されている。擾乱により遺存状態が悪く、規模は焚口部から煙道部まで115cm、両袖部幅130cmと推測される。袖部は、粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は、床面を10cmほど掘り下げた平坦面を使用し、火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は3層からなり、いずれも竈内の覆土である。

竈土層解説

- 1 罫 堀 色 炭化物・ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・ 2 罫 堀 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化
砂粒少量 粒子・赤粒少量
3 罫 赤 堀 色 焼土ブロック・ローム粒子少量

ピット 5か所。主柱穴はP1~4が相当し、深さは22~53cmとばらつきがある。P5は竈と対峙する位置にあり、出入り1に伴うピットと考えられる。

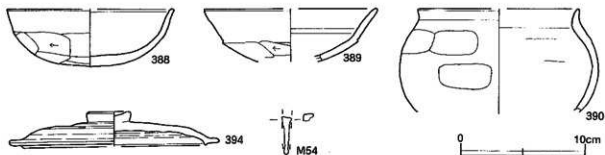
覆土 12層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

- 1 罫 堀 色 焼土粒子・ローム粒子微量 7 罫 堀 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 罫 堀 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 8 罫 堀 色 焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子微量
3 罫 堀 色 焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子微量 9 罫 堀 色 焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
4 罫 堀 色 ロームブロック・焼土粒子微量 10 罫 堀 色 ローム粒子少量
5 罫 堀 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 11 罫 堀 色 ロームブロック・炭化粒子微量
6 罫 堀 色 ローム粒子少量 12 罫 堀 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片233点(坏30, 甕203), 須恵器片30点, 掘り鉢1点, 釘1点が、全域から散在して出土している。多くの遺物は、覆土下層から出土している。394の須恵器蓋は、竈の左袖の南側の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第133図 第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表(第133図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	炭成	手法の特徴	出土位置	備考
388	土師器	坏	[13.4]	4.6	-	長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ナデ	覆土下層	60%
389	土師器	坏	[14.0]	(4.3)	-	長石・石英	橙	普通	口縁・体部内面横ナデ, 外面ヘラ削り	覆土中	20%
390	土師器	小形甕	[13.0]	(8.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナデ, 体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
394	須恵器	蓋	17.0	2.8	-	赤母灰石末	黄灰	良好	大井郡有田町の同型への割り	覆土下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M54	釘	(3.1)	0.8	(0.5)	(1.6)	鉄	断面長方形の棒状	覆土中層	

第61号住居跡（第134図）

位置 調査区の南部のD315区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第79号土坑に西部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.00m、短軸4.29mの長方形で、主軸方向はN-1°-Eである。壁高は8~23cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部と南壁際がよく踏み固められている。南西コーナ一部付近が重複と削平によって確認できなかったが、壁溝は全周していたと推測される。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで86cm、両袖幅131cmである。袖部は、粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は、床面と同じ高さの平坦面を使用している。火熱により若干赤変はしているが、硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。煙道部から逆位で出土した396の小形甕は、口縁が埋められ、焚口側の口縁付近が二次焼成を受け、煤が付着していることから、支脚として転用されたと考えられる。土層は19層からなり、第1~8層が竈内の覆土、第9~18層が袖部の土層で、第19層は竈の掘り方の灰土である。

覆土層解説

1	暗 褐色	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量	10	褐 色	焼土ブロック・粘土粒子微量
2	暗 赤褐色	色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	11	暗 赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3	暗 赤褐色	色	焼土ブロック・ローム粒子少量	12	暗 赤褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
4	暗 赤褐色	色	焼土ブロック・ローム粒子少量	13	褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
5	暗 赤褐色	色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量	14	暗 赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
6	暗 赤褐色	色	焼土ブロック・ローム粒子少量	15	暗 赤褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
7	暗 赤褐色	色	焼土ブロック・ローム粒子少量	16	褐色	ローム粒子微量
8	暗 赤褐色	色	焼土ブロック・ローム粒子少量	17	褐色	ロームブロック微量
9	暗 赤褐色	色	焼土ブロック・ローム粒子少量	18	褐色	ロームブロック微量
9	褐色	色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	19	黒 褐色	焼土粒子・ローム粒子微量

ピット 10か所。主柱穴はP1~4が相当し、深さは60cmほどである。P5は竈と対峙する位置にあり、出入り口に伴うピットと考えられる。P6は深さ30cmで、灰は検出されていないが覆土下層に焼土の混入が多く見られ、しまりも極めて弱いことから、灰溜であった可能性が考えられる。P7~10は深さが10~20cmのピットで、性格は不明である。

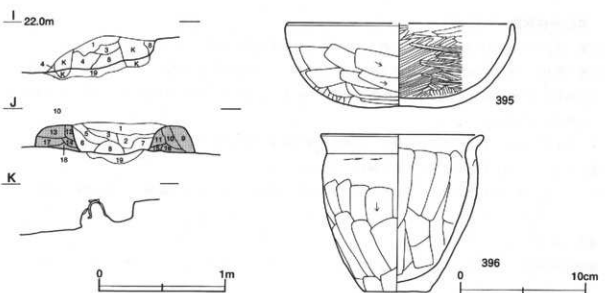
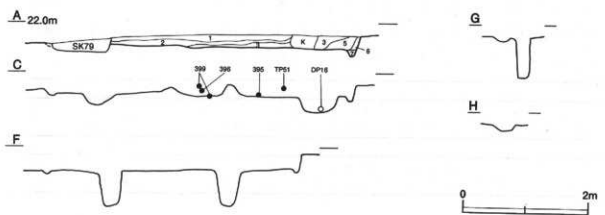
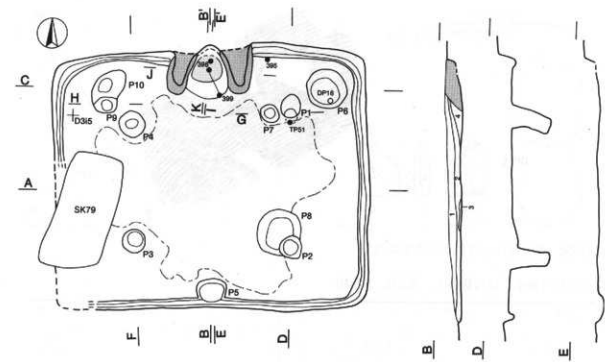
覆土 7層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

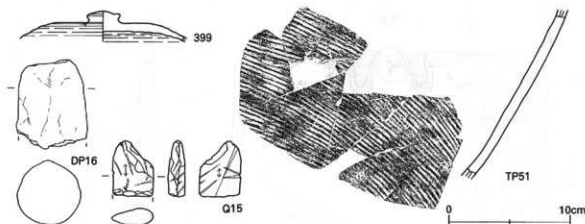
1	暗 褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
2	褐色	色	焼土ブロック・ロームブロック微量	6	褐色	ローム粒子少量
3	褐色	色	焼土ブロック・ローム粒子微量	7	褐色	ロームブロック微量
4	暗 褐色	色	焼土粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片51点、須恵器片33点、土製支脚1点、砥石1点が、東部の覆土下層から点在して出土している。399の須恵器蓋は、竈内の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第134图 第61号住居跡・出土遺物実測図



第135図 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表（第134・135図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
395	土師器	坏	[18.2]	6.7	-	雲母・長石・石英・片状鉱物	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	床 面	40%
396	土師器	小形壺	13.0	12.7	10.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土下層	98%，PL49
399	須恵器	蓋	-	(2.5)	-	雲母・長石・石英	にぶい黒	不良	天井部右回りの回転ヘラ削り	覆土下層	50%
TP51	須恵器	鉢	-	(14.1)	-	雲母・長石・石英	緑灰	普通	体部外面斜位の平行印み，内面ヘラナデ，当て具痕	覆土下層	

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP16	支脚	(7.4)	5.9	4.6	(204.8)	土製	側面ナデ，被熱痕	P6覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	砥石	(4.6)	3.4	1.4	(26.1)	凝灰岩	片黄欠損，断面結核形，砥面2面，溝状の砥面6面	覆土中	PL59

第62号住居跡（第136図）

位置 調査区の中央部のC3b0区に位置し，平坦な台地の東端部に立地している。

規模と形状 床面まで削平された状態で検出されたため，ピットの位置から判断して，N-2°-Wを主軸とする長軸4m，短軸3.5mほどの長方形と推測される。床面まで削平された状態で検出されたため，壁の立ち上がりは確認できなかった。

床 床面まで削平されているため，硬化した面も壁溝も確認できなかった。

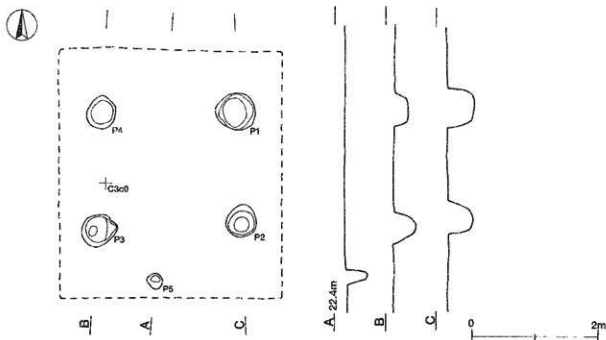
竈 削平により遺存状態が非常に悪く，確認できなかった。

ピット 5か所。主柱穴はP1~4が相当し，深さは22~42cmである。P5は推測される南壁際の中央に位置していることから，出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片2点，須恵器片1点が，ピットの覆土から出土している。小片であり，図示できなかった。

所見 時期は，出土土器片から9世紀前葉と考えられる。



第136図 第62号住居跡実測図

第64号住居跡 (第137図)

位置 調査区の南部のE3a0区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第63号住居跡の東部を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.96m、短軸2.90mの方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は6cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の南側から南壁にかけて中央部が踏み固められている。階層は、全周している。

竈 北壁の東側に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで81cm、両袖部幅110cmである。袖部は、ローム土の上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は、床面と同じ高さの半円面を使用し、火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。上層は11層からなり、第1～6層が竈内の覆土、第7～10層が袖部の土層で、第11層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	層	色	粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子中量	6	層	赤褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量
2	層	褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・砂粒少量、ロームブロック少量	7	層	褐色	ローム粒子・砂粒中量、粘土粒子少量
3	層	赤褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック少量	8	層	褐色	焼土粒子・ローム粒子少量
4	層	赤褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量	9	層	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
5	層	褐色	ローム粒子中量	10	層	褐色	ロームブロック少量
				11	層	褐色	ロームブロック中量

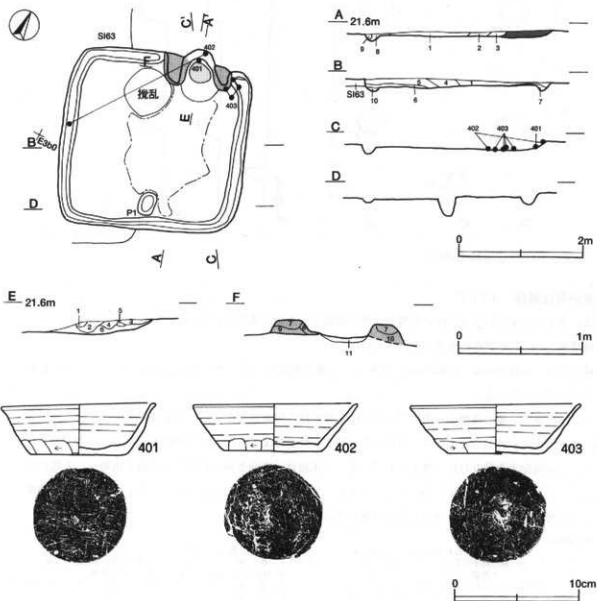
ビット 1か所。主柱穴は、確認できなかった。P1は竈と対峙する南壁際の中央に位置し、出入り口に伴うビットと考えられる。

覆土 10層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	層	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	5	層	褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
2	層	褐色	粘土ブロック中量、炭化粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	6	層	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	層	褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量	7	層	褐色	ロームブロック少量
4	層	褐色	粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量	8	層	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
				9	層	褐色	ローム粒子微量
				10	層	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片27点、須恵器片8点が、北東および南東コーナー付近の覆土下層から出土している。
 402の須恵器坏は煙道部の覆土下層から、403の須恵器坏は北東コーナー部の覆土下層から出土している。
 所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第137図 第64号住居跡・出土遺物実測図

第64号住居跡出土遺物観察表 (第137図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
401	須恵器	坏	12.4	4.2	7.7	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部多方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	煙道部覆土下層	80%, PL.49
402	須恵器	坏	13.5	4.0	8.0	長石	褐灰	良好	底部一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	60%, PL.49
403	須恵器	坏	13.9	4.0	7.8	長石	灰	良好	底部一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	60%

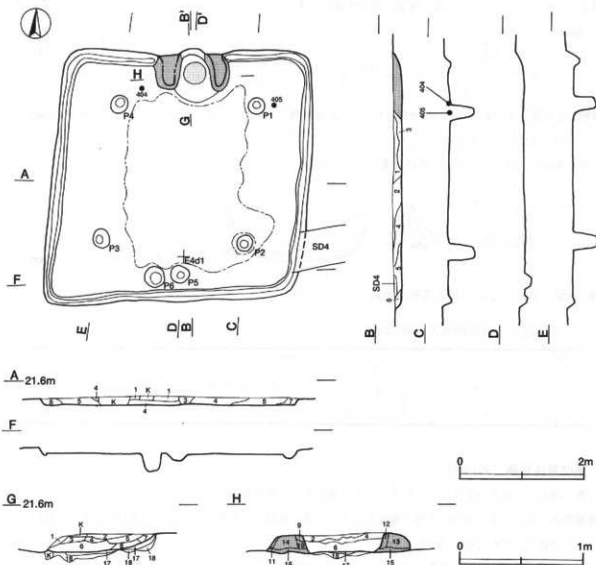
第65号住居跡 (第138図)

位置 調査区の南部のE3c0区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第4号溝に南部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.15m、短軸4.14mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は9~15cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈の南側から南壁の中央部にかけて中央部が踏み固められている。壁溝は、全周している。



第138図 第65号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで87cm、両袖部幅118cmである。袖部は、ローム土の上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火熱により赤変しているが、硬化した部分は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は18層からなり、第1~8層が竈内の覆土、第9~16層が袖部の土層で、第17・18層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	刷	刷	色	炭化物・ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量	10	刷	刷	色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量		
2	に	ぶ	い	赤褐色	砂粒多量、粘土粒子中量	11	刷	刷	色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	
3	に	ぶ	い	赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	12	に	ぶ	い	赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量
4	赤	刷	色	焼土ブロック中量		13	に	ぶ	い	赤褐色	粘土粒子多量、ローム粒子中量、焼土粒子・砂粒微量
5	塩	刷	赤	刷	色	焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量	14	灰	刷	色	粘土ブロック中量、砂粒微量
6	刷	赤	刷	色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	15	刷	刷	色	ロームブロック・粘土粒子微量	
7	刷	赤	刷	色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量	16	刷	刷	色	粘土粒子・ローム粒子微量	
8	刷	赤	刷	色	ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量	17	刷	赤	刷	色	粘土粒子・炭化粒子微量
9	刷	刷	色	焼土粒子・粘土粒子微量		18	刷	刷	色	ロームブロック微量	

ピット 6か所。主柱穴はP1～4が相当し、深さは45cm前後である。P5は竈と対峙する位置にあり、出入り口に伴うピットと考えられる。P6は深さ30cmのピットで、性格は不明である。

覆土 8層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	刷	刷	色	炭化物・ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量	4	刷	刷	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	
2	刷	刷	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	刷	刷	色	焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子微量	
3	に	ぶ	い	赤褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	刷	刷	色	ロームブロック微量
					7	刷	刷	色	ロームブロック・炭化粒子微量	
					8	刷	刷	色	ロームブロック微量	

遺物出土状況 土師器片48点、須恵器片12点が、北部の覆上下層から点在して出土している。404の土師器環は、竈の左袖の西側の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第139図 第65号住居跡出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表 (第139図)

番号	種別	図性	口径	器高	底径	粘土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
404	土師器	環	13.8	3.6	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	口縁横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ナデ	床	向 50%
405	須恵器	平	12.8	4.8	-	長石・石英・赤色粘土	灰	良好	底面多方向のヘラ削り	覆上下層	90%, P1, 49

第66号住居跡 (第140図)

位置 調査区の南部のE4c3区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第1号溝と第80号土坑に東部を、第3号溝に東部から中央部を、第4号溝に南部を、第119・120号土坑に西部をいずれも掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.74m、短軸4.94mの長方形で、主軸方向はN-13°-Wである。築高は29-32cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は、確認できた壁際を巡っており、全周していたものと推測される。

竈 北壁中央部に付設されているが、遺存状態が非常に悪い。袖部は、粘土混じりのローム土で構築されている。第3号溝によって攪乱を受けているが、火床面は一部だけが確認でき、火熱により赤変している。竈の土層は確認できなかった。

ピット 5か所。主柱穴は、P1・2が相当する。深さはP1が30cm、P2が49cmである。P3は竈と対峙する位置にあり、出入り口に伴うピットと考えられる。P4・5は深さ40cm前後のピットで、性格は不明である。

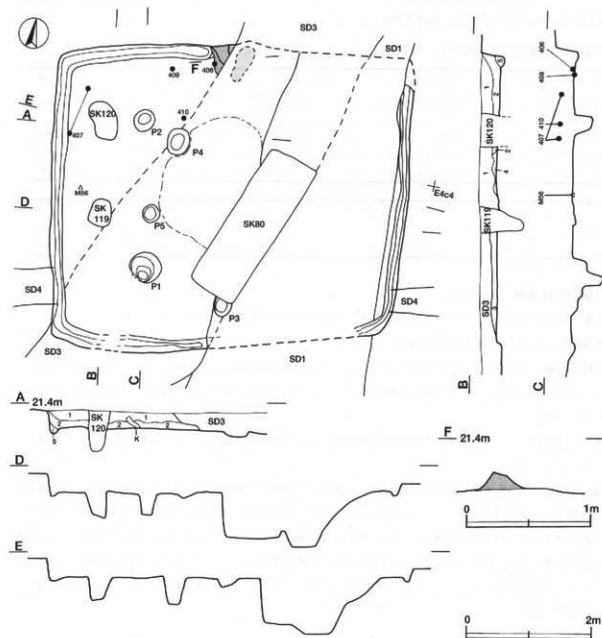
覆土 5層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

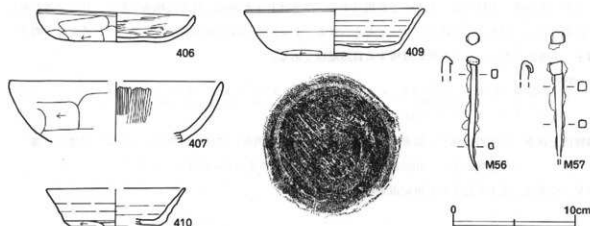
- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|---------------------|
| 1 概 暗 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 4 暗 赤 褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 概 暗 褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片86点、須恵器片12点、釘2点が、北西部に点在して出土している。全体的に覆土土層から出土している遺物が多い。409の須恵器坏は、竈の西側の床面から出土している、

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第140図 第66号住居跡実測図



第141図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表 (第141図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
406	土師器	坏	12.9	2.6	7.2	長石・石英	赤褐色	普通	口縁横ナデ、体部外面へう削り、内面粗いへう磨き	覆土下層	70%, PL49
407	土師器	坏	[17.6]	(5.0)	-	長石	暗赤褐色	普通	口縁横ナデ、体部外面へう削り、内面へう磨き	覆土下層	10%
409	須恵器	坏	14.8	3.9	8.2	雲母・長石・石英	暗灰青	普通	底部多方向のへう削り、体部下端回転へう削り	床面	90%, PL49
410	須恵器	坏	[11.2]	3.2	[7.4]	雲母・長石・石英	灰白	不良	底部多方向のへう削り、体部下端手持ちへう削り	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M56	釘	9.4	1.1	0.5~0.7	16.7	鉄	頭部方形、断面長方形の棒状、臀部先端湾曲	床面	PL62
M57	釘	(7.9)	1.1	0.6~0.7	(16.6)	鉄	頭部方形、断面方形の棒状、臀部先端が尖る	覆土中	PL62

第67号住居跡 (第142図)

位置 調査区の東部のD4h6区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第68号住居跡の南部を掘り込んでいる。

規模と形状 東側部分が調査区域外に延びているため、南北軸4.38m、東西軸4.23mだけが確認された。形状は、方形または長方形と推定され、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は30~50cmで、各壁とも外積して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部の南寄りが踏み固められている。壁溝は、北西コーナー付近の北壁から南壁中央にかけて巡っている。

竈 北壁に付設されている。遺存状態が悪く、規模は焚口部から煙道部まで117cm、両袖部幅122cmと推測される。袖部は、粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は、床面と同じ高さから緩やかに立ち上がる傾斜斜面を使用し、火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。煙道部から413の土師器小形甕が逆位で検出されており、口縁付近が二次焼成を受けていることから、支脚に転用したものと考えられる。土層は16層からなり、第1~8層が竈内の覆土、第9~14層が袖部の土層で、第15~16層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|---------------------------------|---|--------|------------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量、砂粒中量、焼土粒子微量 |
| 2 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量、砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 4 | 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| | | | 5 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 |

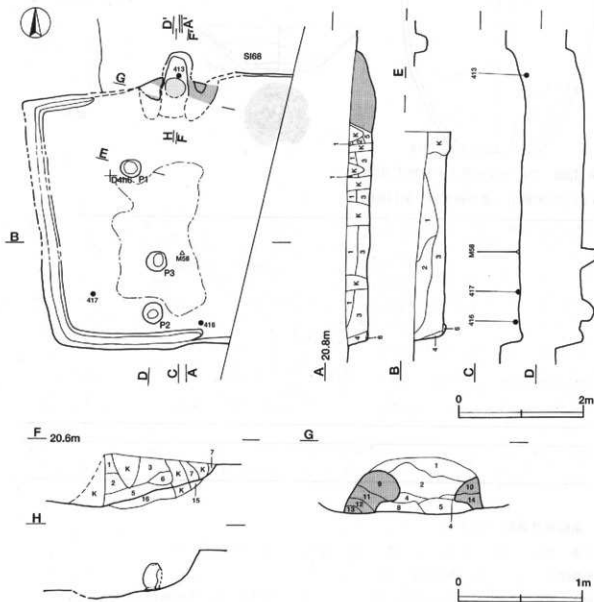
- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|--------------------------|
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック・砂粒少量 | 11 黒暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 7 黒暗赤褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 12 黒褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 8 黒暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 9 にぶい黄褐色 | 砂粒多量、粘土粒子中量 | 14 黒褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・砂粒微量 |
| 10 黒暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| | | 16 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量 |

ピット 3か所。主柱穴はP1が相当し、深さは22cmである。その他の主柱穴は、確認できなかった。P2は竈と対峙する位置にあり、出入口に伴うピットと考えられる。P3は深さ33cmのピットであり、性格は不明である。

覆土 6層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

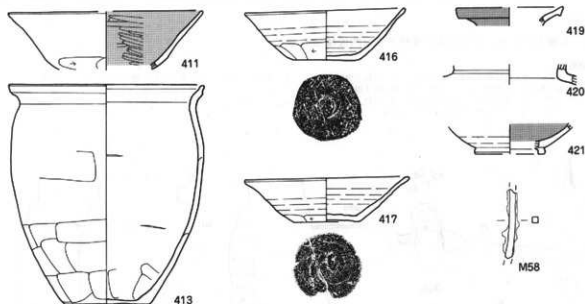
- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量 | 5 黒暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量 |
| 2 黒暗褐色 | 炭化物・ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | | |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 | | |



第142図 第67号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片300点(坏47, 甕253), 須恵器片209点(坏123, 甕84, 鉢1, 長頸瓶1), 灰軸陶器2点(長頸瓶1, 高台付碗1), 釘1点が, 全城から散在して出土している。多数の遺物は, 覆土上層から出土している。417の須恵器坏は, 南西コーナー部付近の覆土下層から出土している。覆土中から出土している419の長頸瓶・421の高台付碗はともに狹投産の灰軸陶器である。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。



第143図 第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表(第143図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	造成	手法の特徴	出土位置	備考
411	土師器	坏	[15.8]	(4.7)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ, 体部外面ヘウ削り, 内面ヘウ磨き	覆土中	30%
413	土師器	小形甕	15.9	18.1	7.0	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ, 体部外面上段ヘラナデ, 下段ヘウ削り, 内面ヘラナデ, 輪積み痕	床面	50%, PL49
416	須恵器	坏	12.9	4.2	5.4	雲母・長石・石英	灰	不良	底部一方向のヘウ削り, 体部下端手持ちヘウ削り	覆土下層	70%, PL49
417	須恵器	坏	13.5	3.7	5.4	長石・石英	灰白	良好	底部二方向のヘウ削り, 体部下端手持ちヘウ削り	覆土下層	70%, PL49
419	灰軸陶器	長頸瓶	[8.8]	(2.5)	-	-	灰白・灰オリープ	良好	ロクロ整形	覆土中	5%
420	須恵器	長頸瓶	-	(1.7)	-	-	灰黄	良好	ロクロ整形	覆土中	5%
421	灰軸陶器	高台付碗	-	(2.5)	[5.6]	-	灰白・灰オリープ	良好	ロクロ整形, 高台粘付付け	覆土中	5%
M58	釘	-	(5.6)	0.5	0.5	(7.1)	鉄	断面方形の棒状, 脚部内曲	-	覆土下層	-

第68号住居跡(第144図)

位置 調査区の東部のD4g6区に位置し, 東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第67号住居に南部を掘り込まれている。

規模と形状 東端部分が調査区域外に延びているため, 南北軸3.90m, 東西軸3.82mだけが確認された。形状は, 方形または長方形と推定され, 主軸方向はN-4°-Wである。壁高は10~55cmで, 各壁ともほぼ直立して

いる。

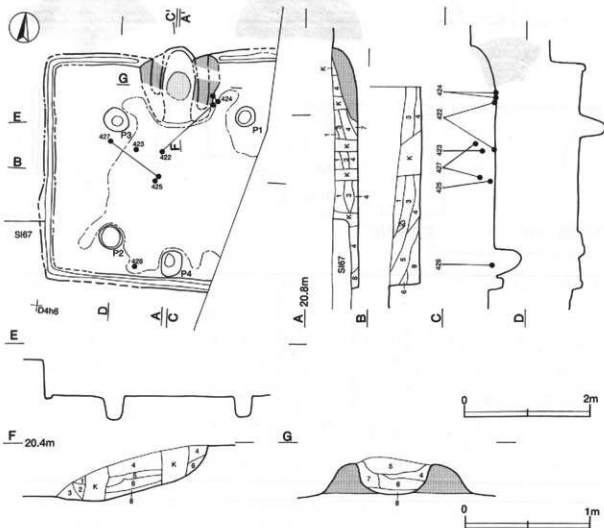
床 平坦で、竈の南側から南壁にかけて南に開く台形状に中央部が踏み固められている。壁溝は、確認された壁際を周回している。

竈 北壁に付設されているが、攪乱によって遺存状態が悪い。規模は焚口部から煙道部まで128cm、両袖部幅126cmである。袖部は、ローム土混じりの粘土で構築されている。火床面は、床面とはほぼ同じ高さの平坦面を使用し、火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は8層からなり、いずれも竈内の覆土である。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|---------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼上ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子多量、砂粒中量、焼土粒子・ローム粒子少量 | 6 灰黄色 | 粘土粒子多量、砂粒中量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量 | 7 濃い赤褐色 | 焼上ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼上ブロック少量 |

ピット 4か所。主柱穴はP1～3が相当する。深さはP2が9cmと浅いが、その他は40cmほどである。南東隅の主柱穴は、確認できなかった。P4は竈と対峙する位置にあり、出入口に伴うピットと考えられる。



第144図 第68号住居跡実測図

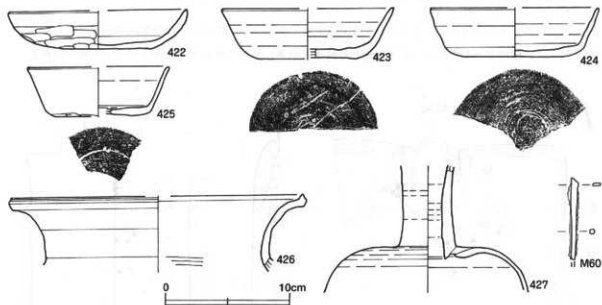
覆土 9層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1 黄	色	炭化物中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	6 褐	色	ロームブロック中量
2 にぶい黄褐色		砂粒多量、粘土粒子中量	7 暗 褐	色	粘土粒子多量、ローム粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐	色	ロームブロック微量	8 黒 褐	色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
4 暗 褐	色	ローム粒子中量	9 黒 褐	色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
5 暗 褐	色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片137点(環31, 寛106)、須恵器片54点(環30, 寛24)、灰軸陶器1点(水瓶1)、鉄製軸1点、炭化種子が、中央部と甕の東側に集中して出土している。多くの遺物が、覆土上層から出土している。425の須恵器環は、中央部の覆土下層から出土している。中央部の覆土中層から出土している427は、狼狽産の灰軸陶器の水瓶で、第2号大形堅穴状遺構から出土した破片と接合している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第145図 第68号住居跡出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物実測図 (続)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
422	土師器	環	[14.3]	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁・体部内面横ナデ, 外面ヘラ削り	覆土下層	60%, PL49
423	須恵器	環	[13.7]	4.1	[7.7]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	40%, PL49
424	須恵器	環	[13.6]	3.9	8.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	30%
425	須恵器	環	[11.4]	4.1	[8.0]	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	不良	底部回転ヘラ削り	覆土下層	20%
426	須恵器	甕	[23.6]	(6.2)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁横ナデ, 体部内面ヘラナデ	覆土下層	10%
427	灰軸陶器	水瓶	-	(10.3)	-	長石	にぶい赤褐 灰オリーブ	良好	ロクロ整形, 体部外面自然釉, 内面ナデ	覆土中層	20%

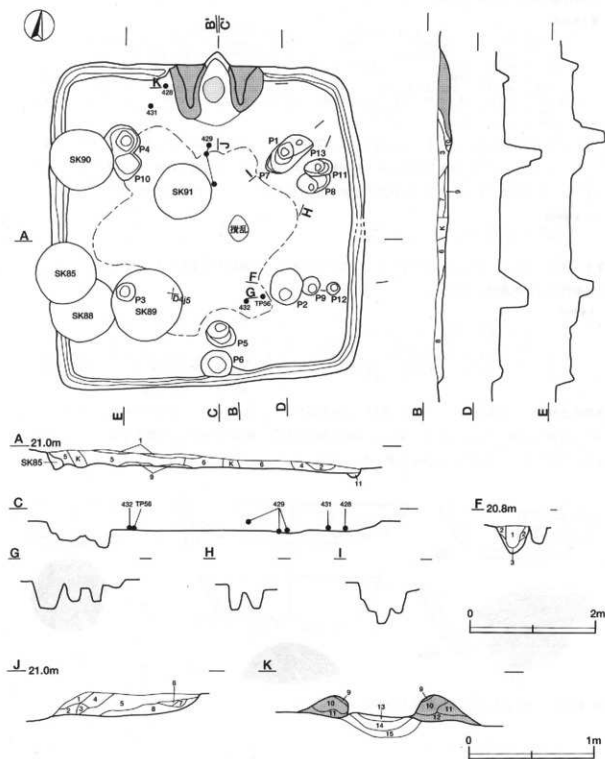
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M60	軸	φ (6.7)	0.6	0.2~0.4	(3.3)	鉄	断面長方形, 側面断面方形の棒状, 先端が鋭る	覆土中	PL62

第69号住居跡 (第146図)

位置 調査区の南部のD4区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 西部を第85・88・89・90号土坑に、中央部を第91号土坑にいずれも掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.19m、短軸4.98mの方形で、主軸方向はN-11°-Wである。壁高は10~25cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。



第146図 第69号住居跡実測図

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は確認された壁際を巡っており、全周していたものと推測される。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部は、粘土混じりのローム土の上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火熱により変色している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は15層からなり、第1～8層が竈内の覆土、第9～12層が袖部の土層で、第13～15層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1 暗 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	9 暗 赤 褐色	焼土粒子・ローム粒子中量
2 にぶい褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量	10 にぶい黄褐色	粘土ブロック・砂粒中量
3 黒 褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	11 黒 暗 褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量
4 灰 褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・砂粒微量	12 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、粘土粒子微量	13 暗 赤 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量
6 極 暗 褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子微量	14 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7 暗 赤 褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	15 暗 褐色	ロームブロック少量
8 暗 赤 褐色	焼土ブロック微量		

ピット 13か所。主柱穴は、P1～4が相当する。深さはP2・3が40cmほどで、P1・4が60cm前後と深くなっている。P2からは、柱痕と思われる土層が確認された。P5・6は竈と対峙する位置にあり、出入り口に伴うピットと考えられる。P7～13は深さが20～40cmまでのピットで、性格は不明である。

P2土層解説

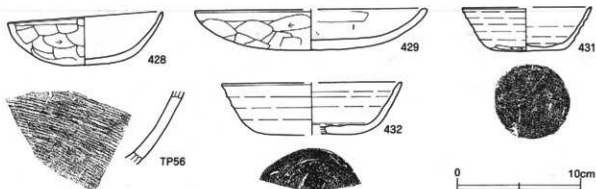
1 極 暗 褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量	3 暗 褐色	ロームブロック微量
2 暗 褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量		

覆土 11層からなる。堆積に乱れが見られることから、第1～4層は人為堆積である。第5層以下は、レンズ状に堆積する自然堆積である。

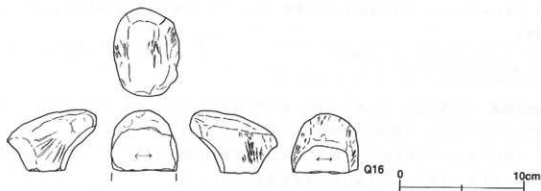
土層解説

1 灰 褐色	ローム粒子微量	7 暗 褐色	炭化物少量、焼土ブロック・ロームブロック・粘土粒子微量
2 灰 褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	8 灰 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 暗 褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	9 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 黒 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	10 灰 褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
5 灰 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 灰 褐色	ローム粒子微量
6 暗 褐色	焼土ブロック・ロームブロック微量		

遺物出土状況 土師器片174点(坏47, 甕127)、須恵器片22点、砥石1点が、全域から散在して出土している。多くの遺物は、覆土下層から出土している。432の須恵器坏は、南部の中央付近の覆土下層から出土している。所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第147図 第69号住居跡出土遺物実測図(1)



第148図 第69号住居跡出土遺物実測図(2)

第69号住居跡出土遺物観察表 (第147・148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
428	土師器	環	13.0	4.3	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	淡赤橙	普通	口縁横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ナデ	覆土下層	70%
429	土師器	環	[18.8]	3.3	-	雲母・長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	覆土下層	30%
431	須恵器	環	[10.6]	3.2	6.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	底部多方向のヘラ削り, 体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	60%, PL.50
432	須恵器	環	[14.6]	4.3	[7.0]	雲母・長石・石英	灰白	良好	底部回転ヘラ削り	覆土下層	30%
TP56	須恵器	甕	-	(6.1)	-	雲母・長石・石英	黒褐	良好	体部外面横位の平行叩き, 内面ヘラナデ, 当て具痕	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	紙石	(4.9)	5.4	7.0	(180.0)	凝灰岩	片割欠損, 紙面2面, 溝状の紙面3か所	P4覆土中	PL.59

第71号住居跡 (第149図)

位置 調査区の南部のE4g3区に位置し, 南に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状 東側部分が調査区域外に延びているため, 南北軸2.84m, 東西軸は2.32mだけが確認された。形状は方形または長方形と推定され, 主軸方向はN-7°-Eである。壁高は28~40cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部の南側が踏み固められている。壁溝は, 北壁中央から南壁中央にかけて周回している。

竈 北壁に付設されている。規模は笑口部から煙道部まで90cm, 両軸部幅105cmである。軸部は, 粘土泥じりのローム土で構築されている。火床面は, 床面と同じ高さの平坦面を使用し, 火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は10層からなり, 第1~5層が竈内の覆土, 第6~9層が軸部の土層で, 第10層は竈の掘り方の埋土である。

覆土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
2	暗褐色	炭化物少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量	8	にぶい黄褐色	粘土粒子多量, ローム粒子・砂粒少量
4	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	9	褐色	ロームブロック少量
5	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	10	極暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量

ピット 主柱穴は, 確認できなかった。

覆土 7層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。第3～6層には焼土や炭化物の混入が多い。

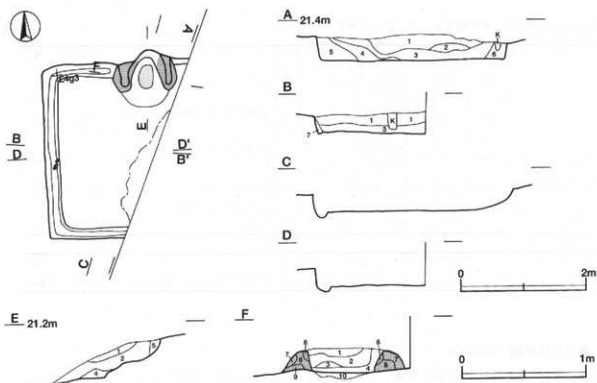
土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量	6	黒褐色	焼土粒子中量、炭化物少量、ローム粒子微量
3	極暗褐色	炭化物中量、焼土粒子少量、ロームブロック微量	7	暗褐色	ローム粒子中量
4	極暗褐色	炭化物・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量			

遺物出土状況 土師器片4点、須恵器片3点が、覆土中から出土している。小片であり、図示できなかった。

西壁際の中央付近からは、柱状の炭化材が壁と平行して出土している。

所見 本跡は床面から炭化材が出土し、覆土中に焼土や炭化物が多量に含まれていることから、焼失住居の可能性が考えられる。時期は、出土土器片から8世紀前葉と考えられる。



第149図 第71号住居跡実測図

第72号住居跡 (第150図)

位置 調査区の南部のE4h2区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状 東側部分が調査区域外に延びているため、南北軸4.82m、東西軸は2.58mだけが確認された。形状は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-8°-Eである。壁高は6～24cmで、北壁はほぼ直立し、西壁・南壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、竈の西側から南壁際にかけて中央部が踏み固められている。壁溝は、確認された壁際を周回している。北壁際には、焼土の堆積が確認された。

竈 北壁に付設されている。確認できる規模は、焚口部から煙道部まで102cm、両袖幅50cmである。袖部は、粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し、火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。土層は21層からなり、第1～15層が竈内の覆土、第16～19層が袖部の土層で、第20・21層は竈の掘り方の埋土である。

土層解説

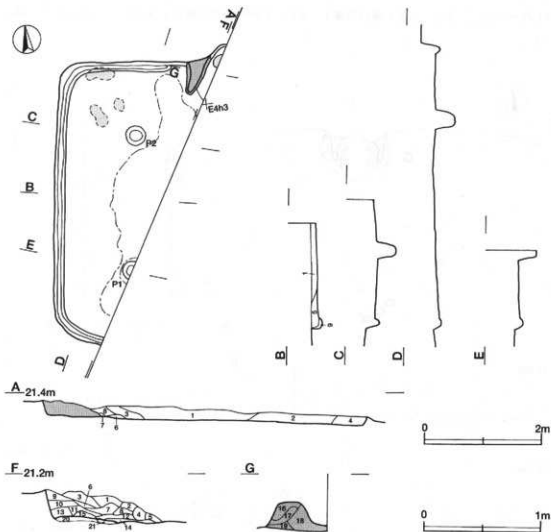
1	にぶい赤褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	12	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量	13	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
3	褐色	粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量	14	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	15	暗赤褐色	焼土粒子多量
5	にぶい褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・砂粒少量
6	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	17	にぶい黄褐色	粘土粒子多量, ローム粒子中量
7	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	18	暗褐色	炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
8	にぶい赤褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子微量	19	褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
9	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量	20	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	21	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量
11	暗赤褐色	焼土ブロック微量			

ピット 2か所。主柱穴はP1・2が相当し、深さは30cm前後である。

覆土 9層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量	6	にぶい赤褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2	黒褐色	焼土粒子少量, ローム粒子微量	7	褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	8	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	9	褐色	ローム粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量			



第150図 第72号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片28点、須恵器片1点、不明鉄製品1点が、全城から点在して出土している。覆土下層から出土した遺物が多い。小片であり、図示できなかった。

所見 本跡は床面に焼土の堆積があり、覆土中に焼土が混入していることから、焼失住居の可能性が考えられる。時期は、出土土器片から8世紀中葉と考えられる。

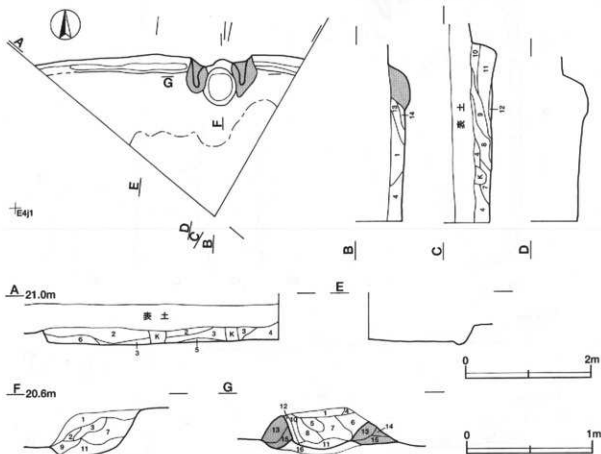
第73号住居跡 (第151図)

位置 調査区の南部のE 411区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状 東側・南側部分が調査区域外に延びているため、南北軸2.58m、東西軸4.28mだけが確認された。形状は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-1°-Eである。壁高は22~40cmで、確認できる北壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈の南側がよく踏み固められている。壁溝は、確認できた北壁際を巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで75cm、両袖部幅112cmである。袖部は、粘土混じりのローム土の上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は、床面をやや掘り下げた高さの平坦面を使用している。火熱により赤変硬化した面は、確認できなかった。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。土層は16層からなり、第1~12層が竈内の覆土、第13~15層が袖部を構築する土層で、第16層は竈の掘り方の埋土である。



第151図 第73号住居跡実測図

富士層解説

1	暗 緑 色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2	空 洞 色	焼土ブロック・砂粒少量、ローム粒子微量
3	灰 緑 赤 褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
4	黒 褐 色	砂粒中量、焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
5	紫 赤 褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
6	黒 褐 色	粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
7	灰 緑 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
8	灰 緑 赤 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量

9	黒 褐色	炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量
10	灰 緑 赤 褐色	焼土粒子・ローム粒子少量
11	黒 褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量
12	暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
13	にぶい黄褐色	砂粒多量、ローム粒子・粘土粒子中量
14	暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、砂粒少量
15	暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量
16	暗 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量

ビット 主柱穴は、確認できなかった。

覆土 14層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積と考えられる。

土層解説

1	褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5	にぶい褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量・粘土粒子微量
6	黒 褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
7	褐 色	ロームブロック・焼土粒子微量

8	暗 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
9	暗 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
10	褐 色	ロームブロック微量
11	褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ロームブロック微量
12	褐色	ローム粒子中量
13	暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
14	褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片28点、須恵器片1点が、竈の東側の覆土下層から集中して出土している。小片であり、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器片から8世紀前半と考えられる。

第74号住居跡 (第152図)

位置 調査区の南部のE 4区5区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状 西側部分が調査区域外に延び、東側も攪乱を受けているため、南北軸3.80m、東西軸2.64mだけが確認された。形状は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-20°-Eである。壁高は30cmで、確認できた北壁の一部は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は、確認できなかった。

竈 北壁に付設されている。遺存状態が非常に悪く、確認できる規模は笑口部から煙道部まで80cm、両袖部幅95cmである。袖部は、粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し、火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は10層からなり、第1～5層が竈内の覆土、第6～9層が袖部の土層で、第10層は竈の掘り方の埋土である。

富士層解説

1	暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子少量
2	暗 褐色	ローム粒子中量、粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量
3	暗 褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
4	暗 褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量
5	暗 赤 褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量

6	暗 赤 褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量
7	にぶい黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・砂粒中量、焼土粒子微量
8	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
9	褐色	ローム粒子多量、粘土粒子中量、焼土粒子・砂粒少量
10	暗 赤 褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量

ビット 1か所。主柱穴は、確認できなかった。P1は竈と対峙する位置にあり、出入り口に伴うビットと考えられる。

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

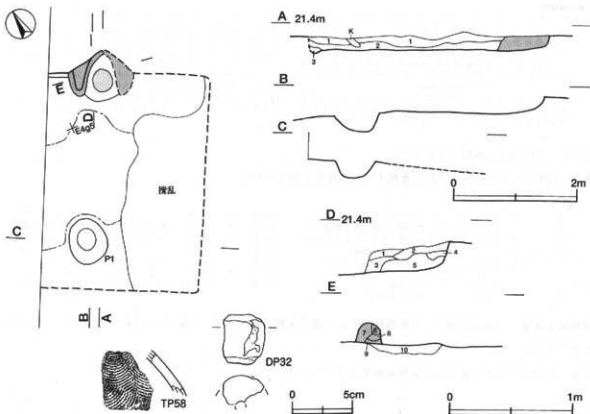
土層解説

1	黒 褐色	炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量
2	赤 褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

3	黒 褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
---	------	----------------

遺物出土状況 土師器片10点、須恵器片3点、輪郭口1点が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器片から8世紀前半と考えられる。



第152図 第74号住居跡実測図

第74号住居跡出土遺物観察表 (第152図)

番号	器種	口径	底径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP58	須恵器	丸	-	(3.9)	-	赤土・灰石・石灰	灰黄褐色	普通	体部外面同心円の叩き、内面ナデ	礎礎土中	

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP32	土製	4.1	5.0	1.0	(32.9)	土製	外面ヘラ削り	礎礎土中	PL58

第76号住居跡 (第153図)

位置 調査区の南部のE 4 d7区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状 北側部分が調査区域外に延びているため、南北軸2.58m、東西軸3.86mだけが確認された。形状は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は7~17cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほは平坦で、中央部から南壁際の中央にかけて踏み固められている。壁溝は、西壁際から南壁際中央まで通っている。

竈 北壁または東壁に付設されていると推測されるが、調査区域外であるため不明である。

ピット 2か所。主柱穴はP1が相当し、深さは30cmである。他の主柱穴は、確認できなかった。P2は南壁際にあり、出入り口に伴うピットの可能性が考えられる。

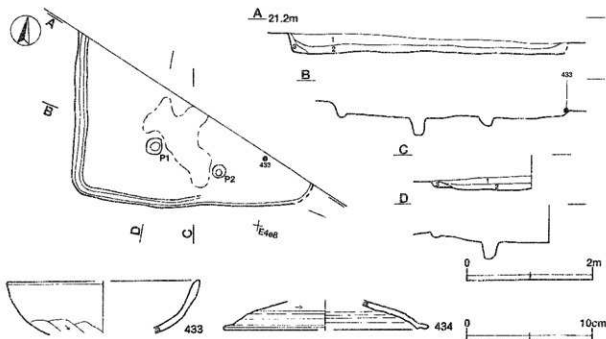
覆土 3層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 暗 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量
 2 黒 暗 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
 3 暗 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片21点、須恵器片3点が、南東コーナー部付近に点在して出土している。覆土下層から出土した遺物が多い。433の土師器環は、南東コーナー部付近の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前後と考えられる。



第153図 第76号住居跡・出土遺物実測図

第76号住居跡出土遺物観察表（第153図）

番号	種別	器種	L径	器高	口径	胎土	色澤	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
433	土師器	環	15.4	(4.2)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	口縁・体部内部張りナシ、外面ヘラ削り	覆土下層	5%
434	須恵器	釜	14.4	(2.4)	-	黒母長石・石英	灰黄	良焼	天部部右回りの割製ヘラ削り	覆土中	5%

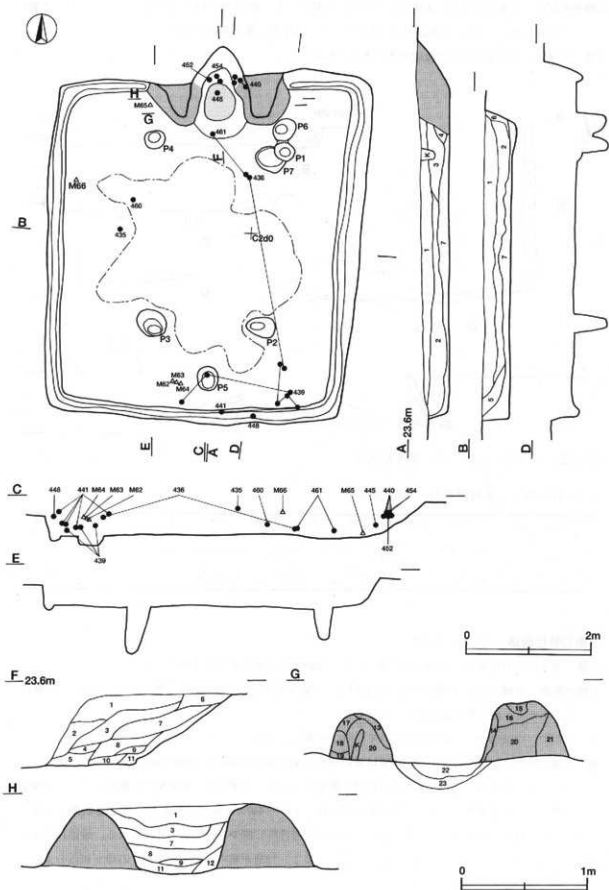
第77号住居跡（第154・155図）

位置 調査区の中央部のC2d9区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

規模と形状 長軸5.60m、短軸4.98mの長方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は30~52cmで、北壁は外傾して立ち上がり、他の壁はほぼ直立している。

床 平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝は、全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は笑口部から煙道部まで148cm、両袖部幅226cmである。袖部は、ローム土の上にローム土混じりの粘土を貼り付けて構築している。火床面は、床面をやや掘り下げた平坦面を使用し、火熱により赤変硬化している。火床面の20cmほど上から440の土師器小形甕と445の土師器甕の底部が遺位で重ねられた状態で検出されている。何らかの意図で埋没時に置かれたものと考えられる。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。上層は23層からなり、第1~12層が竈内の覆土、第13~21層が袖部の土層で、第22・23層が竈の掘り方の埋土である。



第154图 第77号住居跡実測图(1)



第155図 第77号住居跡実測図(2)

覆土層解説

- | | | | |
|-----------|---------------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 14 赤褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 炭化物少量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 15 灰褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒色 | 炭化物少量、焼土ブロック微量 | 16 褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 17 にぶい褐色 | 炭化物・粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 18 褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 19 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 8 赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 20 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量 | 21 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 10 赤褐色 | 焼土粒子微量 | 22 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 11 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 23 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 12 黒褐色 | 粘土粒子多量、砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | | |

ピット 7か所。主柱穴はP1～4が相当する。深さはP3が77cmと深い、他は50cm前後である。P5は竈と対峙する位置にあり、出入口に伴うピットと考えられる。P6は深さ47cm、P7が深さ13cmのピットであり、性格は不明である。

覆土 7層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。第7層には、炭化材や焼土の混入が顕著であり、焼失に伴う層である。

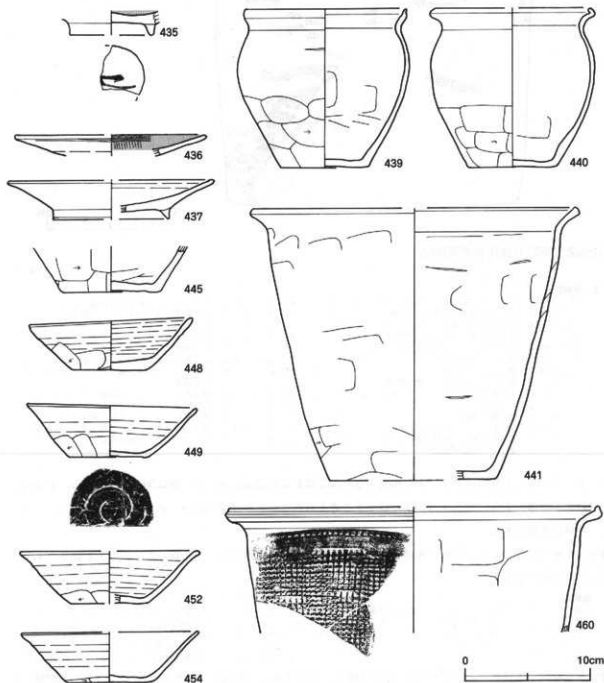
土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒暗褐色 | 炭化物・焼土粒子・ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化物中量、焼土粒子・ローム粒子少量 | 5 黒暗褐色 | 炭化物・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 3 黒暗赤褐色 | 炭化物中量、焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 6 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | | 7 黒暗赤褐色 | 炭化物多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量 |

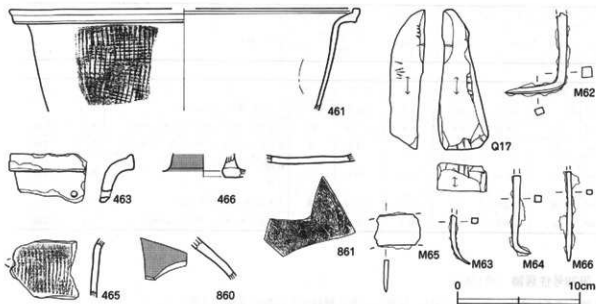
遺物出土状況 土師器片792点(坏53, 高台付碗1, 高台付皿2, 甕736), 須恵器片427点(坏135, 甕286, 鉢6), 灰胎陶器3点, 磁石1点, 釘4点, 鎌1点, 多数の炭化材が、全城から散在して出土している。多くの遺物は覆土上層から出土している。炭化材が、覆土下層から多数出土し、住居の中心から放射状に広がる様相

を示している。焼土も炭化材に伴い確認された。炭化材は、屋根材であった可能性が考えられる。452・454の須恵器坏は、竈の覆土中層から出土している。覆土中から出土した463・465の須恵器鉢は丁寧に穿孔されており、破損部の補修を行ったものと考えられる。覆土中から出土した466・860・861は、猿投産の灰軸陶器の長頸瓶である。

所見 本跡は、炭化材が床面から多量に確認され、覆土中にも炭化材や焼土が含まれていることから、焼失住居と考えられる。覆土上層から出土した遺物は、焼失後の投げ込みみと考えられる。時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第156図 第77号住居跡出土遺物実測図(1)



第157図 第77号住居跡出土遺物実測図(2)

第77号住居跡出土遺物観察表 (第156・157図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
435	土師器	高台付皿	-	(2.0)	(6.8)	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け、内面ヘラ磨き	覆土上層	10%、底部外面墨書「子」 PL57
436	土師器	高台付皿	[15.2]	(1.7)	-	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面上位・内面ヘラ磨き	覆土中層	40%
437	土師器	高台付皿	[16.6]	3.1	(9.4)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土中	20%
439	土師器	小形甕	[13.0]	12.7	7.0	長石・石英	灰褐	普通	口縁横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	覆土下層	70%、PL50
440	土師器	小形甕	[12.6]	12.8	7.0	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	覆土下層	50%
441	土師器	鉢	[26.0]	21.9	[13.0]	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁横ナデ、体部外面上位・内面ヘラナデ、外面下位ヘラ削り、内面輪磨のみ	覆土中層	40%
445	土師器	羹	-	(3.7)	7.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	覆土下層	30%
448	須恵器	坏	13.2	4.1	6.0	長石・石英	灰	良好	底部一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	80%、PL50
449	須恵器	坏	13.6	4.0	6.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	70%、底部外面墨書「一」 PL50
452	須恵器	坏	[14.2]	4.2	[6.0]	長石・石英・赤色粒子	褐灰	良好	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	40%
454	須恵器	坏	[14.2]	4.1	6.8	雲母・長石・石英	灰黄	不良	底部一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	30%
460	須恵器	鉢	[29.8]	(10.2)	-	雲母・長石・石英	灰白	良好	口縁横ナデ、体部外面格子目の叩き、内面ヘラナデ	覆土中層	10%
461	須恵器	鉢	[28.6]	8.3	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ、体部外面格子目の叩き、内面当て具直	覆土中層	10%
463	須恵器	鉢	-	(4.0)	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	口縁横ナデ、体部に補修孔	覆土中	5%
465	須恵器	鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	良好	体部外面格子目の叩き、内面ナデ、体部に補修孔	覆土中	5%
466	須恵器	長頸瓶	-	(1.9)	-	長石	灰黄・灰黄褐	良好	ロクロ整形	覆土中	5%
860	須恵器	長頸瓶	-	(3.4)	-	緻密	灰白・灰ナリ	良好	ロクロ整形	覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴	出土位置	備考
861	尖唇陶器	長頸瓶	-	(0.9)	-	硬質	灰白・オリーブ灰	良好	口口の整形	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	底径	材質	特徴	出土位置	備考
Q17	缸	11.4	4.1	2.4	139.9	凝灰岩	底面2面、溝状の紙面5か所	覆土中	
M62	釘	(6.8)	0.8	0.8	(31.8)	鉄	断面方形の棒状、脚部は直角に屈曲	覆土上層	PL62
M63	釘	(4.1)	0.5	0.4	(3.1)	鉄	断面長方形の棒状、脚部湾曲、先端尖る	覆土上層	PL62
M64	釘	(6.6)	0.7	0.5	(9.9)	鉄	断面長方形の棒状、脚部は直角に屈曲、先端尖る	覆土上層	PL62
M65	釘	(3.9)	2.4	0.4	(22.5)	鉄	片丸形・基部欠損、刃部湾曲	床	南
M66	釘	(6.6)	0.7	0.5	(9.9)	鉄	断面長方形の棒状、脚部先端屈曲して尖る	覆土上層	PL62

第78号住居跡 (第158図)

位置 調査区の中央部のC311区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

規模と形状 長軸3.68m、短軸3.09mの長方形で、主軸方向はN 90° Eである。壁高は17~21cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部から南壁にかけてと竈1の左袖の西側が踏み固められている。壁溝は、西壁中央から北壁の北東コーナー部付近まで巡っている。

竈 2か所。竈1は東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで93cm、両袖部幅120cmである。袖部は、ローム土の上にローム土混じりの砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は床面をやや掘り下げた平坦面を使用し、火熱により赤変硬化している。煙道は、火床面から緩やかに立ち上がっている。竈1は11層からなり、第1~9層が竈内の覆土で、第10・11層は竈の掘り方の埋土である。竈2は、北壁中央部やや西寄りに付設され、煙道部だけを検出している。壁外への掘り込みは37cm、幅は66cmである。煙道は、緩やかに立ち上がっている。竈2の煙道は3層からなる。竈1が完存し、竈2は煙道部だけが残存していることから、竈2から竈1へ作り替えたことが考えられる。

竈1土層解説

1 黒褐色	粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 濃い黄褐色	砂粒多量、粘土粒子中量、ローム粒子微量
2 黒色	炭化粒子・ローム粒子微量	7 暗赤褐色	焼土ブロック少量
3 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量	8 黒褐色	粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
4 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	9 暗赤褐色	炭化物中量、焼土粒子・ローム粒子微量
5 黒褐色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	10 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量
		11 暗褐色	ロームブロック中量

竈2土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	3 黒褐色	炭化物・焼土粒子少量、ローム粒子微量
2 黒褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量		

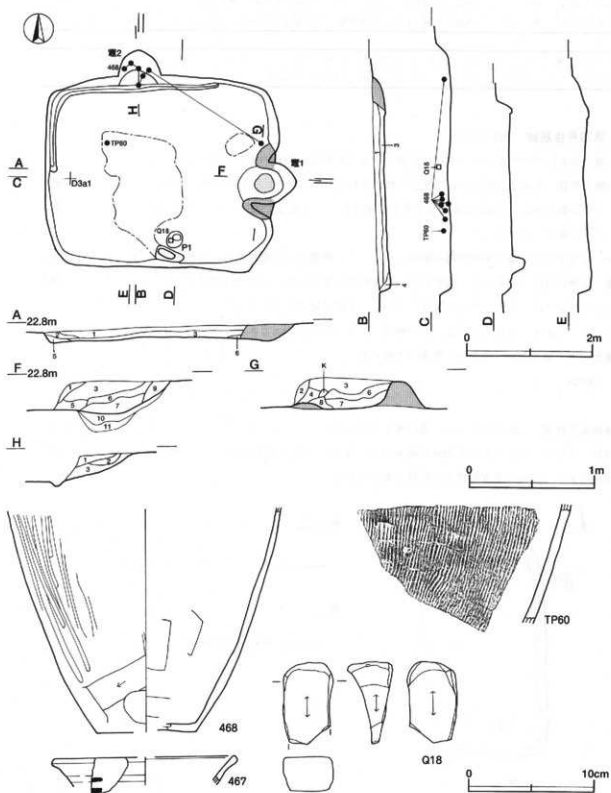
ピット 1か所。主柱穴は、確認できなかった。P1は竈2と対峙する位置にあり、出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 6層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	4 暗褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子微量	5 褐色	ロームブロック微量
3 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子微量	6 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片225点、須恵器片53点、砥石1点が、中央部を中心に全域から散在して出土している。多くの遺物は、覆土下層から出土している。墨書土器である467の須恵器杯は、覆土中から出土している。所見 本跡は、竈を作り替えた住居である。時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第158図 第78号住居跡・出土遺物実測図

第78号住居跡出土遺物観察表 (第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
467	須恵器	環	[14.4]	(2.2)	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	口クロ整形	覆土中層	5%, 体部外面墨書「□」
468	土師器	甕	-	[18.0]	[8.0]	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面へつ磨き, 内面へクナデ	覆土下層	30%
TP60	須恵器	甕	-	(9.5)	-	雲母・長石・石英	灰黄褐色	普通	体部外面縦位の平行凹み, 内面ナデ, 底て具痕	覆土中層	

番号	機種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	砥石	(6.6)	4.1	3.6	(84.9)	凝灰岩	砥削3面	覆土中層	

第79号住居跡 (第159図)

位置 調査区の中央部のD 3 d1区に位置し, 南に傾斜する台地の東部に立地している。

規模と形状 床面まで削平された状態で検出されたため, 竈やピットの位置から判断して, N-2°-Wを主軸とする長軸4.00m, 短軸3.45mの長方形と推定される。床面まで削平された状態で検出されたため, 壁の立ち上がりは確認できなかった。

床 ほぼ平坦で, 竈の南側が踏み固められている。壁溝は, 北壁西側から南壁中央部にかけて周回している。

竈 北壁に付設されている。削平により遺存状態が非常に悪く, 袖部は確認できなかった。火床面・袖部と思われる部分には, 焼土や粘土が散在している。土層は確認できなかった。

ピット 2か所。主柱穴はP1・2が相当し, 深さは8~19cmである。

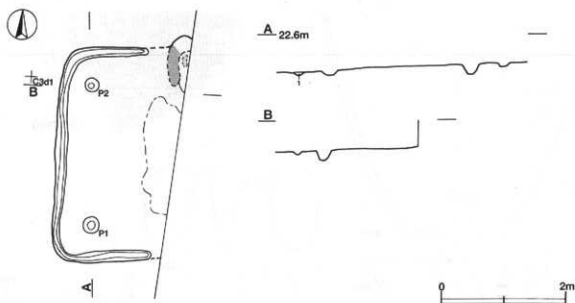
覆土 単一層である。第1層は壁溝の土層である。

土層解説

1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片3点が, 竈の覆土中から出土している。小片であり, 図示することができなかった。

所見 時期は, 出土土器片や南東方向8mに位置する9世紀前葉と推定される第58号住居跡とほぼ同方向・同規模であることから平安時代の可能性が考えられる。



第159図 第79号住居跡実測図

第80号住居跡 (第160・161図)

位置 調査区の西部のC 1e5区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

重複関係 第95号住居跡の北部を、第94号住居跡の南東コーナー付近をいずれも掘り込んでいる。

規模と形状 長軸7.30m、短軸6.30mの長方形で、主軸方向はN-2°-Wである。敷高は15~60cmで、各壁とも外積して立ち上がっている。

床 平坦で、東・西壁際を除いてほぼ全面がよく踏み固められている。壁溝は、全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで200cm、両袖部幅210cmである。袖部は、砂質粘土で構築されている。火床面は、床面をやや掘り下げた面を使用し、火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は30層からなり、第1~21層が竈内の覆土、第22~28層が袖部の土層で、第29・30層は竈の掘り方の埋土である。

甌土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量	16 暗 赤褐色	灰土ブロック・灰中量、ローム粒子少量
2 暗 褐色	粘土粒子中量、炭化物・焼土粒子・ローム粒子・砂粒少量	17 暗 赤褐色	焼土粒子多量、灰少量
3 におい黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・砂粒中量	18 暗 赤褐色	焼土粒子・炭化物中量、ローム粒子少量
4 におい黄褐色	粘土粒子多量、砂粒中量、ローム粒子少量	19 黒 色	炭化物中量、焼土粒子・ローム粒子少量
5 暗 黒 色	ローム粒子中量、粘土粒子・砂粒・小礫少量	20 赤 褐色	焼土粒子多量
6 におい黄褐色	粘土ブロック・砂粒中量、炭化粒子・ローム粒子少量	21 暗 赤褐色	焼土粒子・砂粒中量、炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量
7 暗 赤褐色	粘土粒子中量、砂粒・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量	22 におい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量、小礫微量
8 におい黄褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量	23 暗 褐色	粘土粒子多量、砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量
9 暗 褐色	粘土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量	24 におい黄褐色	砂粒多量、粘土粒子中量
10 におい黄褐色	砂粒多量、粘土粒子中量	25 暗 赤褐色	焼土粒子多量、砂粒中量、粘土粒子少量
11 赤 褐色	粘土粒子多量	26 暗 褐色	粘土粒子・砂粒中量、炭化粒子少量
12 暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、砂粒少量、焼土粒子微量	27 暗 褐色	粘土粒子中量、粘土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量
13 黒 褐色	粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子微量	28 暗 褐色	粘土粒子多量、砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
14 暗 赤褐色	粘土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量、炭化粒子少量	29 黒 色	ローム粒子多量、炭化物中量、焼土粒子少量
15 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量	30 暗 赤褐色	灰土ブロック・ロームブロック中量、炭化粒少量

ピット 5か所。主柱穴は、P1~4が相当する。深さはP2・4が90cmほどで、P1・3が60cmほどである。P5は竈と対峙する位置にあり、出入り口に伴うピットと考えられる。

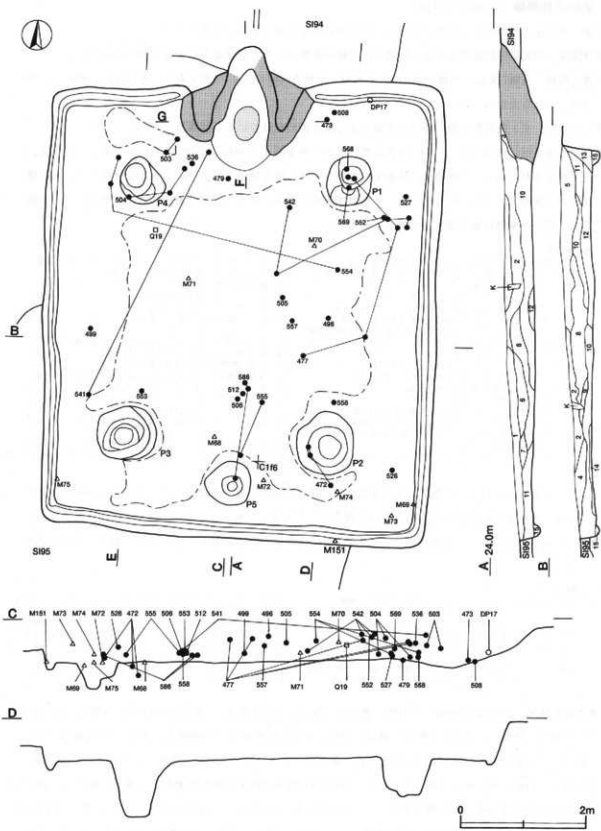
覆土 15層からなり、自然堆積である。第8・10層には多量の粘土が混入しているが、竈からの流れ込みと考えられる。

土層解説

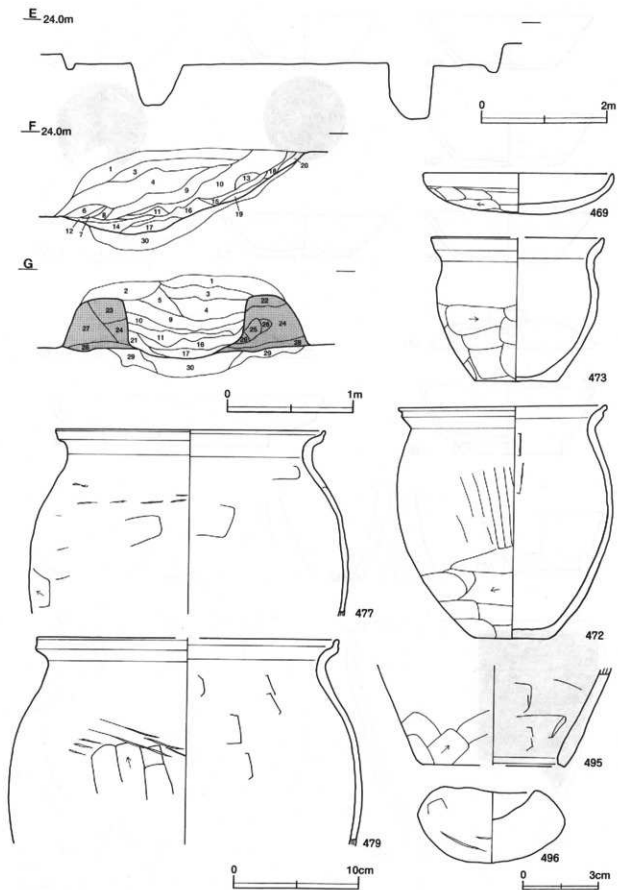
1 暗 褐色	炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量	8 暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、炭化粒子・砂粒少量
2 黒 褐色	炭化物・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量	9 暗 褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
3 黒 褐色	粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子微量	10 におい黄褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量、小礫少量
4 暗 褐色	ローム粒子中量、粘土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	11 暗 褐色	ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子少量
5 黒 褐色	炭化物中量、焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量	12 暗 褐色	炭化物・ローム粒子少量、粘土粒子微量
6 暗 褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	13 暗 褐色	ロームブロック少量
		14 暗 褐色	ローム粒子多量、灰土ブロック・炭化粒子少量
		15 暗 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片1869点(坏102, 甕1765, 瓶1, 手捏土器1), 須恵器片833点(坏388, 高台付坏16, 高台付盤9, 高甕2, 蓋119, 甕271, 鉢14, 瓶10, 壺1, 長頸瓶1, 円面鏡1, 鏡1), 灰釉陶器2点, 土製文脚1点, 金床石1点, 砥石1点, 刀子5点, 鎌2点, 釘1点が、全城から散在して出土している。多くの遺物は第8・10層より上層から出土している。554の須恵器鉢は住居中央部の東寄りの覆土中層から、586の須恵器瓶は住居中央部の南寄りの覆土中層から、569の須恵器甕は住居中央部の北東コーナー部寄りの覆土中層から出土している。591の須恵器円面鏡は覆土中から出土しており、混入の可能性も考えられる。570・572の灰釉陶器長頸瓶は、覆土中から出土している。覆土上層の遺物は、第8・10層が堆積した後の投げ込みと考えられる。

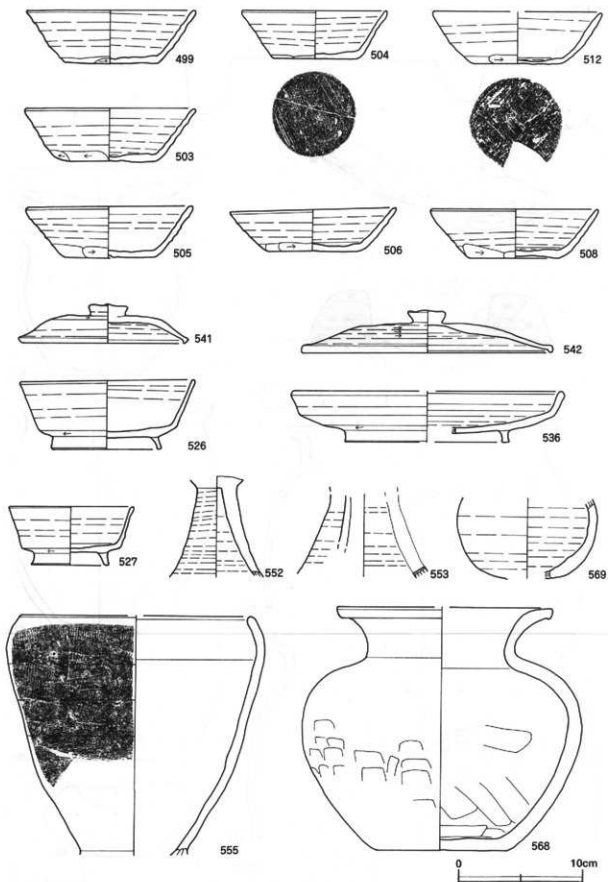
所見 本跡は、大形住居である。時期は、出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



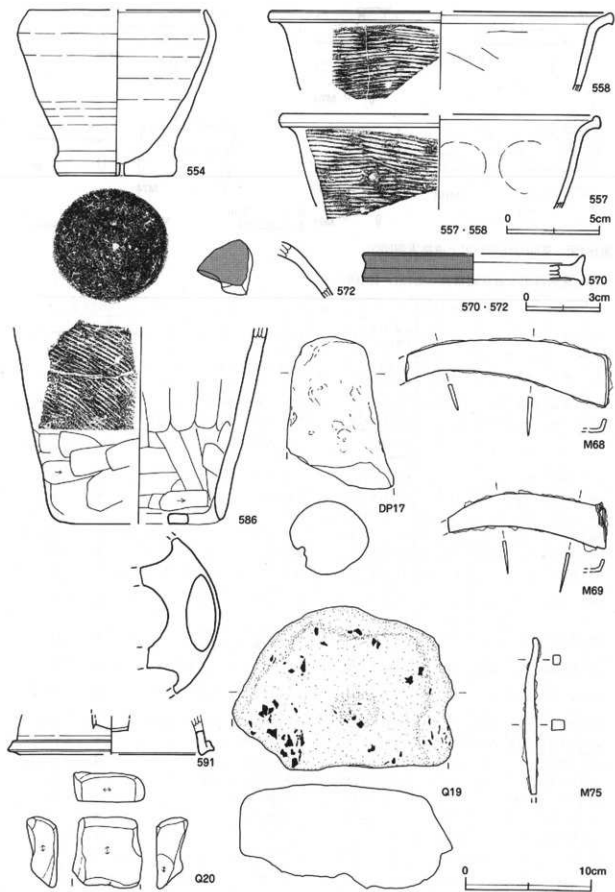
第160图 第80号住居跡实测图



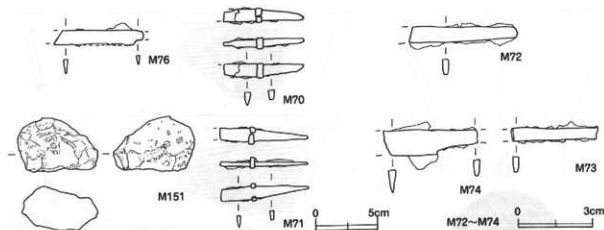
第161圖 第80号住居跡・出土遺物実測図



第162图 第80号住居跡出土遺物実測図(1)



第163图 第80号住居跡出土遺物実測図(2)



第164図 第80号住居跡出土遺物実測図(3)

第80号住居跡出土遺物観察表 (第161~164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色面	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
469	土師器	環	15.2	3.4	5.2	雲母・石英・赤色粒子	明褐色	普通	口縁横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ナデ	覆土中	70%, PL51
472	土師器	小形壺	16.8	18.9	6.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁横ナデ, 体部外面上位ヘラナデ, 下位ヘラ削り, 内面ヘラナデ	覆土下層	70%, PL51
473	土師器	小形壺	[13.8]	11.5	6.6	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	床	60%, PL51
477	土師器	壺	21.6	(14.7)	-	雲母・長石・石英	褐色	普通	口縁横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	覆土中層	30%
479	土師器	壺	[24.2]	(16.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	覆土下層	20%
495	土師器	瓶	-	(8.0)	[11.4]	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	遺覆土中	5%
496	土師器	手摺	3.7	3.1	-	長石・石英	褐色	普通	外面ヘラナデ	覆土上層	100%
499	須恵器	環	13.6	4.4	7.6	雲母・長石・石英	灰白	良好	底部多方向のヘラ削り, 体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	99%, PL51
503	須恵器	環	13.6	4.4	7.6	雲母・長石・石英	黄灰	良好	底部二方向のヘラ削り, 体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	80%, PL50
504	須恵器	環	11.8	3.9	6.8	長石・石英	灰	良好	底部一方向のヘラ削り, 体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	70%, PL51
505	須恵器	環	13.4	4.3	7.0	長石・石英	灰	良好	底部一方向のヘラ削り, 体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	70%
506	須恵器	環	13.4	3.6	7.6	雲母・長石・石英	黄灰	不良	底部回転ヘラ切り後, 一方向のヘラ削り, 体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	70%, PL51
508	須恵器	環	13.4	4.1	7.4	雲母・長石・石英	にぶい橙	不良	底部回転ヘラ切り後, 多方向のヘラ削り, 体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	70%, PL51
512	須恵器	環	[13.6]	4.3	7.0	長石・石英	灰灰	良好	底部二方向のヘラ削り, 体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	50%, PL52
526	須恵器	高台付環	14.0	5.6	8.4	長石・石英・赤色粒子	黄灰	良好	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	覆土中層	70%, PL50
527	須恵器	高台付環	10.0	4.8	6.2	雲母・長石・石英	灰白	良好	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	覆土下層	70%, PL50
536	須恵器	高台付壺	[21.8]	4.2	[13.4]	雲母・長石・石英	褐色	良好	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	覆土中層	25%
541	須恵器	蓋	13.2	3.2	-	雲母・長石・石英	黄灰	良好	天井部右回りの回転ヘラ削り	覆土中層	85%, PL50
542	須恵器	蓋	20.2	3.5	-	雲母・長石・石英	黄灰	良好	天井部右回りの回転ヘラ削り	覆土中層	PL50
552	須恵器	高盤	-	(8.2)	-	雲母・長石・石英	灰白	普通	脚部内・外面クロコナデ	覆土上層	10%
553	須恵器	高盤	-	(7.2)	-	雲母・長石・石英	褐色	良好	脚部内・外面クロコナデ, 孔は3孔式	覆土下層	5%
554	須恵器	鉢	[14.2]	13.3	9.0	長石	灰	良好	体部内・外面クロコナデ, 底部ヘラ削り, 有孔	覆土中層	70%, PL51
555	須恵器	鉢	[18.5]	(19.4)	-	長石・石英	黒褐色	良好	体部内・外面クロコナデ	覆土中層	20%
557	須恵器	鉢	[33.8]	(10.2)	-	雲母・長石	灰	普通	口縁横ナデ, 体部外面横位の平行削り, 内面当て具痕	覆土中層	10%

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	構成	手法の特徴	出土位置	備考
558	須臾器	鉢	30.2	8.3	-	長石・石英・ 褐色矽子	灰	良好	口縁積みず、体部外面傾位の平行明き、内面ヘラナゲ	覆土中層	5%
568	須臾器	壺	117.5	19.7	10.5	長石・石英	黒褐色	普通	口縁積みず、体部外面傾斜、明き、内面ヘラナゲ	覆土下層	95%、PL51
569	須臾器	壺	-	65.0	-	長石・石英	灰	良好	体部外面下位へラナゲ、自然柱	覆土中層	15%、PL50
570	須臾器	鉄器	38.4	(1.2)	-	長石	灰黄・灰オリ ープ	良好	ロウロ整形	覆土中層	3%
572	須臾器	鉄器	-	(2.2)	-	長石	灰白・灰オリ ープ	良好	ロウロ整形	覆土中層	5%
586	須臾器	甕	-	(15.0)	(12.8)	赤土・長石・ 石英	褐色	良好	体部外面傾位の平行明き、下位へラナゲ、内面ヘラナゲ	覆土中層	15%
591	須臾器	円筒甕	-	(3.2)	(14.4)	長石	灰	良好	孔へラ切	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP17	支脚	(12.2)	7.8	5.9	(486.2)	土製	銅面ナゲ、燒然痕	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q19	金床石	(13.3)	(12.7)	7.4	(2711.6)	花崗岩	上面面に乳分付着	覆土上層	PL59
Q20	紅石	(5.7)	5.7	2.5	(85.0)	凝灰岩	紅面3面	覆土中層	
M88	鎌	(16.3)	4.3	0.3	(75.1)	鉄	切先部欠損、刃部湾曲、基部は全体を折り返す	床面	PL60
M69	鎌	(12.5)	3.4	0.2	(43.5)	鉄	切先部欠損、刃部湾曲、基部は全体を折り返す	床面	PL60
M75	釘	12.7	1.0	0.7-0.8	37.6	鉄	断面長方形の棒状、頭部湾曲	覆土中層	PL62
M151	鉄器	4.5	6.6	3.8	98.1	鉄	輪形洋	床面	PL62

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
M70	刀子	(6.5)	(2.8)	1.0	0.5	3.7	(88.0)	鉄	刃部欠損、尖鋭、高鋭部長着	覆土上層	PL61
M71	刀子	(7.2)	(2.5)	1.1	0.4	4.7	(7.6)	鉄	刃部欠損、鈍鋭、鉄製留具残着	覆土中層	PL61
M72	刀子	(4.4)	-	0.6	0.3	(4.4)	(3.3)	鉄	基部破片、尖鋭部	覆土下層	
M73	刀子	(3.5)	-	-	0.2	(3.5)	(1.4)	鉄	基部破片、尖鋭部	覆土中層	
M74	刀子	(3.8)	(2.1)	1.0	0.3	(1.7)	(4.3)	鉄	刃部・基部欠損、鈍鋭	覆土中層	
M76	刀子	(7.2)	(6.6)	1.1	0.3	(0.6)	(7.6)	鉄	刃部・基部欠損、鈍鋭	覆土中層	

第81号住居跡 (第165図)

位置 調査区の中央部のC2a4区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

規模と形状 長軸3.86m、短軸3.80mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は45cmで、南壁はほぼ直立し、他の壁はいずれも外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は、北壁の西側を除いて周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は突口部から煙道部まで106cm、両袖部幅120cmである。袖部は、粘土泥じりのローム上で構築されている。火床面は、床面とほぼ同じ高さの面を使用している。火熱により変しているが、硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。煙道からは、DP18の支脚が検出されている。上層は9層からなり、いずれも竈内の覆土である。

覆土層解説

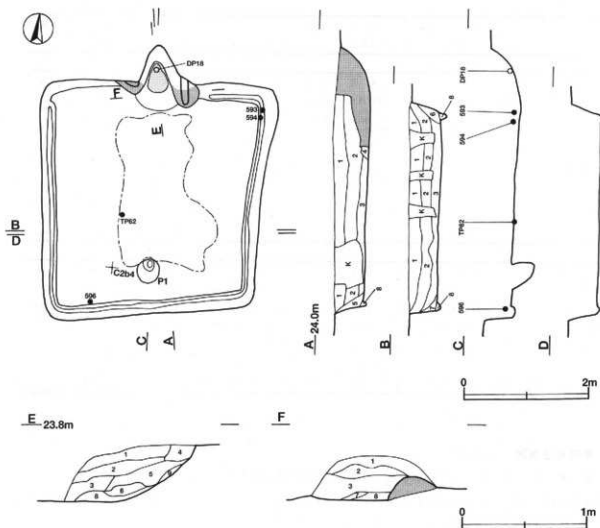
1 暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量	6 暗 褐色	ロームブロック・粘土粒子中量, 焼土ブロック・砂粒少量
2 暗 褐色	ロームブロック中量	7 黒 褐色	粘土粒子中量, 炭化物・砂粒少量, ローム粒子微量
3 暗 褐色	粘土粒子多量, ローム粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	8 極暗赤褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量
4 暗 褐色	ローム粒子中量, 砂粒少量, 焼土ブロック微量	9 極暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
5 暗 褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量		

ピット 1か所。主柱穴は、確認できなかった。P1は竈と対峙する位置にあり、出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1 暗 褐色	炭化粒子・ローム粒子微量	5 灰 褐色	ローム粒子微量
2 灰 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック微量
3 褐色	ローム粒子少量	7 灰 褐色	ロームブロック微量
4 灰 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	8 暗 褐色	ローム粒子中量

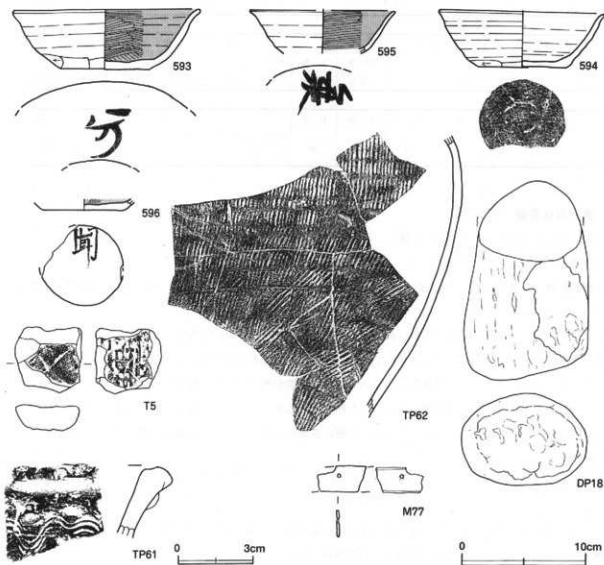


第165図 第81号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片232点(坏33, 甕199), 須恵器片113点(坏30, 高台付盤1, 甕80, 鉢2), 土製支脚1点, 刀子1点, 不明銅製品1点, 瓦1点が、全域から点在して出土している。多くの遺物は、覆土上層から出土している。墨書土器である593と594の土師器坏は北東コーナー部の床面から逆位で重なった状態で出土している。墨書土器である596の土師器坏は南西コーナー部付近の覆土下層から、同じく墨書土器である595の土師

器坏は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第166図 第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表 (第166図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
593	土師器	坏	15.0	4.9	7.0	雲母・長石・石英	にぶい褐色	普通	底部二方向のヘラ削り、体部下縁手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き	床面	65%、体部外面墨書「八万」PL52-57
594	土師器	坏	13.4	4.6	7.1	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	底部回転ヘラ切り後、二方向のヘラ削り、体部下縁手持ちヘラ削り	覆土下層	65%、PL52
595	土師器	坏	[11.6]	(3.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	10%、体部外面墨書「春」PL57
596	土師器	坏	-	(0.9)	6.4	長石・石英	にぶい褐色	普通	底部一方向のヘラ削り、内面ヘラ磨き	覆土下層	10%、底部外面墨書「四」PL57

番号	種類	器種	口径	器高	底径	底寸	色調	地成	手法の特徵	出土位置	備考
TP61	須恵器	壺	-	(3.0)	-	2母・長径6cm	灰	丹波	頸部外面残状文	覆土中	PL55
T162	須恵器	壺	-	(23.2)	-	2母・長径・小底	灰黄褐色	丹波	頸部外面残状の半円明き後への刷り、内底へウラナジ、当て瓦嵌	床面	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
DP18	土製	(16.3)	10.1	8.2	(791.3)	土製	縦割ナガ、被熱煮	火床面			
T5	土製	(5.2)	(5.3)	1.8	(60.8)	土製	凸面格子瓦の明き、阿南郡口坑	覆土中	PL63		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
M77	木製	(1.4)	(2.6)	0.1	(0.0)	木製	円盤状、内端全体を折り返す、外端部2方向から穿孔	覆土中	PL62		

第83号住居跡 (第167図)

位置 調査区の西部のC1a5区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

重複関係 第242号土坑に北東コーナー部付近を掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.51m、短軸3.30mの方形で、主軸方向はN-14°-Eである。壁高は12~27cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほは平床で、中央部が踏み固められている。壁溝は、北壁際を除いて開削している。

竈 北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cm、両袖部幅84cmである。袖部は、粘土混じりのローム土で構築されている。遺存状態が悪く、左袖は確認できなかった。火床面は、床面からやや掘り下げた平担面を使用している。火熱により赤変しているが、硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。上層は6層からなり、いずれも竈内の覆土である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | 粘土粒子・粒粒中硬、焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中硬、ローム粒子少量 |

ピット 1か所。主柱穴はP1が相当し、深さは15cmである。他の主柱穴は、確認できなかった。

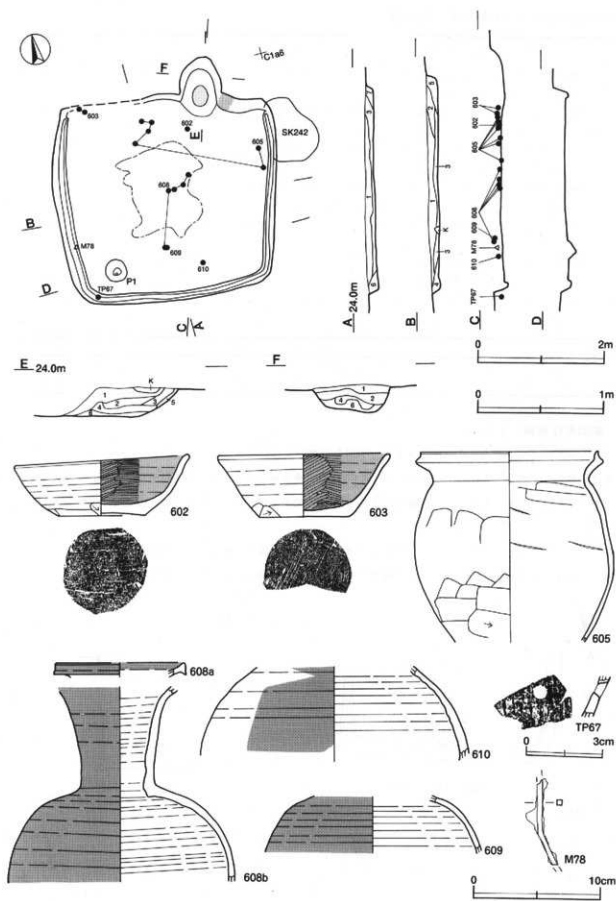
覆土 7層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 | 6 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片213点(坏71, 甕142), 須恵器片102点(坏23, 甕79), 灰釉陶器3点(長頸瓶), 釘1点が、全域から散在して出土している。多くの遺物は覆土下層から出土している。灰釉陶器長頸瓶である608は住居中央部の覆土下層から、609は住居中央部やや南寄りの覆土中層から、610は中央部の南東コーナー部寄りの覆土中層から出土している。608~610の灰釉陶器長頸瓶はいずれも狼狽産のもので、608・609は黒笹14号窯式、610は黒笹14号窯式より古い段階のものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。



第167图 第83号住居跡・出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表 (第167図)

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	組成	手法の特徴	出土位置	備考
602	土師器	杯	13.6	4.7	6.8	長石・石英・赤色粘土	にぶい程	青焼	底面一方向のへろ割り, 体部と縁手持ちへの割り, 内面への巻き	覆土下層	95%, PL52
603	土師器	杯	13.4	5.0	7.0	長石・石英	灰褐色	青焼	底面一方向のへろ割り, 体部と縁手持ちへの割り, 内面への巻き	覆土下層	55%, PL52
605	土師器	小形甕	15.0	(15.1)	-	黒石・長石・石英	鉄黒	青焼	口縁僅かなが, 体部外面下位への割り, 内面・外面上位へのナナ	覆土中層	25%
608a	土師器	長頸瓶	(10.2)	(1.1)	-	緻密	灰白・灰白	良好	口縁整形	覆土下層	5%
608b	土師器	長頸瓶	-	(15.5)	-	長石	灰白・灰ナリ	良好	口縁整形	覆土下層	45%, PL52
609	土師器	長頸瓶	-	(4.6)	-	緻密	灰黄・灰ナリ	良好	口縁整形	覆土中層	5%
610	土師器	長頸瓶	-	(7.5)	-	長石	灰黄・灰ナリ	良好	口縁整形	覆土中層	5%
T167	須石説	釜	-	(1.6)	-	赤土・赤土系	褐色	青焼	体部外面低位の平行溝, L線子に施す	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M78	鈿	(7.0)	0.4	0.4	(7.0)	鉄	淵沿方形の棒状, 柳葉形曲	覆土下層	PL62

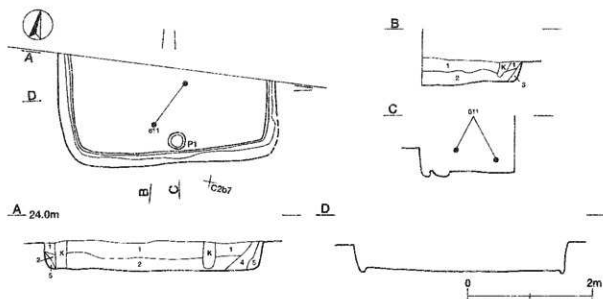
第84号住居跡 (第168図)

位置 調査区の中央部のC 2 a6区に位置し, 平坦な台地の東部に立地している。

規模と形状 北期部分が調査区域外に延びているため, 南北軸1.80m, 東西軸3.44mだけが確認された。形状は方形または長方形と推定され, 主軸方向はN-16°-Wである。壁高は32-44cmで, 確認できる壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦である。硬化している面は確認できなかった。壁溝は, 確認できる壁際を巡っている。

竈 北壁または東壁に付設されていると推測されるが, 調査区域外であるため不明である。



第168図 第84号住居跡実測図

ピット 1か所。主柱穴は、確認できなかった。P1は南壁際中央にあり、出入り口に伴うピットの可能性が考えられる。

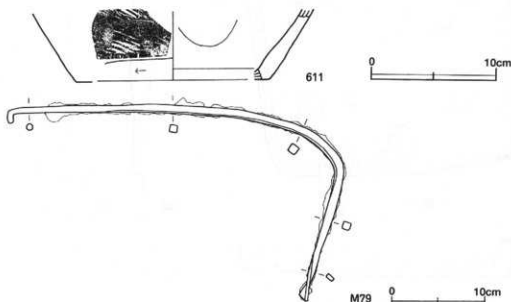
覆土 5層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------|----------|-----------|
| 1 黒 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 | 4 黒 暗 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒 色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 5 暗 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒 暗 褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片20点、須恵器片11点、クルリ鍵1点が、中央部に集中して出土している。多くの遺物は、覆土上層から出土している。M79のクルリ鍵は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第169図 第84号住居跡出土遺物実測図

第84号住居跡出土遺物観察表 (第169図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
611	須恵器	鉢	-	(5.6)	(15.4)	赤母・長石・石英	褐色	良好	体部外面斜位の平行叩き、下端へう割り、下部に布目痕、内面当て具痕	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M79	クルリ鍵	36.1	22.3	0.6-1.0	162.5	鉄	先端部断面円形、直角に屈曲、輪部断面四方形、湾曲後屈曲、持ち手断面長方形で挖られている	覆土中	PL60

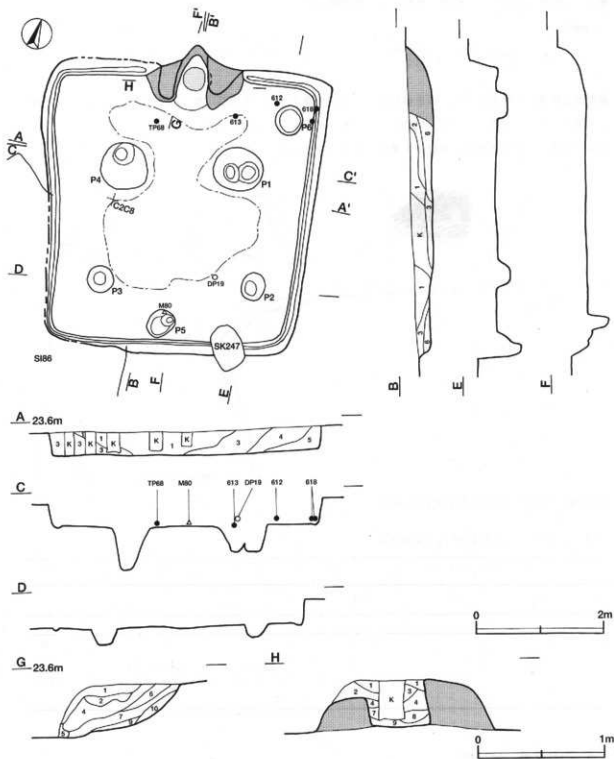
第85号住居跡 (第170図)

位置 調査区の中央部のC2b8区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

重複関係 南西部を第86号住居に、南壁の東寄りの一部を第247号土坑にいずれも掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.60m、短軸4.51mの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は26-40cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部と竈の南側が踏み固められている。壁溝は、第247号土坑と重複した部分で確認できなかったが、全周していたものと推測される。



第170図 第85号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで102cm、両袖部幅153cmである。袖部は、ローム土混じりの粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面を使用し、火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は10層からなり、いずれも竈内の覆土である。

覆土層解説

1 黒 褐色	砂粒中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・ローム粒子微量	6 黒 褐色	砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量
2 黒 褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量	7 暗 赤 褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3 黒 暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	8 暗 褐色	炭化物・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
4 にぶい黄褐色	粘土ブロック・砂粒中量	9 暗 赤 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
5 黒 褐色	粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量	10 にぶい黄褐色	砂粒多量, 粘土粒子少量

ビット 6か所。主柱穴は、P1～4が相当する。深さはP4が70cmと最も深く、P1が44cmで、P2・3は25cmほどである。P1は、形状から柱の建て替えの可能性が考えられる。しかし、他の主柱穴に建て替えの相は伺えず、P1のみの建て替えと考えられる。P5は竈と対峙する位置にあり、出入り口に伴うビットと考えられる。P6は深さが20cmのビットで、性格は不明である。

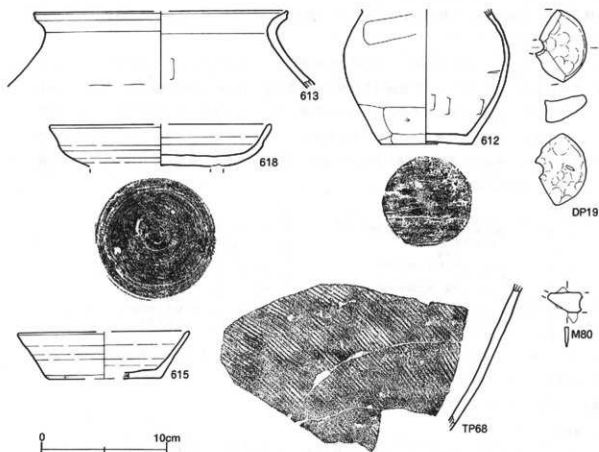
覆土 6層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1 暗 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 粘土ブロック少量	4 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 暗 褐色	ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3 暗 褐色	炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量	6 暗 褐色	粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片151点(坏24, 甕127), 須恵器片58点(坏37, 高台付盤2, 甕18, 鉢1), 土製紡錘車1点, 刀子1点が, 北東コーナー部付近を中心に全域から散在して出土している。多くの遺物は、覆土中層から出土している。618の須恵器高台付盤は、北東コーナー部付近の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第171図 第85号住居跡出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表 (第171図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	出土	高さ	状態	手法の特徴	出土位置	備考
612	土師器	小形甕	-	(10.9)	7.4	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部の凹下位へうけ部、外面土位・凹出へうけ部	覆土下層	50%
613	土師器	甕	(20.4)	16.2	-	赤石・長石・石英・白色粒子	にぶい黄	普通	口縁横ナツ、体部内・外面へうけ部	覆土下層	5%
615	須恵器	坏	(13.8)	3.8	9.2	長石・石英・白色粒子	灰黄	普通	胴部・方向のへうけ部、体部・口縁部へうけ部	覆土中	36%
618	須恵器	高台付甕	(17.8)	(3.0)	-	長石・石英	にぶい黄緑	不良	体部の凹へうけ部、高台部付け	覆土下層	60%
T198	須恵器	甕	-	(11.9)	-	赤石・長石・石英・小礫	灰黄褐色	普通	体部外側斜位の平行突起、内面ナツ、内て具袋	覆土下層	

番号	器種	口径	底径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP19	粘 土	(6.1)	(1.1)	2.2	(32.8)	土 質	断面形状、外周指痕痕	覆土下層	PL58

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M80	不明	(2.9)	1.6	0.3	(4.2)	灰	断面三角形、片方	覆土下層	

第86号住居跡 (第172図)

位置 調査区の中央部のC 2 c7区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

重複関係 第85号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.54m、短軸4.80mの長方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は10-30cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、各コーナー付近を除いて中央部が広範囲によく踏み固められている。壁際は、全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで116cm、両袖部幅134cmである。袖部は、ローム土と構築材である逆位に置かれた627-631の土師器層の上にローム土混じりの粘土を貼り付けて構築されている。火床面は、床面をやや掘り下げた平坦面を使用している。火熱により赤変しているが、硬化した面は確認できなかった。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は20層からなり、第1-8層が竈内の覆土で、第9-20層が袖部の土層である。

竈土層解説

1 暗 褐色	砂粒多量、焼土粒子中量、ローム粒子微量	11 褐色	ローム粒子微量
2 暗 褐色	砂粒中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	12 灰 褐色	粘土粒子多量、炭化粒子微量
3 暗 赤褐色	焼土ブロック少量	13 にぶい赤褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
4 暗 褐色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	14 にぶい褐色	粘土ブロック少量
5 暗 赤褐色	焼土粒子多量	15 暗 褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
6 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	16 暗 褐色	ロームブロック微量
7 暗 赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	17 褐色	ローム粒子微量
8 暗 赤褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	18 褐色	ローム粒子微量
9 灰 褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	19 灰 褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10 暗 赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	20 褐色	ローム粒子微量

ピット 5か所。主柱穴はP 1-4が相当し、深さは15-27cmである。P 5は竈と対する位置にあり、出入りに伴うピットと考えられる。

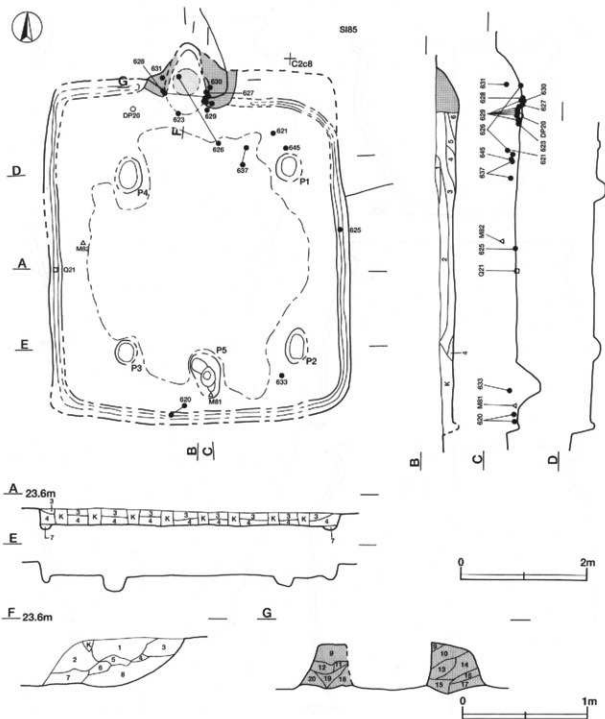
覆土 7層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

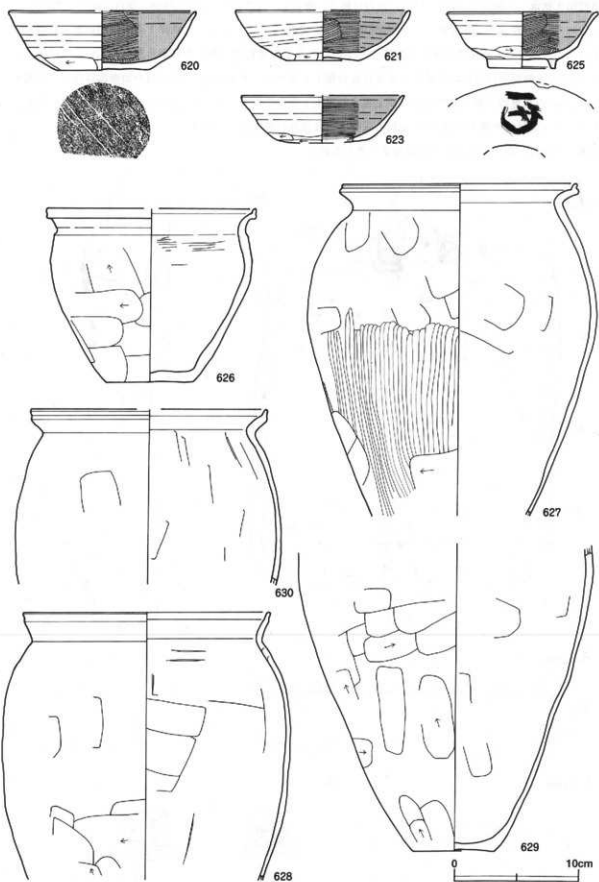
1 黒 褐色	焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子少量	5 暗 赤褐色	炭化粒子中量、焼土ブロック・粘土粒子少量
2 暗 褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	6 黒 赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
3 暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	7 暗 褐色	ローム粒子中量
4 暗 褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量		

遺物出土状況 土師器片509点(坏81, 高台付碗2, 甕426), 須恵器片262点(坏98, 高台付皿1, 甕158, 鉢4, 瓶1), 灰軸陶器2点(長頸瓶2), 土製紡錘車1点, 砥石1点, 刀子3点, 鉄滓1点, 不明鉄製品1点が, 北東コーナー部付近と南壁際に集中して出土している。多くの遺物は, 覆土中層から出土している。墨書土器である625の土師器高台付碗は東壁際の中央付近の覆土下層から, 墨書土器である634の須恵器坏はP5の覆土中から, 637の須恵器大甕は中央部のやや北寄りの覆土下層から出土している。また, 645の灰軸陶器長頸瓶は北東コーナー部付近の覆土中層から, 644の灰軸陶器長頸瓶は覆土中から出土している。

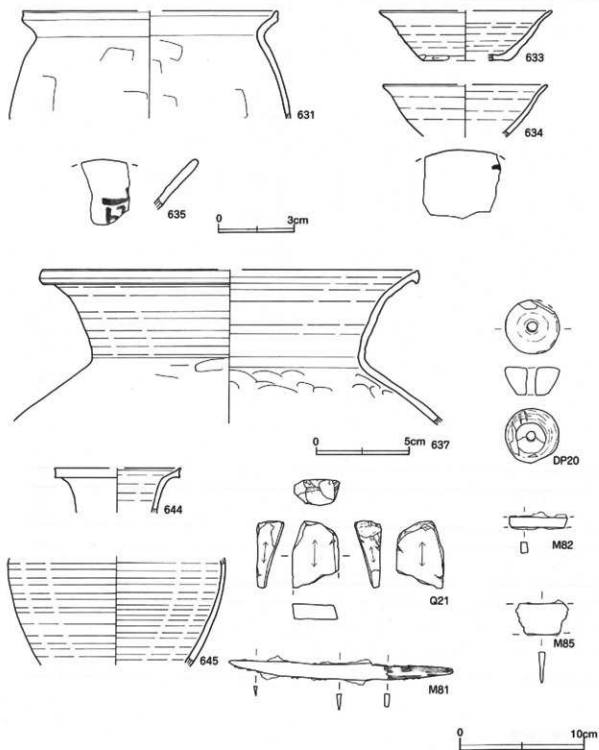
所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第172図 第86号住居跡実測図



第173图 第86号住居跡出土遺物実測図(1)



第174図 第86号住居跡出土遺物実測図(2)

第86号住居跡出土遺物観察表(第173・174図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
620	土師器	坏	[15.2]	4.8	7.4	長石・石英	橙	普通	底部一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き	覆土下層	50%, PL53

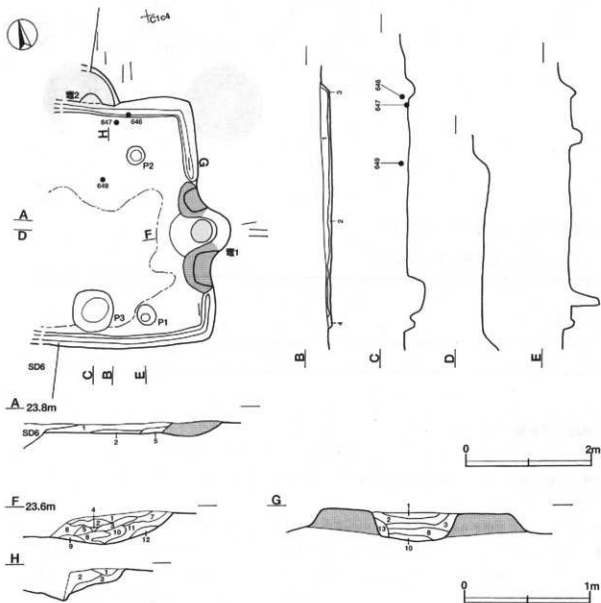
竈 2か所。竈1は、東壁中央部のやや南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで99cm、両袖部幅164cmである。袖部は、ローム土混じりの粘土で構築されている。火床面は、床面をやや掘り下げた平坦面を使用し、火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。竈1は13層からなり、いずれも竈内の覆土である。竈2は、北壁に付設されており、煙道部だけを検出している。壁外への掘り込みは70cm、幅は55cmである。煙道は、緩やかに立ち上がっている。竈2の煙道は3層からなる。竈1が完存し、竈2は煙道部だけが残存していることから、竈2から竈1へ作り替えたことが考えられる。

竈1土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|-----------|----------------------|
| 1 暗 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 2 暗 赤 褐色 | 炭化物少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 9 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物微量 | 10 にぶい橙 色 | 灰中量、焼土粒子微量 |
| 4 暗 赤 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 明 赤 褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 12 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 6 暗 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 極暗 赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 7 黒 褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量 | | |

竈2土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|-------|--------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 粘土粒子少量、炭化物微量 | 3 暗 色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | | |



第175図 第87号住居跡実測図

ビット 3か所。主柱穴はP1・2が相当する。深さはP1が48cmで、P2が18cmである。P3は竈2と対峙する位置にあり、出入りに伴うビットと考えられる。

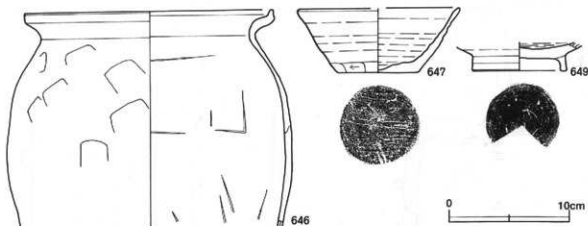
覆土 5層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|-------|---|---------------------|---------|---|--------------------------|
| 1 埴 | 色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量 | 4 埴 | 色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 暗 埴 | 色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 にぶい 埴 | 色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 3 埴 | 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片100点(坏2, 甕98), 須恵器片53点(坏34, 高台付甕1, 甕17, 鉢1)が、全域から散在して出土している。多くの遺物は、覆土下層から出土している。647の須恵器坏は、北壁際の東寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡は、竈を作り替えた住居である。時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第176図 第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表(第176図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	造成	手法の特徴	出土位置	備考
646	土師器	甕	20.6	(18.0)	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナデ、体部内・外面ヘラナデ、内面輪積み直	覆土下層	40%
647	須恵器	坏	[13.7]	5.3	6.6	雲母・長石・石英	灰	良好	底部→方向のヘラ削り、体部下縁手持ちヘラ削り	覆土下層	70%
649	須恵器	高台付甕	-	(2.4)	(7.8)	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土下層	40%

第88号住居跡(第177図)

位置 調査区の中央部のC2f8区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

規模と形状 長軸5.18m, 短軸4.28mの長方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は4~14cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈の南側から南壁にかけて、中央部がよく踏み固められている。壁溝は、確認できなかった。

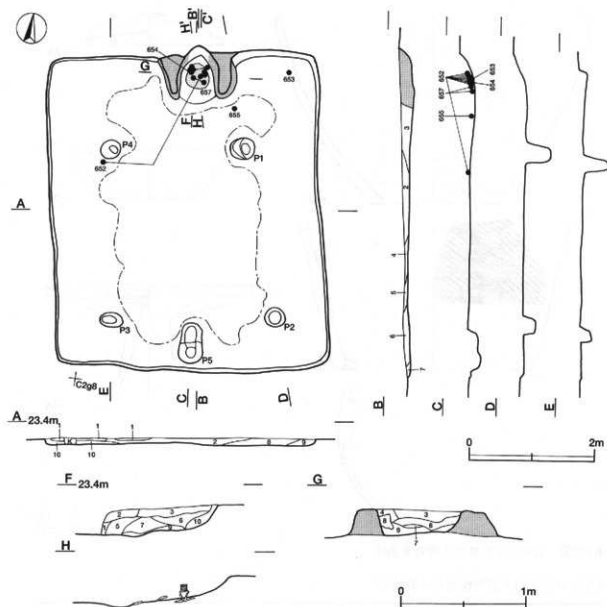
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで92cm, 両袖部幅120cmである。袖部は、粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は、床面をやや掘り下げた平坦面を使用し、火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。煙道部からは、654の須恵器高盤が逆位で埋められ、その脚部に652の土師器甕片が重ねられた状態で検出されている。654の須恵器高盤・652の土師器甕片はいずれも二次

焼成を受け、652の土師器壺片間の土が焼土化していることから、これらは支脚に転用されたと考えられる。土層は10層からなり、いずれも壺内の覆土である。

壺土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|--------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量 | 7 灰褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 褐色 | 炭化粒子・ローム粒子微量 | 8 赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量 | 9 灰褐色 | 焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | 炭化物中量、焼土粒子・ローム粒子少量 |

ピット 5か所。主柱穴はP1～4が相当する。深さはP1・4が40cmほどで、P2・3が20cmである。P5は壺と対峙する位置にあり、出入りに伴うピットと考えられる。



第177図 第88号住居跡実測図

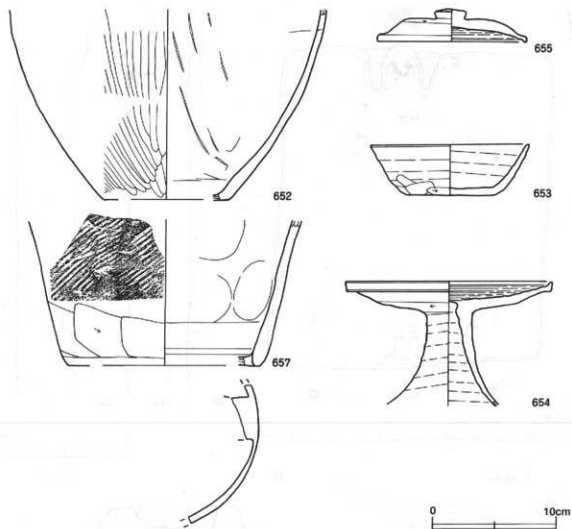
覆土 10層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|-------|----------------|
| 1 灰 褐色 | 炭化粒子・ローム粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 灰 褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 にぶい褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片36点、須恵器片11点が、北部の覆土下層から点在して出土している。655の須恵器蓋は、竈の南東側の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第178図 第88号住居跡出土遺物実測図

第88号住居跡出土遺物観察表 (第178図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
652	土師器	鉢	-	(15.3)	(10.0)	常母・長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部外面へラ磨き、内面へラナゲ	覆土下層	20%
653	須恵器	杯	12.7	4.2	7.0	常母・長石・石英	黄灰	良好	底部二方向のへラ削り、体部下端子持ちへラ削り	覆土下層	70%

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
654	須恵器	高盤	14.7	(10.1)	-	雲母・長石・石英	灰	不良	盤部外面左回りの回転ヘラ削り、脚部内・外面ロクロ整形	火床前	80%, PL53
655	須恵器	蓋	12.0	2.7	-	雲母・長石・石英	暗灰黄	普通	天井部右回りの回転ヘラ削り	覆土下層	80%, PL53
657	須恵器	瓶	-	(11.7)	[15.6]	長石・石英	灰	良好	体部外面斜位の平行引き、下位ヘラ削り、内面ヘラナデ、当て具痕	覆土下層	10%

第89号住居跡 (第179図)

位置 調査区の中央部のC 2e6区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

規模と形状 床面まで削平された状態で検出されたため、竈の残存部やピットの位置から判断して、 $N-15^{\circ}-W$ を主軸とする一辺4.5mほどの方形と推測される。床面まで削平された状態で検出されたため、壁の立ち上がりは確認できなかった。

床 ほは平坦で、竈の南側から南壁に向かって、中央部が踏み固められている。壁溝は、確認できなかった。

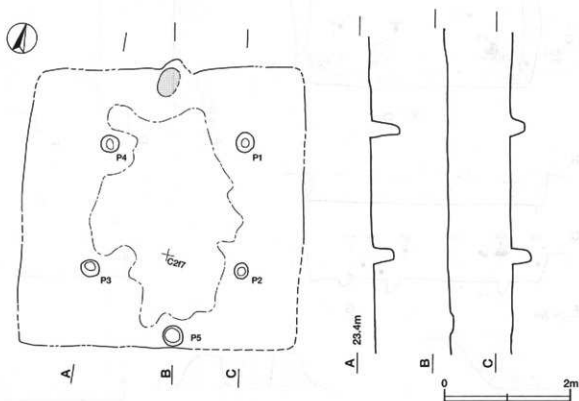
竈 削平により遺存状態が非常に悪いが、北壁中央部に付設されていたと推定される。竈が付設されていたと考えられる部分には、焼土が散在している。

ピット 5か所。主柱穴は、P1~4が相当する。深さは、P4が47cmと深く、他は25~33cmである。P5は推定される竈と対峙する位置にあり、出入口に伴うピットと考えられる。

覆土 確認できなかった。

遺物出土状況 確認できなかった。

所見 時期は、土器が出土していないため断定できないが、8世紀後葉と推定される第85号住居跡と方向・規模がほぼ一致することから8世紀代の可能性がある。



第179図 第89号住居跡実測図

第90号住居跡 (第180図)

位置 調査区の西部のC 1 a8区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

重複関係 第17号掘立柱建物跡の南東部と第241号土坑の南部をいずれも掘り込んでいる。

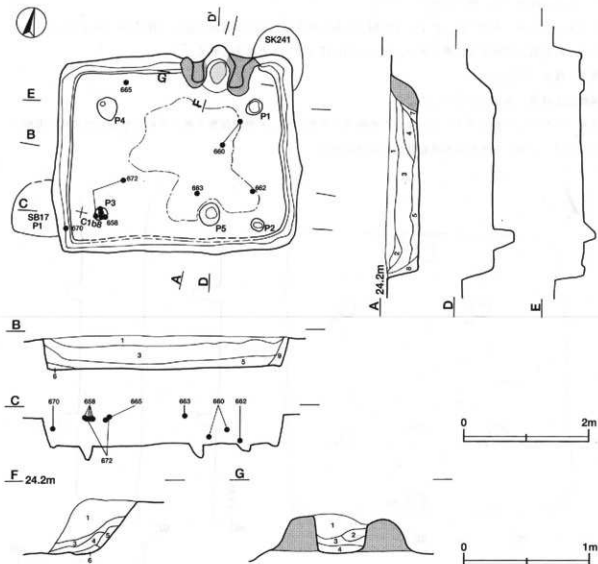
規模と形状 長軸3.86m、短軸3.18mの長方形で、主軸方向はN-13°-Wである。壁高は42~51cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部の東寄りが踏み固められている。壁溝は、南壁際の一部が確認できなかったが、全周していたものと推測される。

竈 北壁の東側に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで78cm、両袖部幅117cmである。袖部は、ローム土混じりの粘土で構築されている。火床面は、床面とはほぼ同じ高さの平坦面を使用し、火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。土層は6層からなり、いずれも竈内の覆土である。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 暗 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量 | 4 に近い赤褐色 灰中量、焼土粒子少量 |
| 2 灰 褐色 粘土粒子中量、ローム粒子微量 | 5 麻暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 灰 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 | 6 黒 褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 |



第180図 第90号住居跡実測図

ピット 5か所。主柱穴は、P1～4が相当する。深さは、P3・4が20cmほどで、P1・2は10cmほどである。P5は竈と対峙する位置にあり、出入り口に伴うピットと考えられる。

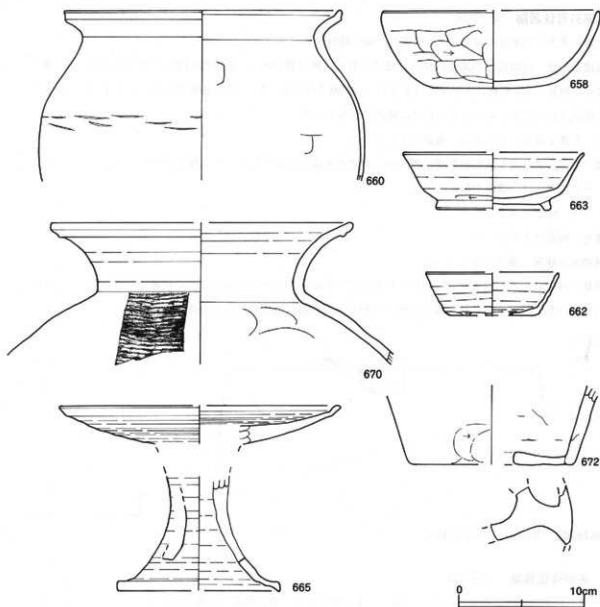
覆土 9層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量	5	灰色	炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
2	灰色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	6	褐色	ローム粒子微量
3	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
4	灰色	粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	8	灰色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
			9	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片204点(坏27, 甕177), 須恵器片171点(坏63, 高台付坏2, 高盤1, 釜1, 甕99, 鉢3, 甌2)が、全域から散在して出土している。南西部の遺物は、覆土上層から出土している。662の須恵器坏は東壁際の南寄りの覆土下層から、665の須恵器高盤は竈の西側の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第181図 第90号住居跡出土遺物実測図

第90号住居跡出土遺物観察表 (第181図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
658	土師器	坏	[17.4]	6.3	8.5	長石・石英	橙	普通	口縁横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ナデ	覆土上層	40%
660	土師器	甕	22.2	(13.6)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁横ナデ, 体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	10%
662	須恵器	坏	[10.4]	3.4	[6.4]	雲母・長石・石英	黄灰	良好	底部一方のヘラ削り, 体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	40%
663	須恵器	高台付坏	[14.4]	4.6	[8.9]	長石	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	覆土上層	30%
665	須恵器	高甕	[22.4]	(3.2) + (9.1)	[13.0]	雲母・長石・石英	灰黄	普通	腹部左回りの回転ヘラ削り, 臀部内・外面口クロ整形, 3孔式	覆土上層	30%
670	須恵器	甕	[23.8]	(11.3)	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁横ナデ, 体部外面横位の平行叩き, 内面当て具痕	覆土下層	15%
672	須恵器	甗	-	(6.3)	[13.0]	雲母・長石・石英	黄灰	良好	体部外面下位ヘラ削り, 内面ヘラナデ, 5孔式, 孔はヘラ削り	覆土上層	10%

第91号住居跡 (第182図)

位置 調査区の南部のD 2 f5区に位置し, 南に傾斜する台地の東部に立地している。

規模と形状 南側部分が調査区域外に延びており, 南北軸1.88m, 東西軸5.14mだけが確認された。竈の残存部から判断して, 形状は方形または長方形で, 主軸方向はN-16°-Eと推測される。床面まで削平された状態で確認されたため, 壁の立ち上がりは確認できなかった。

床 壁溝や硬化した床面は, 確認できなかった。

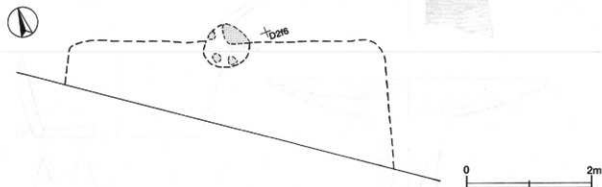
竈 削平により遺存状態が非常に悪いが, 北壁中央部に付設されていたと推定される。付設されていたと考えられる部分には, 焼土が散在している。

ピット 確認できなかった。

覆土 確認できなかった。

遺物出土状況 確認できなかった。

所見 時期は土器が出土していないため断定できないが, 北西方向50mほどの位置に8世紀代のはほぼ同方向・同規模の第92・95・98号住居跡が位置しており, 同時期に機能していた可能性もある。



第182図 第91号住居跡実測図

第92号住居跡 (第183図)

位置 調査区の西部のC 1 g7区に位置し, 南に傾斜する台地の東部に立地している。

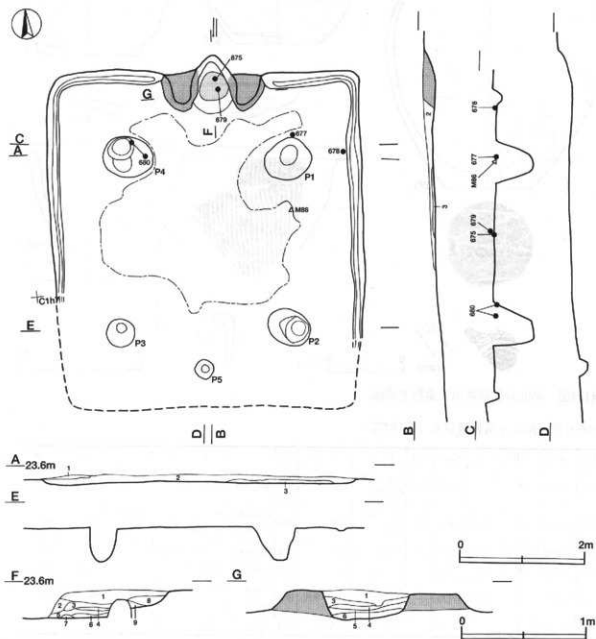
規模と形状 南側が削平されているため, ピットの位置から判断して, 長軸5.5m, 短軸5mの方形と推定され, 主軸方向はN-5°-Eである。壁高は9~21cmで, 確認できた各壁とも緩やかに立ち上がっている。

床 削平を受けた南部を除いてほぼ平坦で、竈南側から中央部にかけてよく踏み固められている。壁溝は、確認できる壁際を巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cm、両袖幅167cmである。袖部は、ローム土混じりの粘土で構築されている。火床面は、床面をやや掘り下げた平坦面を使用し、火熱により赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。煙道部から二次焼成を受けた675の土師器小形甕が逆位で検出されており、支脚に転用されたものと考えられる。土層は9層からなり、いずれも竈内の覆土である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|----------|---------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子中量 | 6 にふい赤褐色 | 灰多量、焼土粒子中量 |
| 2 灰 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 7 暗 赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 3 にふい黄褐色 | 粘土粒子多量、砂粒中量、焼土粒子・ローム粒子少量 | 8 にふい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 4 赤 褐色 | 焼土粒子多量 | 9 暗 色 | 焼土粒子微量 |
| 5 暗 褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、焼土粒子・砂粒少量 | | |



第183図 第92号住居跡実測図

ビット 5か所。主柱穴はP1~4が相当し、深さは55~68cmである。P5は竈と対峙する位置にあり、出入り口に伴うビットと考えられる。

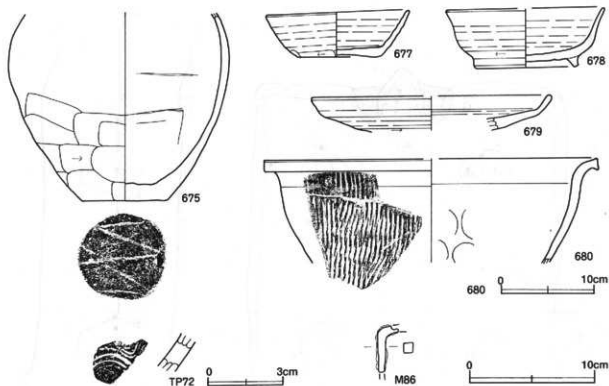
覆土 3層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、粘土粒子微量
 2 黒暗褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片195点(坏5, 甕190), 須恵器片62点(坏34, 高台付坏1, 盤1, 甕25, 鉢1), 釘1点が、北部から散在して出土している。多くの遺物は、覆土下層から出土している。677の須恵器坏と678の須恵器高台付坏は、北東コーナー部付近の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第184図 第92号住居跡出土遺物実測図

第92号住居跡出土遺物観察表 (第184図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
675	土師器	甕	-	(15.0)	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へう削り, 内面へらナデ	覆土下層	40%
677	須恵器	坏	11.3	3.7	6.4	雲母・長石・石英	灰黄	良好	底部回転へら切り後, 二方向のへら削り, 体部下端手持ちへら削り	覆土下層	80%, PL53
678	須恵器	高台付坏	[12.5]	4.7	7.6	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部回転へら切り後, 高台貼り付け	覆土下層	50%
679	須恵器	盤	[19.0]	(2.7)	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰	良好	外面右回りの回転へら削り	覆土中層	20%
680	須恵器	鉢	[35.0]	(11.0)	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁横ナデ, 体部外面縦位の平行叩き, 内面当て具痕	覆土下層	10%
TP72	須恵器	甕	-	(1.5)	-	雲母・長石・小礫	灰黄褐色	普通	胴部外面波状文	覆土中	

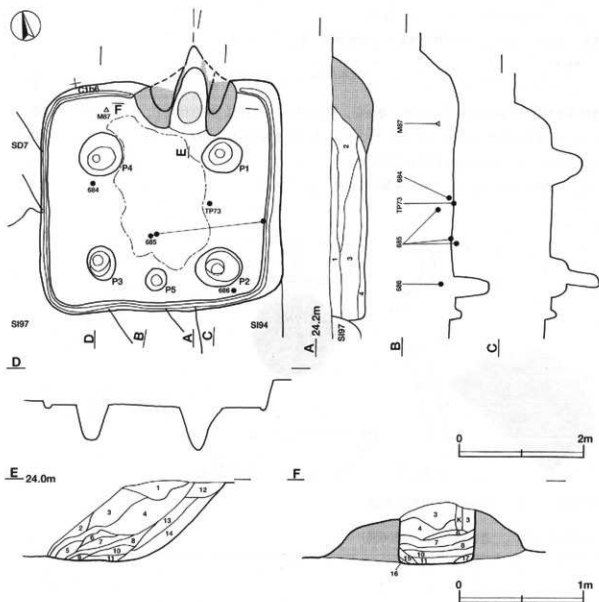
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M86	釘	(2.4)	(1.1)	0.5	(1.6)	鉄	断面方形の棒状、脚部はほぼ直角に屈曲	覆土下層	

第93号住居跡 (第185図)

位置 調査区の西部のC1b6区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

重複関係 第94号住居跡の北東コーナー部を掘り込み、南西部を第7号溝と第97号住居に掘り込まれている。
規模と形状 長軸3.85m、短軸3.72mの方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は5~45cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の南西側から中央部にかけてよく踏み固められている。壁溝は、全周している。



第185図 第93号住居跡実測図

竈 北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで145cm、両袖部幅164cmである。袖部は、ローム土混じりの粘土で構築されている。火床面は、床面をやや掘り下げた平坦面を使用し、火熱により赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。土層は17層からなり、いずれも竈内の覆土である。

覆土層解説

1 暗 褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量	10 にぶい 褐色	灰中量、焼土粒子微量
2 灰 褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	11 暗 赤褐色	焼土粒子微量
3 灰 褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	12 灰 褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4 にぶい 褐色	焼土ブロック少量、焼土粒子微量	13 暗 赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量
5 灰 褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	14 暗 赤褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
6 にぶい 褐色	粘土粒子中量、焼土粒子微量	15 灰 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
7 赤 褐色	焼土ブロック少量	16 灰 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
8 黒 褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	17 暗 赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
9 にぶい 赤褐色	焼土粒子・炭灰量		

ピット 5か所。主柱穴は、P1～4が相当し、深さは、50～83cmとばらつきが見られる。P5は竈と対峙する南壁際の中央に位置し、出入り口に伴うピットと考えられる。

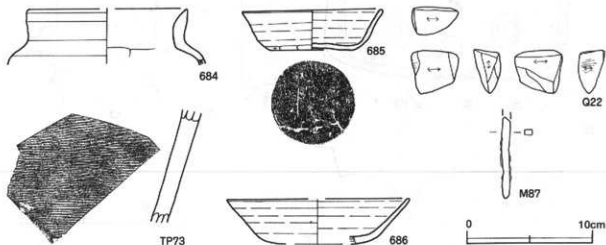
覆土 4層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1 黒 褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	3 暗 褐色	炭化物・ロームブロック・焼土粒子少量
2 暗 褐色	ロームブロック中量	4 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片317点(坏31, 甕286), 須恵器片77点(坏44, 高台付盤1, 蓋2, 甕29, 短頸壺1), 紙石1点, 釘1点が南東部を中心に出土している。多くの遺物は、覆土上層から出土している。685の須恵器坏は、南東コーナー部付近の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉から中葉と考えられる。



第186図 第93号住居跡出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表 (第186図)

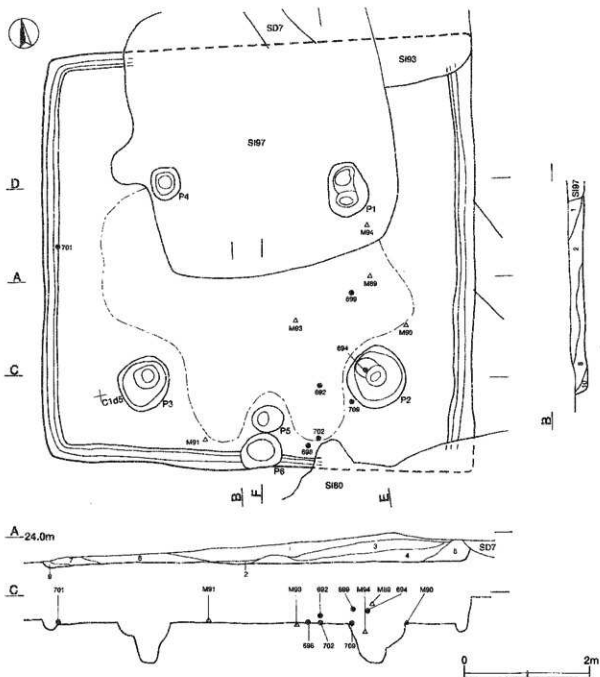
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
684	須恵器	短頸壺	[12.8]	(4.4)	-	長石・赤色粒子	浅黄橙	良好	口縁横ナデ, 体部内面ヘラナデ	覆土下層	5%
685	須恵器	坏	10.2	3.3	6.6	長石・石英	粉灰	良好	底部二方向のヘラ削り, 体部下瀬子持ちヘラ削り	床面	50%, PL53
686	須恵器	坏	[14.5]	3.6	[7.0]	黄緑・長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	20%
TP73	須恵器	甕	-	(9.5)	-	長石	灰白	良好	体部外面横位の平行叩き, 内面ヘラナデ	覆土下層	

番号	部材	長さ	幅	厚さ	重量	材質	形状	出土位置	備考
Q22	瓦	3.5	3.8	2.1	30.4	粘板岩	縦向き、溝状の風面1枚、平	覆土中	
M87	瓦	(6.6)	0.7	0.4	(6.9)	瓦	縦向き、長方形の溝状	覆土上層	

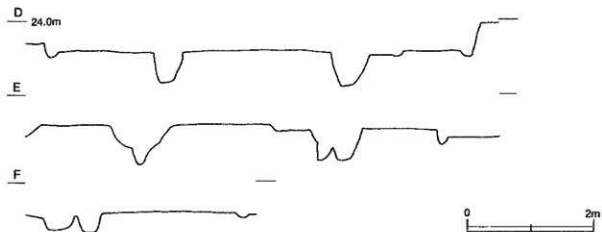
第94号住居跡 (第187・188図)

位置 調査区の西部のC1c5区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

重複関係 第7号溝と第93号住居に北東部を、第97号住居に北部を、第80号住居に南東コーナー部付近をいずれも掘り込まれている。



第187図 第94号住居跡実測図(1)



第188図 第94号住居跡実測図(2)

規模と形状 長軸6.88m, 短軸6.62mの方形で, 主軸方向はN-9°-Eである。壁高は9~45cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部から南壁中央にかけてよく踏み固められている。壁溝は, 確認できる壁際を巡っており, 全周していたと推測される。

竈 北壁に付設されていたと推測されるが, 第97号住居跡との重複で確認できなかった。

ピット 6か所。主柱穴はP1~4が相当し, 深さは50~67cmである。P1は, 形状から柱の建て替えが行われた可能性が考えられる。しかし, 他の主柱穴に建て替えの様相は何れも, P1のみの建て替えと考えられる。P5は南壁中央に位置し, 竈と対峙すると推測され, 出入り口に伴うピットと考えられる。P6も南壁中央に位置する深さ26cmのピットであるが, 壁溝と重複しており, 性格は不明である。

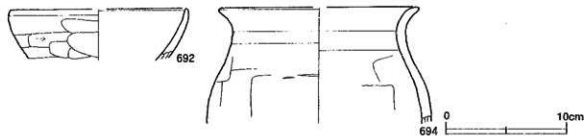
覆土 10層からなり, レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

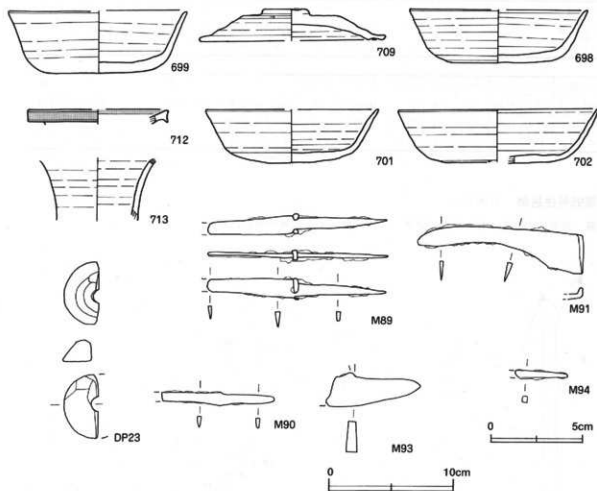
1 黒 褐 色	焼土ブロック・炭化物少量, 珪石粒子微量	6 灰 褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
2 赤 褐色	炭化物・焼土粒子・珪石粒子少量	7 灰 褐色	ロームブロック少量
3 黒 褐色	焼土ブロック・炭化物少量, 珪石粒子微量	8 赤 褐色	炭化物・焼土粒子少量, ローム粒子微量
4 黒 褐色	炭化物・焼土粒子少量, 珪石粒子微量	9 赤 褐色	ローム粒子少量
5 黒 褐色	焼土ブロック・炭化物少量, 珪石粒子微量	10 黒 褐色	炭化物粒子少量, ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片1099点(坏273, 高台付皿1, 壺825), 須恵器片345点(坏114, 蓋62, 壺169), 灰袖陶器2点(長頸瓶), 土製支脚1点, 土製紡錘車1点, 刀子3点, 鎌1点, 鉄滓1点, 不明鉄製品1点が, 南東部を中心に全城から散在して出土している。多くの遺物は覆土上層から出土している。702の須恵器坏と709の須恵器蓋は, 南東コーナー部付近の覆土下層から出土している。712・713の灰袖陶器長頸瓶は覆土中から出土し, 猿投産の黒草90号窯式の古い段階と考えられ, 第97号住居からの混入の可能性が考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前半と考えられる。



第189図 第94号住居跡出土遺物実測図(1)



第190図 第94号住居跡出土遺物実測図(2)

第94号住居跡出土遺物観察表 (第189・190図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
692	土師器	坏	[14.8]	(4.2)	-	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁・体部内面横ナデ、外面ヘラ削り	覆土下層	20%
694	土師器	壺	[16.4]	(9.6)	-	雲母・長石・石炭	にぶい橙	普通	口縁横ナデ、体部内・外面ヘラナデ	覆土中層	10%
696	須恵器	坏	[14.4]	4.3	8.6	雲母・長石・石炭	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	70%, PL53
699	須恵器	坏	[14.3]	5.0	8.0	雲母・長石・石炭	附伏黄	良好	底部多方向のヘラ削り	覆土中層	60%, PL53
701	須恵器	坏	[14.0]	3.5	-	雲母・石英・礫	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	40%
702	須恵器	坏	[16.2]	4.3	[8.2]	雲母・長石・石炭	灰	良好	底部・体部下端回転ヘラ削り	覆土下層	30%
709	須恵器	蓋	[14.8]	2.6	-	雲母・長石・石炭	灰白	良好	天井部右回りの回転ヘラ削り	覆土下層	40%
712	灰輪陶器	長頸瓶	[11.2]	(0.6)	-	緻密	灰白・灰白	良好	口縁整形	覆土中	5%
713	灰輪陶器	長頸瓶	-	(5.1)	-	長石	灰・灰オリーブ	良好	口縁整形	覆土中	5%

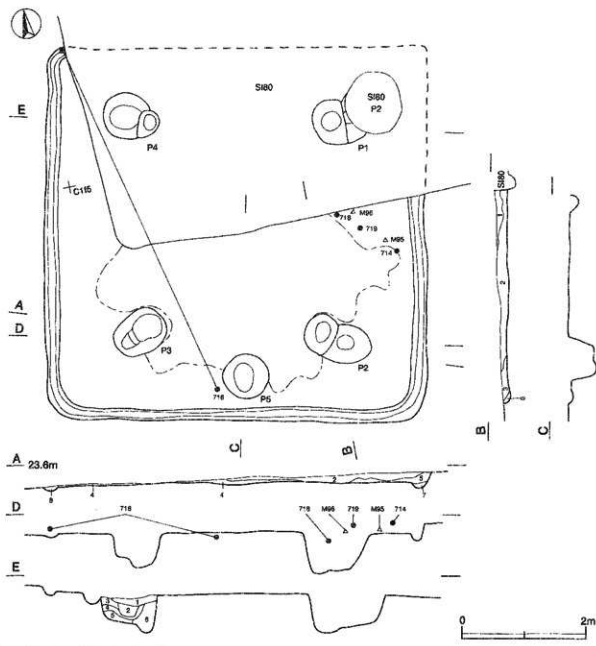
番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP23	紡錘車	[5.2]	[1.1]	1.8	(22.4)	土製	断面逆台形、外面ナデ	覆土中	PL58

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M91	鎌	13.5	3.2	0.2~0.4	34.1	鉄	刃部湾曲、毒部は全体を閉じ過ぎ。	覆土下層	PL60
M93	火打金	(2.8)	(7.7)	0.8	(52.9)	鉄	下層湾曲、両面台形	覆土下層	PL62

番号	器種	全長	刀身長	身幅	茎ね	茎長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M89	刀子	(14.7)	(7.7)	1.6	0.4	7.0	(17.6)	鉄	刃部欠損、内開、及び茎部具装者	覆土中層	PL61
M90	刀子	(11.1)	(6.9)	1.0	0.3	(4.2)	(7.4)	鉄	刃部欠損、内開	覆土下層	PL61
M94	刀子	(3.9)	-	0.4	0.2	(3.9)	(1.0)	鉄	茎部破片、茎尻埋る	覆土下層	

第95号住居跡 (第191図)

位置 調査区の西部のC1F5区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。



第191図 第95号住居跡実測図

重複関係 第80号住居に北部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.14m、短軸6.08mの方形で、主軸方向はN-14° Eである。壁高は1~8cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部から南壁際にかけてよく踏み固められている。壁溝は、確認できる壁際を巡っている。

竈 北壁に付設されていたと推測されるが、第80号住居跡との重複で確認できなかった。

ピット 5か所。主柱穴はP1~4が相当し、深さは60cm前後である。P4では柱痕の土層が確認され、柱の建て替えによる土層の切り合いも確認できた。P1~4の形状や土層から、柱の建て替えが行われた可能性が考えられる。P5は南壁中央に位置して竈と対峙すると推測され、出入り口に伴うピットと考えられる。P4は6層からなり、第1層は重複する第80号住居跡の胎床の埋土、第2層は柱痕の土層、第6層は旧柱の掘り方の土層である。

F4土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|---------------------|
| 1 腐 爛 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 埴 罫 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 腐 爛 色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 | 5 埴 罫 色 | ロームブロック微量 |
| 3 埴 罫 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 埴 罫 色 | ローム粒子微量 |

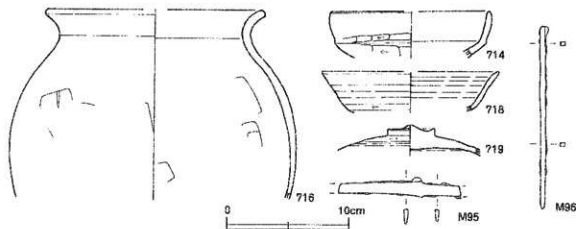
覆土 8層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|---------|---------------------|
| 1 腐 爛 色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 | 5 埴 罫 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 腐 爛 色 | 焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 埴 罫 色 | ローム粒子微量 |
| 3 埴 罫 色 | ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 埴 罫 色 | ローム粒子少量 |
| 4 埴 罫 色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量 | 8 灰 罫 色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片175点(坏34, 蓋151), 須恵器片34点, 刀子1点, 釘1点, 鉄滓1点が、東部から散在して出土している。多くの遺物は、覆土下層から出土している。718の須恵器坏と719の須恵器蓋は、中央部東寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡は、主柱穴を作り替え、建て直しが行われた住居である。時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第192図 第95号住居跡出土遺物実測図

第95号住居跡出土遺物観察表 (第192図)

番号	種類	口径	口径	容積	成塚	胎土	色別	坑底	主な特徴	出土位置	備考
714	土師器 坏	12.80	(3.80)	-	-	粘土・石英	埴	普通	口縁傾ナゲ、体部外面へ外傾?	覆土中層3%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
716	土師器	壺	[17.8]	(15.3)	-	葉形・長石・石英・赤土粒子	に、灰・軽	普通	口縁傾ナア、外部内・外面ヘラナア	覆土下層	20%
718	須恵器	杯	[14.6]	(3.3)	-	長石	灰	普通	底部・底部下縁同軸ヘラ削り	覆土下層	10%
719	須恵器	壺	-	(2.6)	-	長石・石英	灰白	良好	天井部打刷りの同軸ヘラ削り	覆土下層	70%

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	至長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M95	刀子	(10.1)	(6.8)	1.4	0.3	(3.3)	(12.5)	鉄	刃部・基部欠損、黄錆	覆土下層	PL61

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M96	釘	15.0	0.4	0.3	9.2	鉄	断面長方形の棒状	覆土下層	PL61

第97号住居跡 (第193図)

位置 調査区の西部のC1c5区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

重複関係 第93号住居跡の南西部を、第94号住居跡の北部をそれぞれ掘り込んでいる。第7号溝に北東部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.62m、短軸4.10mの長方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は5～48cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部から南西コーナー部にかけて踏み固められている。壁溝は竈2を除き、北西コーナーから東壁中央まで巡っている。

竈 2か所。竈1は、北壁中央部のやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで85cm、両袖幅126cmである。袖部は、粘土混じりのローム土で構築されている。火床面は、床面とはほぼ同じ高さの平坦面を使用し、火熱により赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。竈1は4層からなり、いずれも竈内の覆土である。竈2は、西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで83cm、幅72cmである。袖部や煙道部の立ち上がりは確認できなかった。竈2の火床面直上からDP33の置き竈が検出されており、置き竈を設置して竈1と同時に使用した可能性が考えられる。火床面は、床面をやや掘りくぼめた平坦面を使用し、火熱により赤変硬化している。また、火床面の東側には炭化した面が接しており、置き竈に薪をくべた部分と考えられる。竈2の覆土は確認できなかった。

竈1土層解説

- | | | | | |
|-----|-----|--------------------------|--------|--------------------------|
| 1 灰 | 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量 | 3 暗褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 灰 | 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子少量、粘土粒子微量 |

ピット 1か所。主柱穴は、確認できなかった。P1は竈1と対峙する位置にあり、出入り口に伴うピットと考えられる。

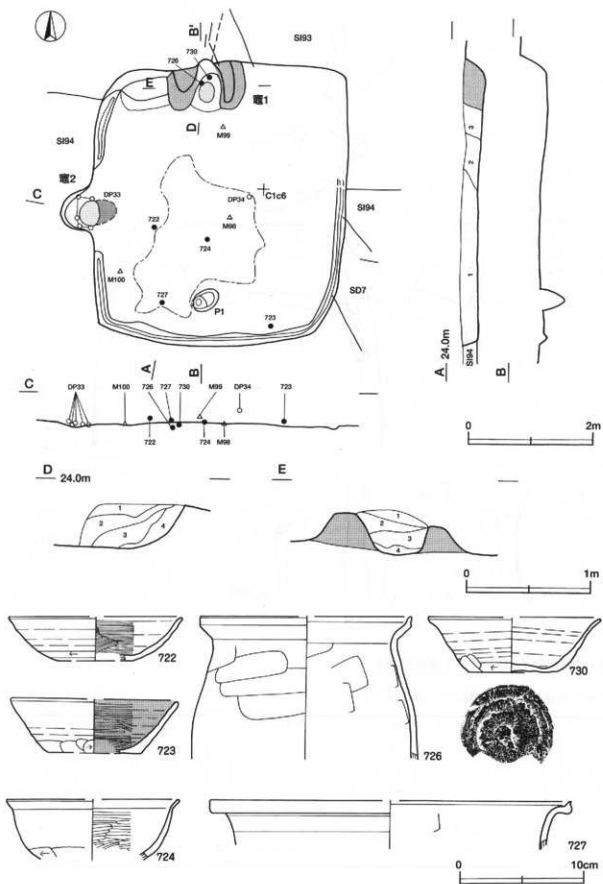
覆土 3層からなり、レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

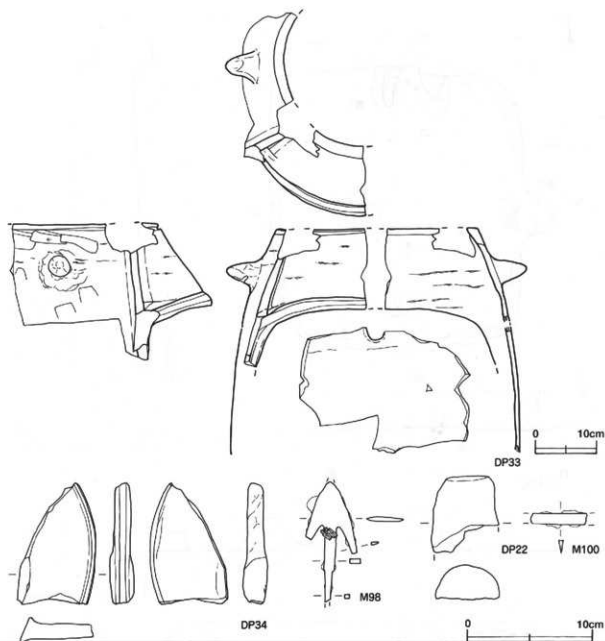
- | | | | | | |
|-----|----|---------------------|-----|-----|----------------------|
| 1 黒 | 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 | 3 灰 | 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 黒 | 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片142点(杯21, 高台付碗1, 甕120), 須恵器片59点(杯17, 甕40, 瓶1, 長頸瓶1), 置き竈1点, 鈎掛け1点, 鉄鏝1点, 刀子1点, 鉄滓1点が、全滅から散在して出土している。多くの遺物は、覆土下層から出土している。722の土師器杯は、中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。



第193图 第97号住居跡・出土遺物実測図



第194図 第97号住居跡出土遺物実測図

第97号住居跡出土遺物観察表 (第193・194図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
722	土師器	坏	[13.8]	3.5	[6.0]	雲母・長石	にぶい橙	普通	底部・体部下端回転ヘラ削り, 内面ヘラ磨き	覆土下層	20%
723	土師器	坏	[13.6]	4.4	[7.4]	長石	にぶい橙	普通	底部一方方向のヘラ削り, 体部下端手持ちヘラ削り, 内面ヘラ磨き	覆土下層	20%
724	土師器	坏	[14.0]	(4.9)	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り, 内面ヘラ磨き	覆土下層	10%
726	土師器	甕	[17.0]	(11.6)	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナゲ, 体部内・外面ヘラナゲ	覆土下層	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
727	須恵器	甕	[29.2]	(3.9)	-	青母・長石・石英・赤色粒子	にぶい煙	不良	口縁機ナデ	覆土下層	5%
730	須恵器	坏	[14.0]	4.4	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄煙	普通	底部回転ヘラ切り後、一方方向のヘラ削り、底部下層手持ちヘラ削り	覆土下層	60%, PL53

番号	器種	底径	上面径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP33	置き甕	-	[32.0]	(36.5)	(1653)	土製	背面中央に換気口、前面に突起、焚口縁折曲り	覆土大赤面	PL58

番号	器種	外径	内径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP34	罫掛け	[26.8]	[14.8]	2.0	(87.4)	土製	外面ヘラナデ、被熱痕	覆土上層	PL59

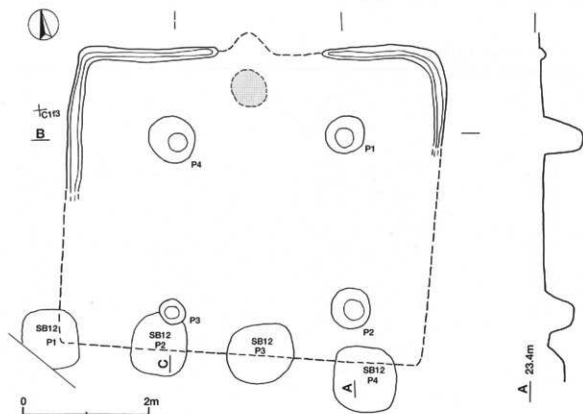
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP22	支脚	(6.0)	5.4	3.5	(69.2)	土製	側面ナデ、被熱痕	覆土中	
M98	鋸	(9.6)	(4.2)	0.4	(22.7)	鉄	長三角形、先端部・逆斜・基部欠損	覆土下層	PL60

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	茎長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M100	刀子	(4.5)	(4.5)	1.0	0.4	-	(5.7)	鉄	刃部破片、切先欠る	床面	

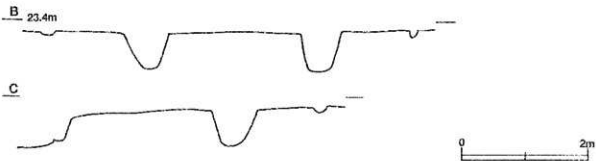
第98号住居跡 (第195・196図)

位置 調査区の西部のC1F3区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

重複関係 第12号掘立柱建物跡のP1~4を掘り込んでいる。



第195図 第98号住居跡実測図(1)



第196図 第98号住居跡実測図(2)

規模と形状 床面まで削平された状態で検出されたため、竈の残存部やピットの位置から判断して、N 10° Eを主軸とする長軸5.9m、短軸5.1mの長方形と推定される。床面まで削平された状態で検出されたため、壁の立ち上がりは確認できなかった。

床 削平を受けている南部を除き、ほぼ平坦である。硬化した床面は確認できなかった。溝溝は、削平度の少ない東・西壁の北側と北壁で確認できた。

竈 削平により遺存状態が非常に悪いが、北壁中央部に付設されていたと推測される。竈が付設されていたと考えられる部分には、焼土が散在している。

ピット 4か所。注柱穴は、P1～4が相当する。深さは、P1・4が60cm前後と深く、P2・3は34～45cmである。

覆土 確認できなかった。

遺物出土状況 須恵器変片1点がP1の覆土中から出土している。小片であり、図示することができなかった。

所見 時期は、出土土器片から8世紀中葉と考えられる。

表3 奈良・平安時代住居跡一覧表

住居番号	位置	土軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設				覆土	主な出土遺物	備考 (時期)			
							竈	土器貯蔵	土器製作	炭						
1	A3q4	N-1°-E	方形	3.49×3.44	38	平坦	部	—	1	—	—	1	自然	土師器、須恵器、釘	8世紀後半	
2	A3f2	N-7°-W	方形	4.32×4.26	54	平坦	一部	4	1	—	—	1	自然	土師器、須恵器、土師製鎌、土師製刀、弓矢、刀、釘	8世紀中葉	
3	A3f5	N-10°-W	方形	3.52×3.30	5	平坦	一部	4	1	—	—	—	自然	土師器、須恵器、磁石	8世紀中葉	
4	B3c4	N-90°-E	方形	3.07×3.18	15	平坦	部	—	1	—	—	2	自然	土師器、須恵器、土師製鎌	8世紀前半	
5	B3c3	N-3°-W	方形	4.41×4.04	10-30	平坦	全面	4	1	—	—	1	自然	土師器、須恵器、磁石、刀子、釘	8世紀中葉	
6	B3c1	N-10°-E	方形	4.15×2.80	44	平坦	一部	2	—	—	—	1	自然	土師器、須恵器	8世紀前半	
7	B3c1	N-20°-W	方形	3.90×2.53	18-30	平坦	部	2	1	—	—	—	自然	須恵器、釘	8世紀前半	
8	B3b2	N-20°-W	方形	3.08×3.05	11-23	平坦	全面	4	1	—	—	1	自然	土師器、須恵器、土師製鎌、土師製刀	8世紀前半	
9	B3b4	N-7°-W	方形	4.00×3.96	28	平坦	全面	4	2	4	—	1	自然	土師器、須恵器、刀子	8世紀中葉	
12	A4d5	N-5°-W	方形	3.27×3.07	10-25	平坦	全面	1	1	1	—	1	自然	土師器、須恵器、磁石	9世紀中葉	
13	B4j1	N-6°-W	長方形	4.56×4.12	16-38	平坦	全面	4	1	—	—	1	自然	土師器、須恵器、土石	8世紀前半	
14	B4c4	N-2°-W	方形	4.28×4.21	5	既斜	部	4	2	—	—	—	—	—	—	8世紀代
15	B4f4	N-4°-W	長方形	3.28×2.78	12-22	平坦	全面	—	1	—	—	1	自然	土師器、須恵器、磁石、鉄、土師製刀	9世紀後半	
17	B4f6	N-3°-W	方形	3.45×3.25	9-22	平坦	一部	4	1	—	—	1	自然	土師器、須恵器、磁石	8世紀前半	
18	B4d2	N-10°-E	方形	3.65×3.55	10	平坦	部	—	1	—	—	1	自然	—	8世紀代	
19	C-c3	N-6°-E	方形	4.17×3.90	16-60	平坦	部	4	1	—	—	1	1	自然	土師器	8世紀後半
20	C4f7	N-1°-E	方形	3.10×2.07	40-53	平坦	部	2	—	2	—	1	自然	土師器、須恵器、土師製鎌、刀子、磁石、土師製土	9世紀後半	
21	D3a8	N-6°-W	長方形	3.77×3.38	40-50	平坦	部	—	1	—	—	1	自然	土師器、須恵器、磁	8世紀後半	

作册编号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長×寬)	壁高 (cm)	地面	内部施設					甃土	土人出土遺物	備考 (時期)		
							壁溝	土柱穴門入	土小	土大	土中					
22	D3a6	N-5°-W	方形	4.60×3.30	43~66	平坦	全周	4	1	—	—	1	自然	土師器, 須臾器, 刀子, 炭化種子	8世紀前半	
24	D3d1	N-0°	方形	4.12×4.11	20~25	平坦	全周	1	2	—	—	1	自然	土師器, 須臾器, 砥石, 釘, 鉄製	9世紀中葉	
25	D3b5	N-15°-W	方形	3.50×3.20	—	平坦	—	—	—	—	—	1	自然	須臾器, 土製支脚	8世紀前半	
26	D3a3	N 6°-W	方形	3.07×3.05	12~35	平坦	全周	—	1	—	—	1	自然	土師器, 須臾器	8世紀後半	
27	D3c5	N-3°-E	方形	5.62×4.68	25~30	平坦	全周	4	1	2	1	1	自然	土師器, 須臾器, 砥石, 釘	8世紀後半	
28	D3c7	N-79°-E	長方形	6.30×5.58	20~32	平坦	全周	4	2	2	—	2	自然	土師器, 須臾器, 円金目, 刀子	8世紀前半	
29	D3f0	N-28°-W	方形	3.22×3.22	—	平坦	—	—	1	—	—	1	—	—	8世紀代	
31	D4c6	N 2°-W	方形	3.58×3.42	31~42	平坦	全周	—	1	1	—	1	自然	土師器, 須臾器, 鍬片	8世紀前半 —中葉	
33	D4e5	N-90°-E	長方形	3.57×2.78	12~25	平坦	—	—	1	—	—	—	自然	土師器, 須臾器	8世紀前半 —中葉	
34	D3d0	N-88°-E	方形	3.70×3.43	13~22	平坦	一部	—	1	—	—	1	自然	土師器, 須臾器	8世紀中葉	
35	D3f8	N-97°-E	長方形	3.47×2.85	6~10	平坦	全周	—	1	—	—	2	自然	土師器, 須臾器, 刀子, 釘, 穴銭	9世紀後半	
36	D4j1	N-19°-W	方形	2.60×2.48	1~5	平坦	一部	—	1	—	—	1	自然	須臾器, 双孔門板, 釘	8世紀後半	
37	F4a2	N 3°-W	方形	3.76×3.33	8~15	平坦	一部	—	1	4	—	1	自然	土師器, 須臾器, 砥石	8世紀後半	
38	D4h2	N-4°-W	方形	3.83×3.73	12	平坦	部	—	1	—	—	—	自然	土師器, 須臾器, 砥石	8世紀中葉	
39	E3b7	N-8°-E	長方形	4.26×3.58	8~16	平坦	全周	1	—	—	—	1	人為	須臾器	8世紀後半	
41	G4f6	N-9°-E	不整方形	3.79×3.53	27~55	覆輪部	一部	—	1	3	—	—	1	自然	土師器, 須臾器, 鉄片	9世紀中葉
43	C3d9	N-15°-W	方形	3.62×3.58	20~27	平坦	全周	4	1	2	—	1	自然	土師器, 須臾器, 土工	8世紀前半	
44	C4d7	N-10°-E	方形	3.10×3.30	—	平坦	部	—	—	—	—	—	—	—	8世紀代	
45	C4f7	N 2°-E	方形	5.00×3.82	51~54	平坦	一部	—	—	—	—	—	自然	土師器, 須臾器, 鉄製網罟, 釘, 瓦	9世紀中葉	
46	C4d2	N-2°-E	方形	4.00×3.76	43~52	平坦	部	—	1	—	—	1	自然	土師器, 須臾器, 刀子	8世紀前半	
47	C4j1	N-30°-W	方形	3.70×3.62	2~18	平坦	部	4	1	—	—	1	自然	須臾器	8世紀前半	
48	C3b9	N 2°-W	方形	3.43×3.25	10~20	平坦	全周	3	1	1	—	1	自然	土師器, 須臾器	8世紀前半	
49	C3j9	N-5°-W	方形	3.50×3.29	12~34	平坦	一部	—	1	—	—	1	自然	土師器, 須臾器	9世紀中 —後半	
50	C3j9	N-11°-W	長方形	2.72×2.44	2~32	平坦	部	—	—	—	—	1	自然	土師器, 須臾器	9世紀前 —中葉	
52	C3f8	N-15°-E	方形	4.53×4.49	35~45	平坦	全周	4	1	1	—	1	人為 自然	土師器, 須臾器, 土製支脚	8世紀前半	
53	C3e6	N-4°-W	長方形	4.78×3.40	40~58	平坦	全周	—	1	4	—	1	自然	土師器, 須臾器, 釘	8世紀後半	
56	C3c3	N-19°-W	方形	4.80×4.54	50	平坦	全周	4	1	—	—	1	自然	土師器, 須臾器, 砥石, 釘	8世紀後半	
57	C4j4	N-6°-W	方形	4.03×4.02	3	平坦	—	—	2	1	—	—	1	自然	土師器	8世紀中葉
58	D3c3	N 4°-E	方形	3.64×3.52	12~24	平坦	全周	3	1	—	—	1	自然	土師器, 須臾器, 刀子, 釘	9世紀中葉	
59	D3e5	N-2°-W	長方形	5.40×4.56	5~22	平坦	全周	4	1	—	—	1	自然	土師器, 須臾器, 漆鉢, 釘	8世紀前半	
61	D3f5	N 1°-E	長方形	5.00×4.29	8~23	平坦	全周	4	1	5	—	1	自然	土師器, 須臾器, 土製支脚, 砥石	8世紀後半	
62	C3b0	N 2°-W	長方形	3.98×3.33	—	—	—	—	4	1	—	—	—	—	9世紀前半	
64	F3a0	N-20°-E	方形	2.96×2.90	6	平坦	全周	—	1	—	—	1	自然	土師器, 須臾器	8世紀中葉	
65	E3c0	N-3°-E	方形	4.15×4.14	9~15	平坦	全周	4	1	1	—	1	自然	土師器, 須臾器	8世紀前半	
66	E3c3	N-13°-W	長方形	5.74×4.94	29~32	平坦	全周	2	1	2	—	1	自然	土師器, 須臾器, 釘	8世紀前半	
67	D4h6	N-4°-E	方形	4.38×4.23	30~50	平坦	一部	1	1	1	—	1	自然	土師器, 須臾器, 灰輪陶器, 釘	9世紀中葉 —後半	
68	D4g6	N-4°-W	方形	3.90×3.82	10~55	平坦	部	3	1	—	—	1	自然	土師器, 須臾器, 灰輪陶器, 鉄製 網, 炭化種子	8世紀中葉	
69	D4f5	N-11°-W	方形	5.19×4.98	10~25	平坦	全周	4	2	6	—	1	人為 自然	土師器, 須臾器, 砥石	8世紀前半	
71	F4a3	N-7°-E	方形	2.84×2.32	28~40	平坦	部	—	—	—	—	1	自然	—	8世紀前半	
72	E4h2	N-8°-E	方形	4.82×2.58	6~24	平坦	部	2	—	—	—	1	自然	不銜製品	8世紀中葉	
73	F4f1	N-1°-E	方形	4.30×4.25	22~40	平坦	部	—	—	—	—	1	自然	—	8世紀前半	
74	E4a5	N-20°-E	方形	3.30×4.24	30	平坦	—	—	1	—	—	1	自然	須臾器, 箱門口	8世紀前半	
76	E4d7	N 6°-W	方形	3.86×2.98	7~17	平坦	一部	1	1	—	—	—	自然	土師器, 須臾器	8世紀前半	
77	C2d9	N-0°	長方形	5.60×4.98	30~52	平坦	全周	4	1	2	—	1	自然	土師器, 須臾器, 灰輪陶器, 砥石, 釘, 瓦	9世紀中葉	
78	C3j1	N-90°-E	長方形	3.88×3.09	17~21	平坦	部	—	1	—	—	2	自然	土師器, 須臾器, 砥石	9世紀中葉	
79	D3d1	N 2°-W	長方形	4.00×3.45	—	平坦	一部	2	—	—	—	1	—	—	平安時代	

住居/特 券 号	方位 (長軸方向)	平面形	底辺(m) (長×短)	壁 高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	主な出土遺物	備 考 (時期)	
						壁溝	土柱	土床	土間	土	土				土
80	C1e5	N-2'-W	長方形	7.30×6.30	15-60	平坦	全周	4	1	-	-	1	自然	土師器、須恵器、灰輪陶器、土製支脚、金床石、砥石、刀子、鎌、釘	8世紀中葉-後葉
81	C2a4	N-5'-W	方形	3.80×3.80	45	平坦	一部	-	1	-	-	1	自然	土師器、須恵器、土製支脚、不明鉄製品、瓦	9世紀中葉
83	C1a5	N-14'-E	方形	3.50×3.30	12-27	平坦	一部	1	-	-	-	1	自然	土師器、須恵器、灰輪陶器、輪	9世紀後葉
84	C2a6	N-16'-W	方形	3.40×3.60	32-44	平坦	一部	-	1	-	-	-	自然	須恵器、クルリ罐	8世紀中葉-後葉
85	C2b8	N-12'-W	方形	4.60×4.51	26-40	平坦	全周	4	1	1	-	1	自然	土師器、須恵器、土製紡車、不明鉄製品	8世紀後葉
86	C2c7	N-3'-W	長方形	5.34×4.80	10-30	平坦	全周	4	1	-	-	1	自然	土師器、須恵器、灰輪陶器、土製紡車、砥石、刀子、鉄釘、不明鉄製品	9世紀後葉
87	C1c3	N-10'-E	方形	3.90×3.67	9-20	平坦	部	2	1	-	-	2	自然	土師器、須恵器	9世紀後葉
88	C2f8	N-8'-W	長方形	5.18×4.28	4-14	平坦	-	4	1	-	-	1	自然	土師器、須恵器	9世紀前葉
89	C2e6	N-15'-W	方形	4.80×4.47	-	平坦	-	4	1	-	-	[1]	-	-	8世紀代
90	C1a8	N-13'-W	長方形	3.86×3.18	42-51	平坦	全周	4	1	-	-	1	自然	土師器、須恵器	8世紀中葉
91	D2f5	N-16'-E	方形	5.14×5.188	-	-	-	-	-	-	-	[1]	-	-	8世紀代
92	C1g7	N-3'-E	方形	5.50×5.03	9-21	平坦	一部	4	1	-	-	1	自然	土師器、須恵器、釘	8世紀中葉
93	C1b6	N-12'-E	方形	3.82×2.72	5-45	平坦	全周	4	1	-	-	1	自然	土師器、須恵器、砥石、釘	8世紀前葉-中葉
94	C1c5	N-9'-E	方形	6.88×6.62	9-45	平坦	全周	4	1	1	-	-	自然	土師器、須恵器、灰輪陶器、土製紡車、土製支脚、刀子、鎌、鉄釘、不明鉄製品	8世紀後葉
95	C1f5	N-14'-E	方形	6.14×6.08	1-8	平坦	一部	4	1	-	-	-	自然	土師器、須恵器、刀子、釘、鉄釘	8世紀後葉
97	C1c5	N-1'-W	長方形	4.62×4.10	5-48	平坦	部	4	1	-	-	2	自然	土師器、須恵器、灰輪陶器、土製支脚、刀子、鉄釘、鉄釘	9世紀後葉
98	C1f3	N-10'-E	長方形	5.92×5.12	-	平坦	部	4	1	-	-	[1]	-	-	8世紀中葉

(2) 鍛冶工房跡

第1号鍛冶工房跡(第42号住居跡)(第197図)

位置 調査区の東部のC4g6区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状 長軸2.72m、短軸2.46mの長方形で、主軸方向はN-2'Eである。壁高は4-33cmで、西壁は外傾して立ち上がり、他の壁は緩やかに立ち上がっている。

床 南壁中央部から緩やかな傾斜が見られるが、ほぼ平坦で、北東部を除き炉とピットを囲むように中央部がよく踏み固められている。壁溝は、確認できなかった。

鍛冶炉 1か所。床面中央や北寄りで検出された。規模は径20cmほどの円形で、床面を7cmほど掘りくぼめ、粘土を貼り付けた炉である。炉床は、高温の火熱により劣変硬化している。また、炉周辺の床面が赤変している。土層は4層からなり、いずれも炉内の覆土である。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|--------|--------------------|
| 1 黒 色 | 炭化物・焼土粒子・ローム粒子微量 | 3 赤 褐色 | 焼土ブロック・砂粒少量、粘土粒子微量 |
| 2 暗 赤 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 4 黒 褐色 | 焼土粒子・砂粒微量 |

ピット 2か所。主柱穴は、確認できなかった。P1は炉と南北に対峙する位置にあり、炉との間に欄干口を設置したと考えられる溝も検出されていることから、炉に対する欄を設置したピットと考えられる。P2は深さ28cmのピットであり、性格は不明であるが欄に関連する施設の可能性が考えられる。

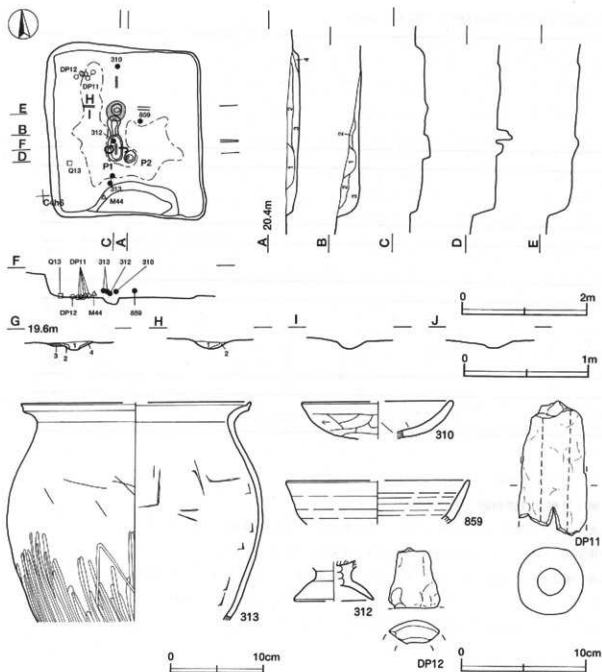
覆土 4層からなる。堆積に乱れが見られることから第1層は人為堆積と考えられるが、第2-4層はレンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

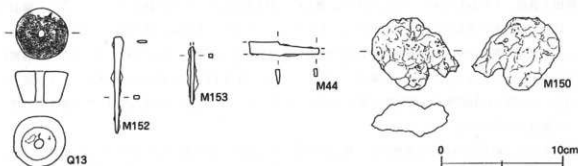
- | | | | |
|--------|-----------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 3 黒 褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 暗 赤 褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片219点(坏68, 高坏1, 甕150), 須惠器片15点, 石製紡錘車1点, 刀子1点, 輪羽口2点, 鉄滓・鍛造剥片多数が, 全域から散在して出土している。多くの遺物は, 覆土下層から出土している。鉄滓は, 炉東側の覆土中層とP1東側の硬化面の東端の覆土下層から集中して出土している。また, 鍛造剥片は, 全域から出土しているが, 炉周辺から集中して出土している。DP11・12の輪羽口は, 北西コーナー部の覆土下層から, Q13の石製紡錘車は西壁際の覆土下層から出土している。312の土師器高坏は, 覆土第1層に伴う混入の可能性が考えられる。

所見 本跡は, 鍛冶炉の存在や各種鉄滓・輪羽口の出土から鍛冶工房であったと考えられる。時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第197図 第1号鍛冶工房跡・出土遺物実測図



第198図 第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図

第1号鍛冶工房跡出土遺物観察表 (第197・198図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
310	土器器	杯	[12.3]	(3.0)	-	長石・石英	褐灰	普通	口縁横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	覆土下層	20%
312	土器器	高杯	[6.4]	(3.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部内面ヘラ削き	覆土下層	40%
313	土器器	羹	[24.4]	(24.0)	-	黒母・長石・石英 にぶい埋		普通	口縁横ナデ, 体部外面下位ヘラ削き, 外面上位・内面ヘラナデ	覆土下層	30%
859	須恵器	杯	[14.8]	(3.5)	-	黒母・長石・石英	灰黄	良好	底部回転ヘラ削り	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP11	輪羽口	(10.9)	5.5	2.2	(205.6)	土製	外面ヘラ削り, 先端部鉄滓付着, 中央部成化	覆土下層	PL58
DP12	輪羽口	(4.9)	[5.6]	[3.2]	(30.2)	土製	内・外面ヘラ削り, 一方の先端部残存	覆土下層	PL58

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	紡錘車	4.3	0.8	2.6	54.5	凝灰岩	断面逆台形, 上面の孔を流るようにつく	覆土下層	PL59

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M150	鉄滓	6.0	7.3	2.8	115.5	鉄	楕円形	覆土下層	PL62
M152	不明	8.0	0.1~0.8	0.2~0.3	5.2	鉄	断面長方形の棒状	覆土中層	PL62
M153	不明	(4.7)	0.3	0.3	(2.7)	鉄	断面方形の棒状	覆土中層	PL62

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	葉長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M44	刀子	(5.8)	(2.5)	1.0	0.4	(3.3)	(7.0)	鉄	刃部・葉尻欠損, 両面	覆土下層	

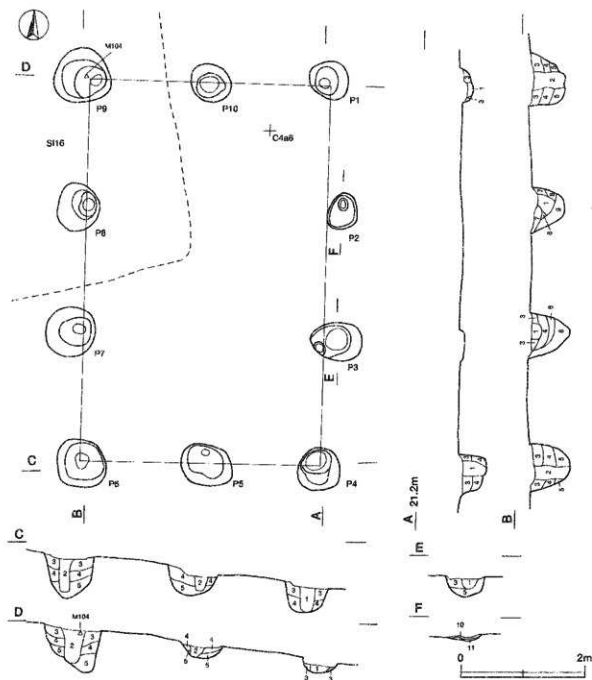
(3) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第199図)

位置 調査区の東部のC4a5区に位置し, 東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 P8・9がいずれも第16号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の隅柱式の建物跡で, 桁行方向をN-0°とする南北棟である。規模は, 桁行6.20m, 梁行3.90mである。柱間寸法は, 桁行1.84~2.36m, 梁行1.88~2.02mであり, 桁行にばらつきが見られる。柱穴はほぼ規則的に配置され, 柱筋はおおむね芯々を通っている。



第199図 第1号掘立柱建物跡

柱穴 平面形はP2・3・5が不整長方形，P8・10が円形で，その他は不整形である。深さは，12～75cmとばらつきがある。柱痕は第1・2層が相当し，その他は埋土と考えられる。埋土は粘性・しまりとも普通で，強く突き固められた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒 粘 色	炭化物少量，ローム粒子微少	7 黒 粘 色	炭土粒子・炭化物少量，ローム粒子微少
2 黒 粘 色	ロームブロック少量	8 黒 粘 色	ローム粒子微少
3 暗 黄 色	ロームブロック・炭土粒子・炭化物少量	9 黒 粘 色	ロームブロック中量
4 暗 粘 色	ロームブロック少量	10 黒 粘 色	炭土粒子少量，ローム粒子微少
5 黒 粘 色	ローム粒子中量	11 黒 粘 色	ローム粒子多量
6 暗 粘 色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片35点、須恵器片5点、刀子1点が、柱痕や埋土中から出土している。M104の刀子はP9の柱痕から、743の土師器環はP1の埋土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。桁行方向が南東方行6mに位置する第20号住居跡の主軸方向とはほぼ同一であり、同時期に機能していた可能性が考えられる。



第200図 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第200図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
743	土師器	環	[12.4]	3.9	[6.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへつ削り、内面へく磨き	P2埋土中	5%
TP81	土師器	甕	-	[2.3]	-	赤母・長石・小礫	浅黄橙	普通	転用甕	P8埋土中	

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	刃長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M104	刀子	(6.8)	(6.8)	0.9	0.3	-	(4.9)	鉄	切先・基部欠損	P9柱痕	PL61

第2号掘立柱建物跡(第201図)

位置 調査区の東部のC4b7区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 P2の北部が第3号掘立柱建物跡のP1に掘り込まれている。

規模と構造 梁行2間の側柱式の建物跡であり、東側部分が調査区域外のため断定できないが、付近の掘立柱建物跡の形状から見て桁行3間の可能性が考えられる。桁行方向をN-82°-Wとする東西棟である。規模は確認された桁行3.56m、梁行3.90mである。柱間寸法は桁行1.86~2.04m、梁行1.60~1.70mである。柱穴はほぼ規則的に配置され、柱筋はおおむね芯々を通っている。

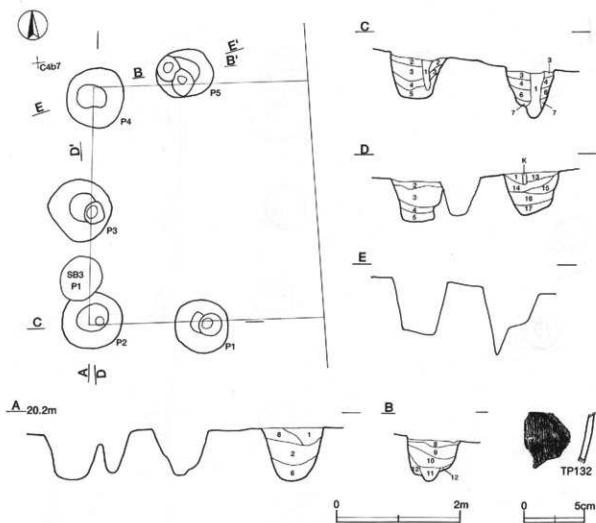
柱穴 平面形は、P1が不整形、P2が円形で、その他は不整形である。深さはP5が111cmと深く、P1~4は72~90cmである。柱痕は第1層が相当し、その他は埋土と考えられる。しまりの弱い埋土が多く、強く突き固められた形跡はない。

土層解説(各柱穴共通)

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	黒褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック少量	12	黒褐色	ロームブロック微量
4	黒褐色	ローム粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック微量	14	黒褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック微量	15	暗褐色	ロームブロック少量
7	褐色	ロームブロック微量	16	黒褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック微量	17	暗褐色	ロームブロック少量
9	黒褐色	ロームブロック少量・焼土粒子微量・粘土粒子極微量			

遺物出土状況 土師器片67点、須恵器片2点が、埋土中から出土している。TP132の土師器甕片は、P3の埋土中から出土している。

所見 時期は、第3号掘立柱建物跡との重複や出土土器片から8世紀後半と考えられる。桁行方向が南方2mに位置する第44号住居跡の主軸方向とはほぼ直交しており、同時期に機能していた可能性が考えられる。



第201図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第201図)

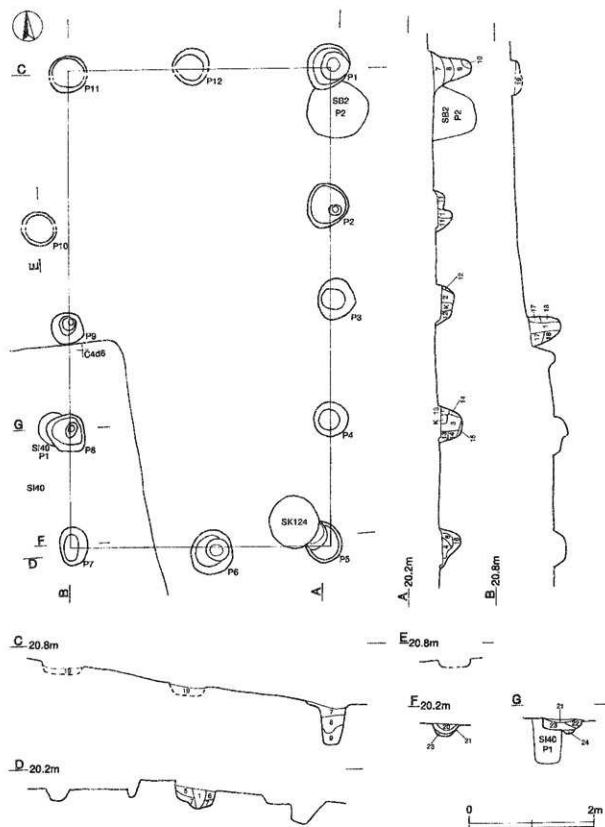
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP132	土師器	甕	-	(4.2)	-	灰石・赤色粒子	橙	普通	体部外面ハケ目調整, 内面ナデ	P3埋土中	PL55

第3号掘立柱建物跡(第202図)

位置 調査区の東部のC4c6区に位置し, 東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 P7~9が第40号住居跡の北東部を, P1が第2号掘立柱建物跡のP2の北部を掘り込み, P5の北西部が第124号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間, 梁行2間の側柱式の建物跡で, 桁行方向を $N-4^{\circ}-E$ とする南北棟である。規模は桁行7.65m, 梁行4.22mである。柱間寸法は桁行1.40~2.50m, 梁行1.85~2.34mであり, P2・10が南に寄っているためにP1・2間, P11・12間が広くなっている。柱穴はP10を除いてほぼ規則的に配置され, 柱筋はおむね芯々を通っている。



第202图 第3号掘立柱建物跡実測图

柱穴 平面形はP3・8・9が不整形、P5・7が不整形円形で、その他は円形である。深さは、14～58cmとばらつきがある。柱痕は第1～4層が相当し、その他は埋土と考えられる。しまりの弱い埋土が多く、強く突き固められた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒 褐色	ロームブロック微量	13 暗 褐色	ロームブロック微量
2 黒 褐色	ローム粒子微量	14 灰 褐色	ロームブロック微量
3 暗 褐色	ロームブロック微量	15 暗 褐色	ローム粒子微量
4 灰 褐色	ローム粒子少量	16 暗 褐色	ローム粒子微量
5 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	17 暗 褐色	ロームブロック少量
6 黒 褐色	焼土粒子・ローム粒子微量	18 暗 褐色	ロームブロック少量
7 黒 褐色	ロームブロック微量	19 暗 褐色	ローム粒子微量
8 黒 褐色	ローム粒子微量	20 黒 褐色	炭化物・ロームブロック中量、焼土粒子少量
9 黒 褐色	ロームブロック微量	21 暗 褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
10 暗 褐色	ローム粒子中量	22 暗 褐色	ロームブロック中量、炭化物少量
11 暗 褐色	ローム粒子微量	23 暗 褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量
12 暗 褐色	焼土粒子・ローム粒子微量	24 暗 褐色	ロームブロック中量、炭化物粒子微量

遺物出土状況 土師器片4点が、埋土中から出土している。小片であり、図示することができなかった。

所見 時期は、第40号住居跡・第2号掘立柱建物跡との重複や出土土器から9世紀前半と考えられる。桁行方向が南東方向6mに位置する第45号住居跡の主軸方向とはほぼ同一であり、同時期に機能していた可能性が考えられる。

第5号掘立柱建物跡 (第203図)

位置 調査区の東部のC4e5区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 P6～8がいずれも第40号住居跡の南東部を掘り込み、P2が第183号土坑に、P5が第249号土坑にいずれも掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行方向をN-5°-Wとする南北棟である。規模は桁行4.10m、梁行3.88mである。柱間寸法は桁行1.96～2.08m、梁行1.32～2.52mであり、P4・8が東に寄っているためにP4・5間、P7・8間が広がっている。柱穴はほぼ規則的に配置されている。

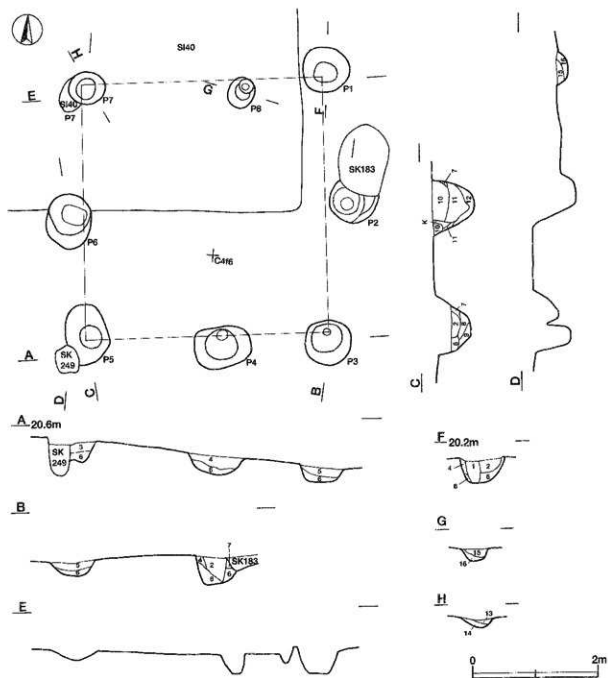
柱穴 平面形はP5・6が楕円形で、その他は不整形円形である。深さは、16～68cmである。柱痕は第1・2層が相当し、その他は埋土と考えられる。埋土は粘性・しまりともに普通で、強く突き固められた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒 褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	9 暗 褐色	ローム粒子少量
2 暗 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	11 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐色	炭化物・ロームブロック少量、焼土粒子微量	12 暗 褐色	ロームブロック少量
5 黒 褐色	ロームブロック微量	13 黒 褐色	ロームブロック中量、炭化物少量
6 暗 褐色	ロームブロック少量	14 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
7 暗 褐色	ローム粒子中量	15 暗 褐色	炭化物・ロームブロック・焼土粒子少量
8 黒 褐色	ロームブロック少量	16 暗 褐色	砂粒微量

遺物出土状況 土師器片25点、須恵器片3点、不明鉄製品1点が、柱痕や埋土中から出土している。小片であり、図示することができなかった。

所見 時期は、出土土器片から8世紀代と考えられる。主軸方向が同一である南方4mに位置する第1号鍛冶工房跡と西方8mに位置する第46号住居跡の中間に位置する本跡は、軸方向が若干異なるものの同時期に機能していた可能性が考えられる。



第203図 第5号掘立柱建物跡実測図

第6号掘立柱建物跡 (第204図)

位置 調査区の中央部のC3f4区に位置し、平坦な台地の東端部に立地している。

重複関係 西部が第225～227号土坑と重複している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、東側に庇を持っている。桁行方向を $N-1^{\circ}-E$ とする南北棟である。規模は桁行5.18m、梁行は身舎だけで3.73m、庇の部分を含めると4.99mである。身舎の柱間寸法は桁行1.55～2.04m、梁行1.78～1.95mであり、桁行にばらつきが見られる。庇の柱は3か所検出され、柱間寸法はほぼ2.25mである。柱穴は、規則的に配置されている。西側の桁行の柱穴は、第225～227号土坑に掘り込まれたものと推測される。

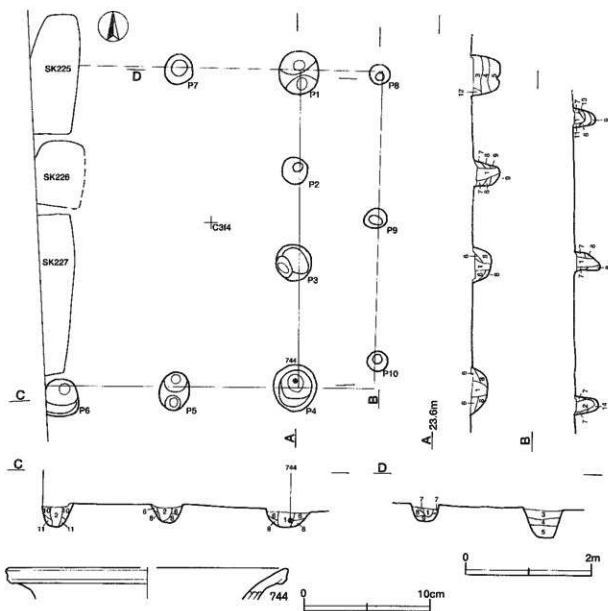
柱穴 平面形はP 5が楕円形、P 6が不整形で、その他は円形である。深さは、身舎が26～53cm、庇が40cmほどである。柱痕は第1・2層が相当し、その他は埋土と考えられる。しまりの弱い畑土が多く、強く突き固められた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 灰 褐色 炭化粒子・ローム粒子微量 | 8 灰 褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒 褐色 ローム粒子微量 | 9 灰 褐色 ローム粒子微量 |
| 3 灰 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 黒 褐色 ローム粒子微量 |
| 4 灰 褐色 ローム粒子微量 | 11 黒 褐色 ローム粒子微量 |
| 5 黒 褐色 ロームブロック微量 | 12 黒 褐色 ローム粒子微量 |
| 6 暗 褐色 ローム粒子微量 | 13 にぶい 褐色 ローム粒子少量 |
| 7 灰 褐色 ロームブロック微量 | 14 灰 褐色 ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1点、須恵器片1点が、柱痕と覆土中から出土している。744の須恵器甕は、P 4の柱痕中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第204図 第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第204図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
744	須臾器	甕	122.2	12.5	-	赤身・灰心・白美	灰	強射	口ケワ整形	P1層より	5%

第7号掘立柱建物跡 (第205図)

位置 調査区の中央部のC 2b0区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

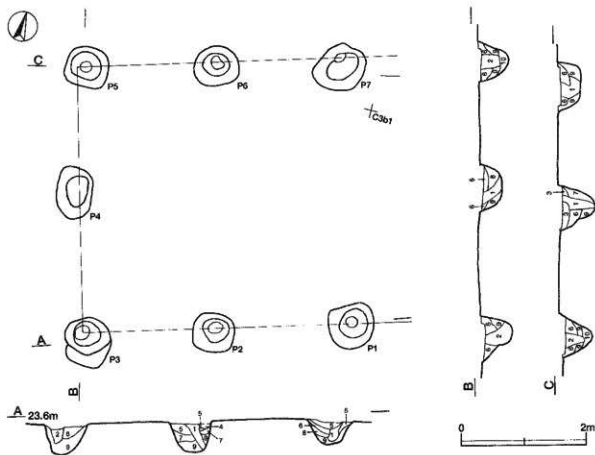
重複関係 第55号住居跡の北西部と重複していると考えられる。

規模と構造 梁行2間の側柱式の建物跡で、東部が調査区域外のため断定できないが、付近の掘立柱建物跡の形状から見て、桁行3間の可能性が考えられる。桁行方向をN-74°Eとする東西棟である。規模は、確認された桁行5.18m、梁行4.30mである。柱間寸法は、桁行2.00~2.26m、梁行2.04~2.28mである。柱穴はほぼ規則的に配置され、柱筋はおおむね芯々を通っている。南東隅の柱穴は、第55号住居跡の北西部を掘り込んでいたと推測される。

柱穴 平面形はP4が不整長方形で、その他は不整形である。深さは40~67cmである。柱痕は第1・2層が相当し、その他は埋土と考えられる。埋土は粘性・しまりとも普通で、強く突き詰められた形跡は見られない。

土層解読 (各柱穴共通)

- | | | | |
|----------|------------------|----------|----------------|
| 1 概 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 概 暗 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒 掘 色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 7 掘 色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗 掘 色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 8 掘 色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗 掘 色 | ロームブロック中量 | 9 掘 色 | ローム粒子多量 |
| 5 暗 掘 色 | ローム粒子中量 | 10 暗 掘 色 | ロームブロック少量 |



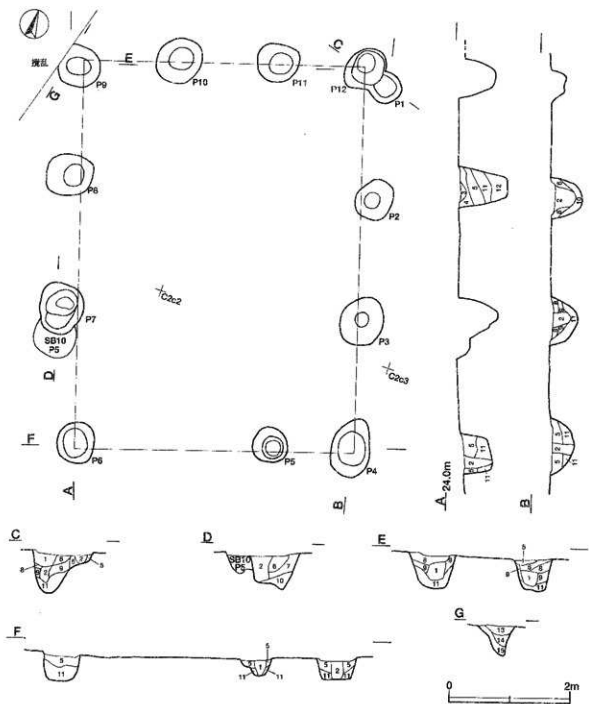
第205図 第7号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片27点、須志器片8点が、埋土中から出土している。小片であり、図示することができなかった。

所見 時期は、出土土器片から8世紀後半と考えられる。桁行方向が南方12mに位置する第9号掘立柱建物跡の桁行方向と直交しており、同時期に機能していた可能性が考えられる。

第8号掘立柱建物跡 (第206図)

位置 調査区の西部のC 2b2区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。



第206図 第8号掘立柱建物跡実測図

重複関係 P7が第10号掘立柱建物跡のP5を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の側柱式の建物跡で、桁行方向をN-18°-Wとする南北棟である。規模は桁行6.40m、梁行4.60mである。柱間寸法は、桁行1.90~2.40m、梁行1.35~3.25mである。P5・6間に柱穴が確認されなかったため、梁行の柱間寸法に大きな隔りがある。柱穴は、桁行に乱れがあるがほぼ規則的に配置されている。

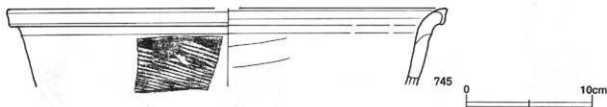
柱穴 平面形はP4・7が不整長方形、P3・10が円形で、その他は不整形である。深さは、35~82cmである。柱痕は第1・2層が相当し、その他は埋土と考えられる。埋土は粘性・しまりとも普通で、強く突き固められた形跡はない。

土層解説(各柱穴共通)

1 暗褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ロームブロック中量	11 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック中量	12 暗褐色	ロームブロック少量
5 褐色	ロームブロック少量	13 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子中量	14 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
7 暗褐色	ロームブロック中量	15 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
8 暗褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師器片15点、須恵器片1点が、埋土中から出土している。745の須恵器鉢の口縁部は、P4の埋土中から出土している。

所見 時期は、出土土器片から8世紀後葉と考えられる。桁行方向が東方14mに位置する第84号住居跡の主軸方向とはほぼ同一であり、同時期に機能していた可能性が考えられる。



第207図 第8号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第207図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
745	須恵器	鉢	[34.8]	(6.1)	-	雲母・長石	灰	良好	口縁横ナデ、体部外面横位の平行叩き、内面ヘラナデ	P4埋土中	5%

第9号掘立柱建物跡(第208図)

位置 調査区の中央部のC3f1区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

規模と構造 桁行3間の側柱式の建物跡で、東側が調査区域外のため断定はできないが、付近の掘立柱建物跡の形状から見て、梁行2間の可能性が考えられる。桁行方向をN-16°-Wとする南北棟である。規模は、桁行6.02m、確認された梁行3.40mである。柱間寸法は桁行1.80~2.18m、梁行1.94~2.10mである。P1・3・4は、柱筋よりも外側に位置している。

柱穴 平面形はP1~3が不整形、P4~6が不整円形である。深さは47~84cmである。柱痕は第1・2層が、柱抜き取り痕は第3~5層が相当し、その他は埋土と考えられる。埋土は粘性・しまりとも普通で、強く突き固められた形跡はない。

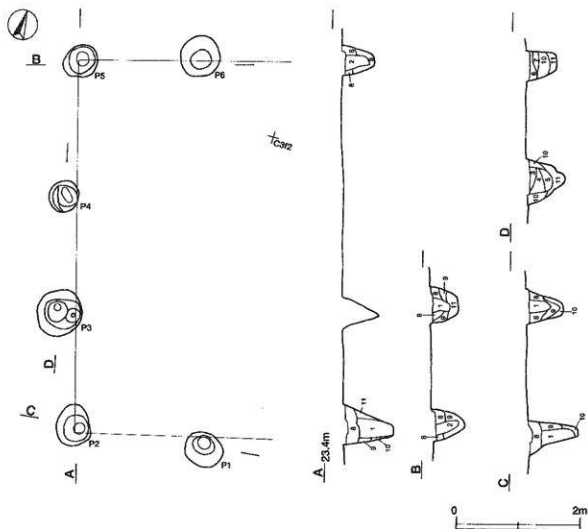
土層解説 (各柱穴共通)

- | | | |
|---|-----|-------------------|
| 1 | 灰褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 | 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 | 淡褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 | 灰褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 | 灰褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 | 黄褐色 | ロームブロック中量 |

- | | | |
|----|-----|-----------|
| 7 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 | 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 9 | 灰褐色 | ロームブロック中量 |
| 10 | 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 11 | 黄褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片2点が、埋土中から出ている。小片であり、図示することができなかった。

所見 桁行方向が北方12mに位置する第7号掘立柱建物跡の桁行方向と直交しており、同時期に機能していた可能性が考えられる。時期は、第7号掘立柱建物跡との関係や出土土器片から8世紀後半と考えられる。



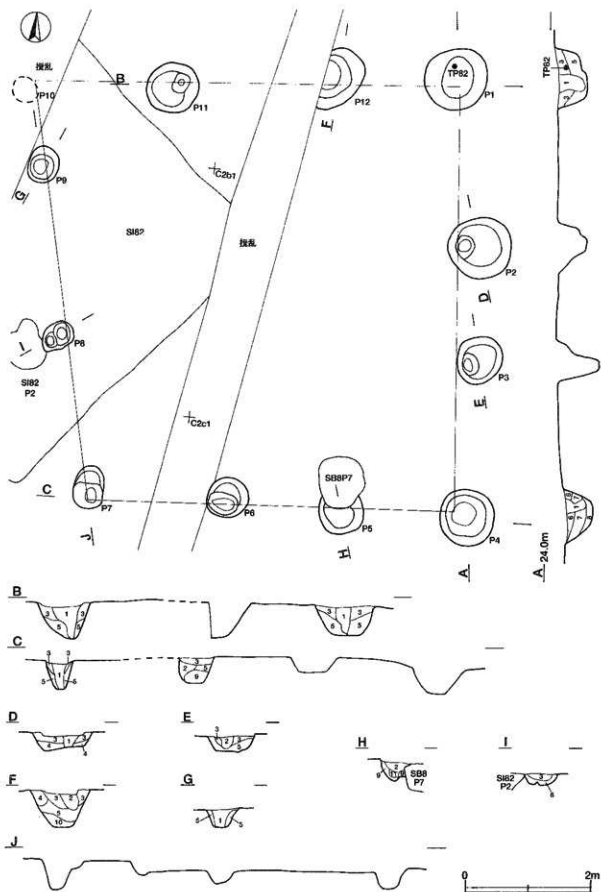
第208図 第9号掘立柱建物跡実測図

第10号掘立柱建物跡 (第209図)

位置 調査区の西部のC 2 b1区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

重複関係 P 8～10がいずれも第82号住居跡の南東部を掘り込み、P 5が第8号掘立柱建物のP 7に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の側柱式の建物跡で、桁行方向を $N-6^{\circ}-W$ とする南北棟である。規模は桁行6.80m、梁行6.40mである。柱間寸法は、桁行1.94～2.70m、梁行1.80～2.34mである。北西側の柱間が広く、北西コーナーが闊く台形状の形状を示している。



第209图 第10号掘立柱建物跡実測图

柱穴 平面形はP7・8が不整楕円形で、その他は不整形である。深さは20~70cmである。西側のP7~9は小振りの柱穴で、深さも他に比べて浅めである。柱痕は第1・2層が相当し、その他は埋土と考えられる。粘性・しまりともに普通の埋土が多く、強く突き固められた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

1	粘 褐色	ロームブロック少量	7	褐 色	ロームブロック中量
2	暗 褐色	ロームブロック少量	8	褐色	ロームブロック少量
3	暗 褐色	ロームブロック少量	9	褐色	ロームブロック中量
4	黒 褐色	ローム粒子微量	10	褐色	ロームブロック少量
5	褐色	ロームブロック微量	11	粘 褐色	ロームブロック少量
6	黄 褐色	炭化物・ローム粒子少量			

遺物出土状況 土師器片18点、須恵器10点が、柱痕や埋土中から出土している。TP82の須恵器甕片はP1の埋土中層から、746の土師器甕は埋土中から出土している。

所見 時期は、第8号掘立柱建物跡との重複関係や出土土器から8世紀中葉と考えられる。桁行方向が南方5mに位置する第16号掘立柱建物跡、西側の桁行方向が西方5mに位置する第90号住居跡の主軸方向とはほぼ同一であり、同時期に機能した可能性も考えられる。



第210図 第10号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第210図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
746	土師器	甕	[19.4]	(2.7)	-	雲母・長石・石英	明赤褐色	普通	口縁横ナデ、内面ヘラナデ	埋土中	5%
TP82	須恵器	甕	-	(4.7)	-	雲母・長石	灰黄褐色	普通	体部外面横位の平行引き、内面ナデ	P1埋土中層	

第11号掘立柱建物跡 (第211図)

位置 調査区の西部のB1J5区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

重複関係 P2が第15号掘立柱建物のP6に、P5が第6号溝にいずれも掘り込まれている。

規模と構造 北側・西側が調査区域外となるため断定できないが、確認された状態と他の掘立柱建物跡の形状から桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡と考えられる。桁行方向をN-88°-Wとする東西棟である。規模は、確認された桁行6.60m、推定梁行3.62mである。柱間寸法は、桁行2.04~2.12m、梁行1.82mである。柱穴は規則的に配置され、柱筋はほぼ芯々を通っている。

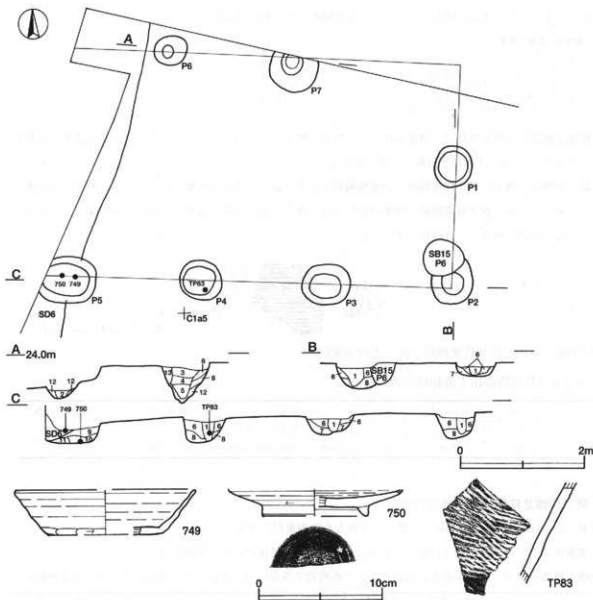
柱穴 平面形はP1・4・6が不整円形、P3・5が不整形長方形で、その他は不整形である。深さは22~65cmである。柱痕は第1・2層が、柱抜き取り痕は第3~5層が相当し、その他は埋土と考えられる。しまりの弱い埋土が多く、強く突き固められた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

1	黒 褐色	炭化粒子・ローム粒子微量	8	灰 褐色	ロームブロック微量
2	褐色	ローム粒子微量	9	灰 褐色	炭化物少量、ローム粒子微量
3	褐色	炭化粒子・ローム粒子微量	10	黒 褐色	ローム粒子微量
4	暗 褐色	炭化粒子・ローム粒子微量	11	にぶい褐色	ローム粒子微量
5	灰 褐色	炭化粒子・ローム粒子微量	12	褐色	ローム粒子微量
6	暗 褐色	ロームブロック微量	13	褐色	ローム粒子微量
7	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片4点、須恵器片10点が、埋土中から出土している。749の須恵器甕はP5の埋土上層から、750の須恵器高台付甕はP5の埋土下層から、TP83の須恵器甕片はP4埋土中層から出土している。

所見 時期は、第15号掘立柱建物跡との重複や出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第211図 第11号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第211図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
749	須恵器	坏	[14.6]	(3.6)	[9.6]	長石・石英	黄灰	良好	底部一方向のヘラ削り、体部下縁手持ちヘラ削り	P5掘土上層	20%
750	須恵器	高台付盤	-	(2.2)	[8.4]	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	P5掘土下層	30%
TP83	須恵器	类	-	(8.3)	-	雲母・長石・小礫	褐灰	普通	体部外面多方向の平行叩き、内面ヘラナデ	P4掘土中層	PL55

第12号掘立柱建物跡 (第212図)

位置 調査区の西部のC1g3区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

重複関係 P2～5が第98号住居に掘り込まれている。

規模と構造 南部・西部が調査区域外になるため断定できないが、付近の掘立柱建物跡の形状から見て、桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡の可能性が考えられる。桁行方向をN-81°-Wとする東西棟である。規模は、確認された桁行5.60m、梁行2.25mである。柱間寸法は、桁行1.68～1.78m、梁行1.65mである。柱穴は規則的に配置され、柱筋はほぼ芯々を通っている。

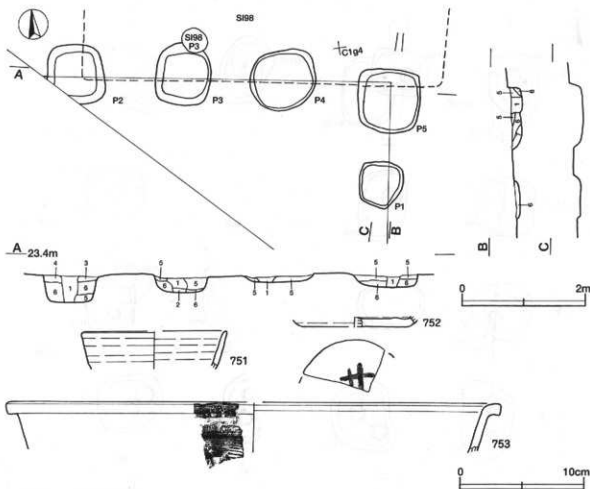
柱穴 平面形はP2が隅丸方形、P5が方形で、その他は不整形である。深さは8～48cmである。柱痕は第1・2層が相当し、その他は埋土と考えられる。粘性・しまりともに普通で、強く突き固められた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量 | 6 褐色 色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 色 炭化物少量、ロームブロック微量 |
| 4 褐色 色 ロームブロック・炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片19点、須恵器片8点が、埋土中から出土している。751・752の須恵器環、753の須恵器鉢はいずれもP4の埋土中から出土している。752の須恵器環の底部外面には、朱書が確認された。

所見 桁行方向が北方11mに位置する第94号住居跡の桁行方向と直交しており、同時期に機能していた可能性が考えられる。時期は、重複関係や出土土器から8世紀前半と考えられる。



第212図 第12号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第212図)

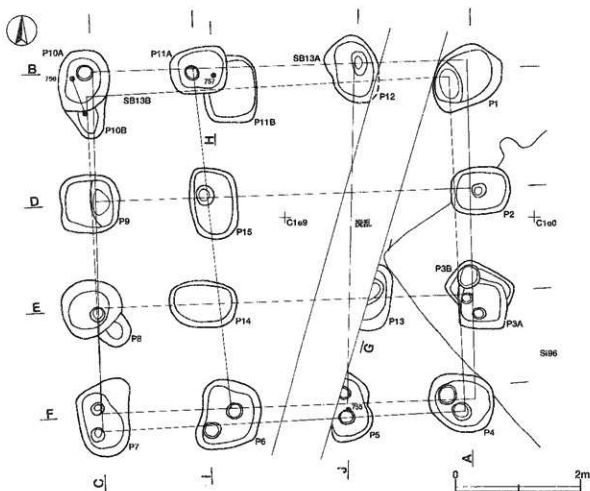
番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徵	出土位置	備考
751	須恵器	杯	11.81	3.0	-	富中長石石灰 灰	青透	ロクロ成形		P4跡中	5%
752	須恵器	杯	-	1.0	8.27	石英	黒灰	良好	盆部・方向のヘラ削り	P4跡中	10%、底証外証 茶書(付) P1.56
753	須恵器	鉢	20.07	4.0	-	富中長石石灰 灰	黒灰	良好	口縁部ナガ、体部外面縁位の平行叩き	P4跡上	5%

第13A・B号掘立柱建物跡 (第213・214図)

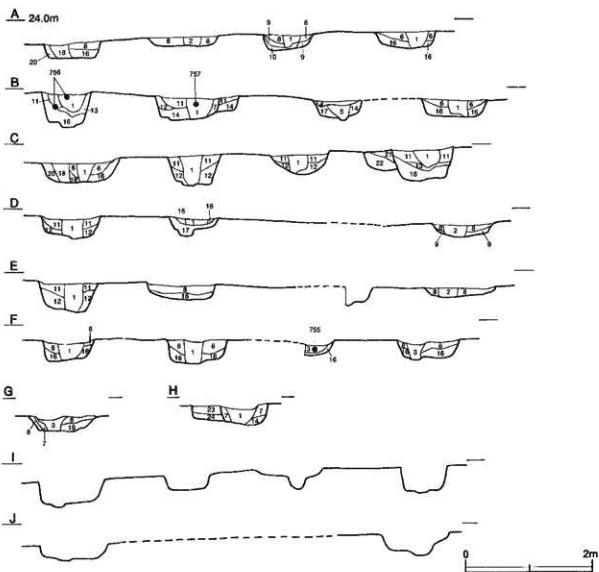
位置 調査区の西部のC1d8区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

重複関係 第13A号掘立柱建物跡が第13B号掘立柱建物跡のすべての柱穴を、P2・3がいずれも第96号住居跡の北西部を掘り込んでいる。

規模と構造 第13A号掘立柱建物跡は、桁行・梁行ともに3間の総柱式の建物跡で、桁行方向をN-88°-Eとする東西棟である。規模は桁行6.00m、梁行5.46mである。柱間寸法は、桁行1.54~2.66m、梁行1.28~2.10mである。柱穴は規則的に配置され、柱筋は芯々をほぼ通っている。第13B号掘立柱建物跡は、桁行・梁行ともに3間の総柱式の建物跡で、桁行方向をN-87°-Eとする東西棟である。規模は桁行5.80m、梁行5.40mである。柱間寸法は、桁行1.54~2.16m、梁行1.28~2.18mである。柱穴は規則的に配置され、柱筋は芯々をほぼ通っている。



第213図 第13A・B号掘立柱建物跡実測図(1)



第214図 第13A・B号掘立柱建物跡実測図(2)

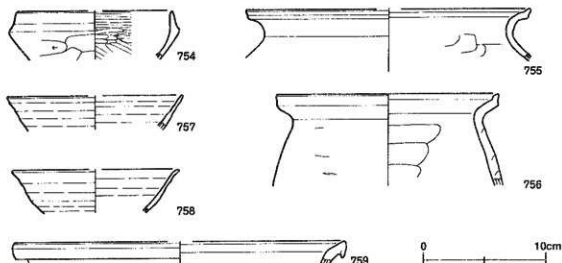
柱穴 第13A号掘立柱建物跡の柱穴の平面形は長方形が基調で、P 8～10は方形である。第13B号掘立柱建物跡の柱穴の平面形は重複によって不明であるが、P 3・11のように長方形が基調であったと考えられる。深さは、第13A号掘立柱建物跡が14～52cm、第13B号掘立柱建物跡が14～42cmである。第13A号掘立柱建物跡の柱版は第1～3層が相対し、その他は埋土と考えられる。第18層以下は第13B号掘立柱建物跡の埋土である。斬性・しまりとも普通の埋土が多く、強く突き固めた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

1	灰	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	14	灰	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	埋	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	15	埋	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	埋	褐色	焼土粒子・ローム粒子微量	16	埋	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	灰	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	17	埋	褐色	ローム粒子微量
5	埋	褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	18	埋	褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
6	暗	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	19	埋	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
7	埋	褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量	20	埋	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
8	暗	褐色	炭化物・焼土粒子・ローム粒子微量	21	灰	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
9	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	22	灰	褐色	炭化粒子・ローム粒子微量
10	埋	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	23	不	ない	褐色
11	埋	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量				
12	灰	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	24	埋	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13	埋	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量				

遺物出土状況 土師器片186点、須恵器片43点が、柱痕や埋土中から出土している。756の土師器甕はP10の埋土中層から、757の須恵器杯・759の須恵器鉢はP11の埋土中から出土している。P2の埋土中から出土している754の土師器杯は、重複する第96号住居跡からの混入と考えられる。

所見 桁行方向が西方5mに位置する第80号住居跡の主軸方向と直交し、同時期に機能していた可能性が考えられる。時期は、第80号住居跡との関係や出土土器から第13A号掘立柱建物跡は8世紀中葉から後葉、第13B号掘立柱建物跡は8世紀中葉と考えられる。



第215図 第13A・B号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第13A・B号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第215図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
754	土師器	杯	12.6]	4.0]	-	長石	にぶい橙	普通	口縁横ナデ、体部外徑ヘラナデ、内面ヘラナデ	P2埋土中	5%
755	土師器	甕	23.3]	4.3]	-	黄母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナデ、体部内面ヘラナデ	P5埋土中層	5%
756	土師器	甕	18.4]	7.5]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナデ、体部内・外面ヘラナデ	P10埋土中層	5%
757	須恵器	杯	14.2]	2.7]	-	長石・石英	黄灰	良好	口縁整形	P11埋土中	10%
758	須恵器	杯	13.5]	3.6]	-	黄母・長石・石英	灰	良好	口縁整形	P12埋土中	5%
759	須恵器	鉢	27.0]	2.0]	-	雲母・長石	黄灰	良好	口縁横ナデ	P11埋土中	5%

第14号掘立柱建物跡（第216・217図）

位置 調査区の西部のC1g0区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

規模と構造 桁行5間、梁行2間の銅柱式の建物跡で、東側に庇を持っている。桁行方向をN-4°-Eとする南北棟である。規模は桁行9.72m、梁行は身舎だけで4.62m、庇の部分を含めると7.02mである。身舎の柱間寸法は桁行1.80~2.12m、梁行2.4mほどであり、桁行は南側が狭まる傾向が見られる。庇の柱は3か所検出され、柱間寸法は1.94~2.18mである。南側に傾斜しているため確認できなかったが、庇の柱は桁行の柱に対応して6か所あったものと考えられる。柱穴は規則的に配置され、柱筋は芯々をほぼ通っている。

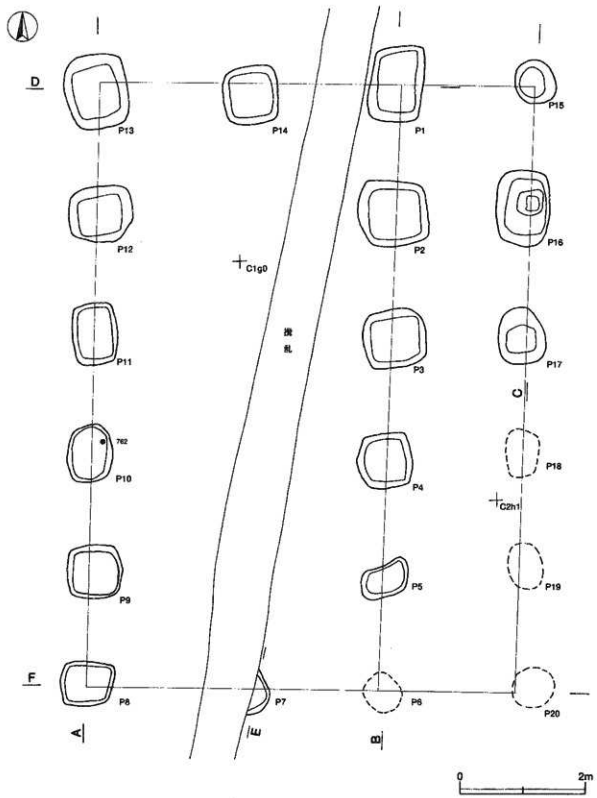
柱穴 平面形はP5が不整形長方形、P15が円形、P8・10・11・16が長方形で、その他は方形である。深さは4~36cmである。柱痕は第2層が相当し、その他は埋土と考えられる。埋土は粘性・しまりとも普通で、強く

突き固められた形跡はない。

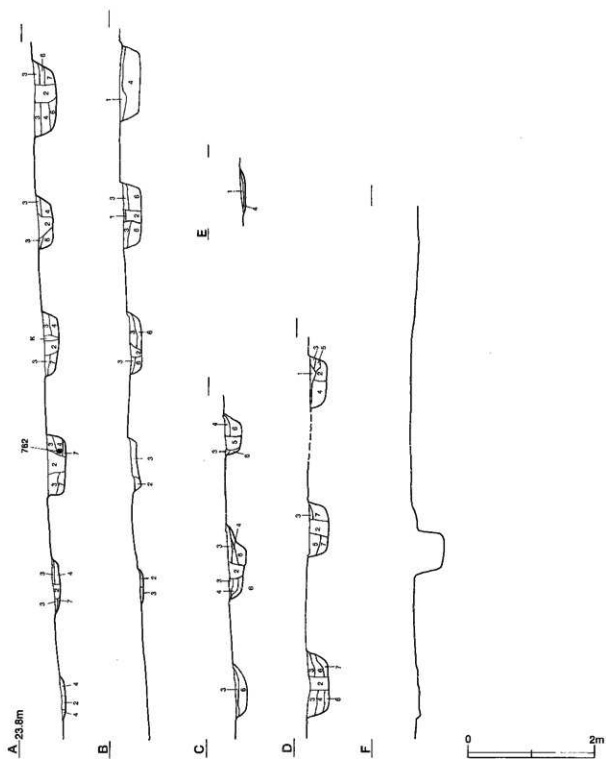
土層解説 (各柱穴共通)

- 1 研 堀 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 蒸 硝 色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量
- 3 硝 堀 色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 4 研 色 ロームブロック少量

- 5 研 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子微量
- 6 硝 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 硝 堀 色 ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量, 炭化粒子微量



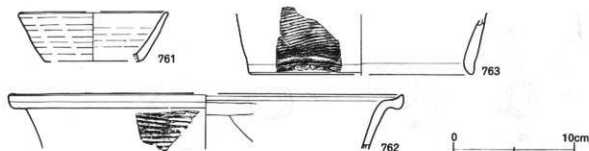
第216図 第14号掘立柱建物跡実測図(1)



第217図 第14号掘立柱建物跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片38点、須恵器片28点が、埋土中から出土している。761の須恵器環はP 2の埋土中から、762の須恵器鉢はP 10の埋土中層から出土している。

所見 桁行方向が西方4 mに位置する第92号住居跡の主軸方向とほぼ同一であり、同時期に機能していた可能性が考えられる。時期は、第92号住居跡との関係や出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第218図 第14号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第14号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第218図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
761	須恵器	坏	[12.2]	4.1	[8.0]	長石	陶灰	良好	ロク口整形	P2埋土中	5%
762	須恵器	鉢	[32.4]	(4.5)	-	雲母・長石	灰	良好	口縁横ナデ、体部外面横位の平行叩き、内面へウナデ	P10埋土中層	5%
763	須恵器	碗	-	(5.1)	[18.2]	雲母・石英・赤色粒子	灰	普通	体部外面横位の平行叩き、孔へラ削り	P10埋土中	5%

第15号掘立柱建物跡 (第219図)

位置 調査区の西部のB116区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

重複関係 P6が第11号掘立柱建物跡のP2を、P5が第242号土坑を、P8が第243号土坑を掘り込んでいる。規模と構造 桁行・梁行ともに2間の側柱式の建物跡で、桁行方向をN-0°とする南北棟である。規模は桁行4.08m、梁行3.72mである。柱間寸法は、桁行1.70~2.28m、梁行1.70~2.00mである。P2・6がやや北寄りに位置している。P6・8を除いて柱穴は規則的に配置され、柱筋も芯々を通っている。

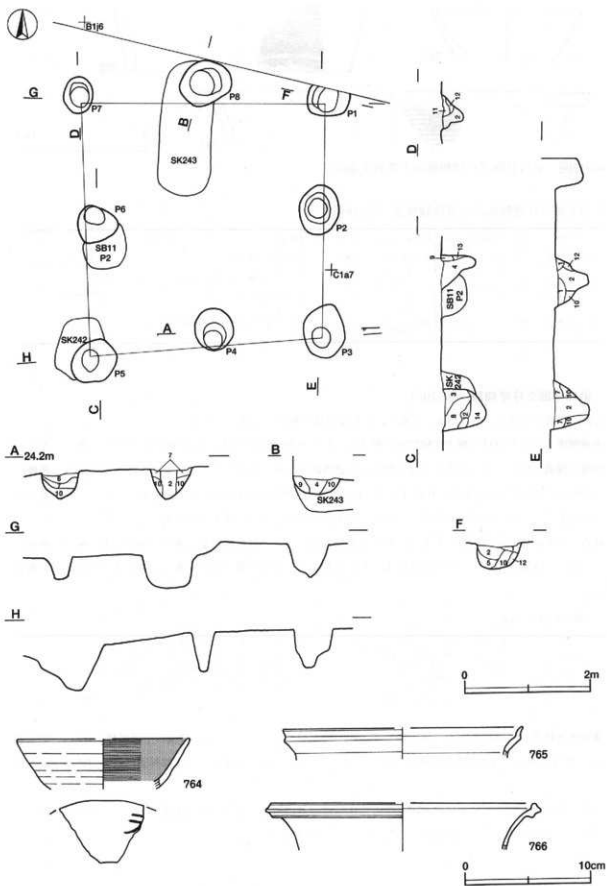
柱穴 平面形はP7が円形、P1・3・8が不整形長方形で、その他は楕円形である。深さは37~66cmである。柱痕は第2・3層が相当し、その他は埋土と考えられる。しまりの弱い埋土が多く、強く突き固められた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

1	暗褐色	炭化粒子・ローム粒子微量	8	褐色	黄土ブロック・ロームブロック微量
2	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	9	黒褐色	炭化粒子・ローム粒子微量
3	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック微量
4	黒褐色	炭化粒子・ローム粒子微量	11	暗褐色	炭化粒子・ローム粒子微量
5	褐色	ロームブロック微量	12	褐色	ローム粒子微量
6	暗褐色	炭化粒子・ローム粒子微量	13	黒褐色	ローム粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	14	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片36点、須恵器片5点が、埋土中から出土している。764の土師器坏・765の土師器甕・766の須恵器甕はいずれもP5の埋土中から出土している。765の土師器坏の体部外面には、墨書が確認されている。

所見 桁行方向が南方5mに位置する第97号住居跡とほぼ同一で、同時期に機能していた可能性が考えられる。時期は、第242号土坑との重複関係や出土土器から9世紀末葉と考えられる。



第219图 第15号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第15号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第219図)

番号	種別	器種	口徑	器高	口径	胎土	色澤	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
764	土器器	杯	[13.7]	(4.0)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部内面への磨き	P5埋土中	10%, 体部外面 磨き「火か」 P1.57
765	土器器	甕	[19.2]	(2.0)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁縁ナデ	P5埋土中	5%
766	灰土器	甕	[21.2]	(3.7)	-	長石・石英・G灰	褐色	良好	口縁縁ナデ	P6埋土中	5%

第16号掘立柱建物跡 (第220図)

位置 調査区の西部のC 2c2区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

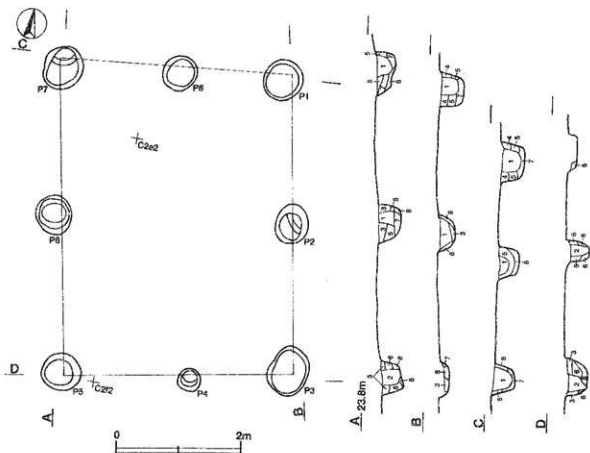
規模と構造 桁行・梁行ともに2間の側柱式の建物跡で、桁行方向をN-8°-Wとする南北棟である。規模は桁行5.02m、梁行3.85mである。柱間寸法は、桁行2.40~2.60m、梁行1.67~2.18mである。北側の梁行が南側に比べて狭くなっている。柱穴はほぼ規則的に配置され、柱筋も芯々をほぼ通っている。

柱穴 平面形はP 3・6・7が不整楕円形で、その他は円形である。深さは16~48cmである。柱筋は第1・2層が相当し、その他は埋土と考えられる。第6層は粘性・しまりともに強いが、その他はしまりの弱い埋土が多く、強く突き固められた形跡はない。

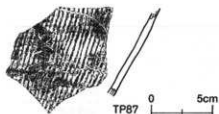
土層解説 (各柱穴共通)

- 1 層 胎 色 ロームブロック・炭化粒子散見
- 2 層 胎 色 炭化粒子・ローム粒子散見
- 3 層 胎 色 ローム粒子散見
- 4 層 胎 色 ロームブロック散見

- 5 層 胎 色 ローム粒子少量
- 6 層 胎 色 ロームブロック散見
- 7 層 胎 色 ロームブロック散見
- 8 層 胎 色 ローム粒子線集



第220図 第16号掘立柱建物跡実測図



第221図 第16号掘立柱建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片3点、須恵器片1点が、埋土中から出土している。TP87は、P8の埋土中から出土している。

所見 桁行方向が北方5mに位置する第10号掘立柱建物跡とはほぼ同一であり、同時期に機能した可能性が考えられる。時期は、第10号掘立柱建物跡との関係や出土土器片から8世紀後半と考えられる。

第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第221図)

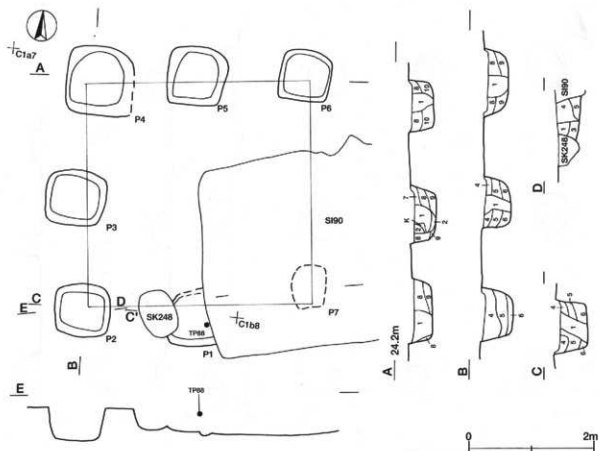
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP87	須恵器	甕	-	(7.2)	-	雲母・長石	にぶい橙	普通	体部外面縦位の平行明き後へう張り、内面へらナゲ	P8埋土中	

第17号掘立柱建物跡 (第222図)

位置 調査区の西部のC1a7区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

重複関係 P1が第248号土坑と第90号住居にいずれも掘り込まれている。

規模と構造 桁行・梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行方向をN-86°-Eとする東西棟である。規模は、桁行3.60m、梁行3.58mである。また柱間寸法は、桁行1.74~1.85m、梁行1.83mである。柱穴は規則的に配置され、柱筋も芯々をほぼ通っている。

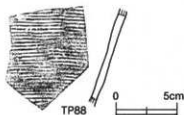


第222図 第17号掘立柱建物跡実測図

柱穴 平面形はP5・6が方形で、その他は長方形である。深さは36~55cmである。柱痕は第1層が相当し、その他は埋土と考えられる。粘性・しまりともに普通の埋土が多く、強く突き固められた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

1	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック中量	7	暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	10	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量



第223図 第17号掘立柱建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片4点、須恵器片8点が、柱痕や埋土中から出土している。TP88は、P1の埋土上層から出土している。

所見 桁行方向が第80号住居跡と第13B号掘立柱建物跡の軸方向とは同一であり、柱穴の掘り方が長方形を基準としている点も第13B号掘立柱建物跡と同一である。このことから本跡は、第80号住居跡・第13B号掘立柱建物跡と同時期に機能していた可能性が考えられる。時期は、第90号住居との重複や出土土器片から8世紀中葉と考えられる。

第17号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第223図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP88	須恵器	甕	-	(8.3)	-	雲母-長石	褐灰	普通	体部外面横位の平行明き、内面ヘラナゲ	埋土上層	

第18号掘立柱建物跡 (第224図)

位置 調査区の東部のC4f7区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

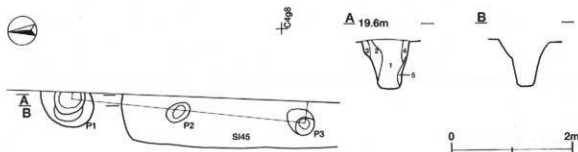
重複関係 P2・3が第45号住居に掘り込まれている。

規模と構造 梁行2間の建物跡で、東側が調査区域外であるため、桁行については不明である。しかし、付近の掘立柱建物跡の形状から、桁行3間の可能性も考えられる。桁行方向をN-85°-Wとする東西棟である。規模は、確認された桁行0.40m、梁行3.90mである。梁行の柱間寸法は、1.80~2.10mである。

柱穴 平面形はP1が不整形で、P2・3は底部に近い部分で不整形である。P1の深さは、82cmである。柱痕は第1層が相当し、その他は埋土と考えられる。しまりの弱い埋土がほとんどで、強く突き固められた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

1	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量	4	黒褐色	ローム粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック極微量	5	黒褐色	ロームブロック微量
3	灰褐色	ローム粒子微量			



第224図 第18号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片1点が、P1の埋土中から出土している。小片であり、図示することができなかった。
 所見 時期は、第45号住居との重複や出土土器から8世紀代と考えられる。

表4 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧表

※屋根および面積の欄の1段は身倉部分の割断であり、2段は土間を含めた数値である。

遺構番号	位置	掘立柱方向	柱間数(桁×梁)	規模(m)	面積(m ²)	構造	新開時期(m)	掘立柱間(m)	柱穴平面形	深さ(m)	土師器(遺物)	備考(時期・土師器)
1	C44g	N-0°	3×2	6.20×3.90	24.18	銅柱	1.81~2.36	1.88~2.02	不整形、不整長方形、凹形	12~73	土師器 刀子	9世紀後半 SB16→本跡
2	C4b7	N 82° W	(1)×2	(3.56)×3.90	(13.88)	銅柱	1.86~2.04	1.60~1.70	不整形、不整長方形、凹形	72~111		8世紀後半 本跡→SB3
3	C4c6	N 4° E	4×2	7.65×4.22	32.28	銅柱	1.40~2.30	1.83~2.34	不整形、凹形、不整長方形	14~58		9世紀前半 SB40~SB2→本跡→SK124
5	C4e5	N-5° W	2×2	4.10×3.88	15.91	銅柱	1.95~2.08	1.32~2.52	不整形、不整楕円形	16~66		8世紀代 SB40→本跡→SK183-298
6	C3f4	N-1° E	3×2	5.18×3.73 5.18×4.39	19.32 25.85	銅柱 束柱	1.55~2.04	1.78~1.95	不整形、凹形、凸凹形	36~53	須恵器	8世紀後半 本跡→SK225~227
7	C2b0	N-74° E	(2)×2	(5.18)×4.30	(22.27)	銅柱	2.00~2.26	2.04~2.28	不整形、不整長方形	40~67		8世紀後半 SB55→本跡
8	C2b2	N-18° W	3×3	6.40×4.60	29.44	銅柱	1.90~2.40	1.85~3.25	不整形、不整長方形、凹形	36~82	須恵器	8世紀後半 SB10→本跡
9	C3f1	N-16° W	3×(1)	6.02×(3.40)	(20.47)	銅柱	1.80~2.18	1.91~2.10	不整形、不整凹形	47~84		8世紀後半
10	C2b1	N-6° W	3×3	6.80×6.40	43.52	銅柱	1.91~2.70	1.80~2.34	不整形、不整楕円形	30~70	土師器	8世紀中葉 SB2→本跡→SB5
11	B1j3	N-88° W	3×[2]	(6.00)×(3.62)	(23.80)	銅柱	2.04~2.12	1.82	不整形、不整長方形、不整形凹形	22~55	須恵器	8世紀中葉 本跡→SB15-SD6
12	C1g3	N-81° W	(3×1)	(5.80)×(2.25)	(12.60)	銅柱	1.68~1.78	1.65	方形、不整形、隅丸方形	8~48	須恵器	8世紀前半 本跡→SB8
13A	C1e8	N-88° E	3×3	6.00×5.46	32.76	銅柱	1.54~2.66	1.28~2.10	方形、長方形	14~52	土師器 須恵器	8世紀中葉→後葉 SB96-SB138→本跡
13B	C1d8	N-87° E	3×3	5.80×5.40	31.32	銅柱	1.54~2.16	1.28~2.18	長方形	14~42		8世紀中葉 SB96→本跡→SB13A
14	C1g0	N-4° E	5×2	9.72×4.62 9.72×7.02	44.91 68.23	銅柱 束柱	1.80~2.12	2.40~2.43	方形、長方形、不整形長方形、凹形	4~36	須恵器	8世紀中葉→後葉
15	31j6	N-0°	2×2	4.08×3.72	15.18	銅柱	1.70~2.28	1.70~2.00	不整形長方形、凹形、楕円形	37~66	土師器 須恵器	9世紀末葉 SB11-SK242-243→本跡
16	C2e2	N-8° W	2×2	5.02×3.85	19.33	銅柱	2.40~2.60	1.67~2.18	凹形、不整形凹形	16~48		8世紀後半
17	C1a7	N 85° E	2×2	3.60×3.38	12.89	銅柱	1.74~1.85	1.82	方形、長方形	36~55		8世紀中葉 本跡→SB90-SK248
18	C417	N-83° W	→2	(0.40)×3.90	(1.56)	銅柱	-	1.80~2.10	不整形、不整凹形	82		8世紀代 445→SB45

(4) 土坑

第16号土坑(第225図)

位置 調査区の東部のC4b6区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

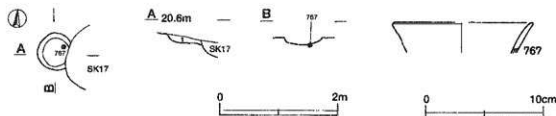
重複関係 第17号土坑に東部を掘り込まれている。

規模と形状 径0.6mほどの円形で深さは12cmである。底面は平坦な円形で、壁は緩やかに立ち上がっている。
覆土 単一層である。ロームブロックの混入から、人為堆積の可能性が考えられる。

土層解説
 1 暗 紺 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片10点、須恵器片4点が、覆土中から出土している。767の須恵器環は、北東部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前半と考えられる。性格は不明である。



第225図 第16号土坑・出土遺物実測図

第16号土坑出土遺物観察表（第225図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
767	須恵器	環	〔12.0〕	(2.0)	-	灰石・石英	灰白	良好	ロクロ整形	底面	5%

第17号土坑（第226図）

位置 調査区の東部のC4b6区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第16号土坑の東部を掘り込んでいる。

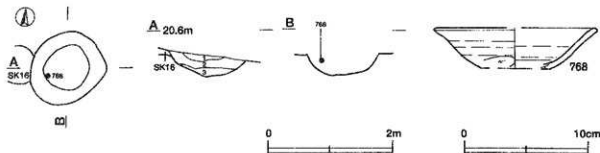
規模と形状 一辺1.20mほどの不整形である。深さは36cmで、底面は若干凹みのある不整形である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
 1 暗 紺 色 ロームブロック中量
 2 黒 紺 色 粘土粒子・ローム粒子少量
 3 暗 紺 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 須恵器片1点が出土している。768の須恵器環は、西壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。本跡は、第19・21・23号土坑とともに南北5m、東西2.5mの長方形を形成する位置にあり、同時に機能していた可能性が考えられる。



第226図 第17号土坑・出土遺物実測図

第17号土坑出土遺物観察表（第226図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
768	須恵器	坏	[13.2]	3.3	[5.8]	雲母・長石・赤色粒子	灰	普通	体部下端手持へう削り	覆土中層	5%

第19号土坑（第227図）

位置 調査区の東部のC 4 b7区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状 一辺1.4mほどの不整形である。深さは30cmで、底面は平坦な不整形である。南壁は緩やかに立ち上がり、テラス状の平坦面をもっている。その他は外傾して立ち上がっている。

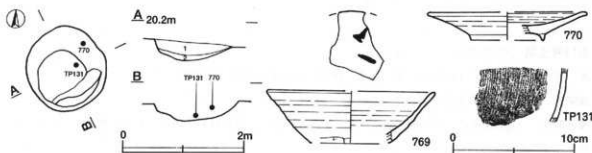
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 埴 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 2 黒 褐色 炭化物・ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片16点、須恵器片2点が、覆土中から出土している。体部内面に墨書の確認された769の須恵器坏は覆土中から、770の須恵器高台付皿は北東壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。本跡は、第17・21・23号土坑とともに南北5m、東西2.5mの長方形を形成する位置にあり、同時に機能していた可能性が考えられる。



第227図 第19号土坑・出土遺物実測図

第19号土坑出土遺物観察表（第227図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
769	須恵器	坏	[13.8]	4.3	[6.6]	長石・石英	黄橙	不良	体部下端手持へう削り	覆土中	10%、体部内面墨書「□」PL57
770	須恵器	高台付皿	[13.3]	2.4	[6.1]	長石・石英・赤色粒子	黄橙	普通	底部回転へう切り後、高台貼り付け	覆土中層	40%
TP131	土師器	甕	(4.0)	-	-	長石	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整、内面ナデ	覆土下層	PL55

第21号土坑（第228図）

位置 調査区の東部のC 4 a6区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第22号土坑の南部を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.30mほどの不整形円形で、深さは44cmである。底面は皿状の不整形円形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

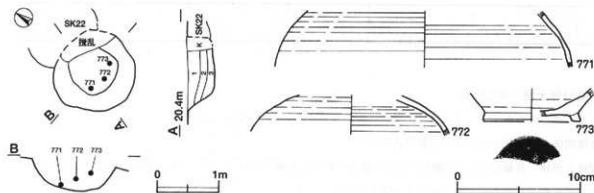
覆土 3層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土ブロック微量 3 暗褐色 ロームブロック中量
 2 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片19点、須恵器片8点、灰軸陶器3点が、覆土中から出土している。771～772の狼投産の灰軸陶器長頸瓶は、南部の覆土下層から出土している。覆土上層から出土した773の灰軸陶器長頸瓶は、771・772よりも新しい時期のものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。本跡は、第17・19・23号土坑とともに南北5m、東西2.5mの長方形を形成する位置にあり、同時に機能していた可能性が考えられる。



第228図 第21号土坑・出土遺物実測図

第21号土坑出土遺物観察表 (第228図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
771	灰軸陶器	長頸瓶	-	(4.6)	-	長石	灰黄・オリーブ黒	良好	ロクロ整形	覆土下層	5%
772	灰軸陶器	長頸瓶	-	(2.7)	-	長石	灰黄・灰オリーブ	良好	ロクロ整形	覆土下層	5%
773	灰軸陶器	長頸瓶	-	(2.7)	[7.8]	長石	灰黄	良好	ロクロ整形、底部回転ヘラ切刃後、高台貼付け	覆土上層	5%

第22号土坑 (第229図)

位置 調査区の東部のB4J6区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第21号土坑に南部を掘り込まれている。

規模と形状 長径1.23m、短径1m弱の不整楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。深さは32cmで、底面は若干凹凸のある不整楕円形である。壁は緩やかに立ち上がっている。

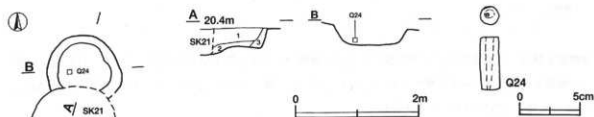
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量 3 暗褐色 ロームブロック中量
 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片5点、須恵器片2点、管玉1点が、覆土中から出土している。Q24の碧玉製管玉は、中央部西寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器片から8世紀前半と考えられる。本跡は、遺構の形状や遺物から墓壇の可能性が考えられる。



第229図 第22号土坑・出土遺物実測図

第22号土坑出土遺物観察表 (第229図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q24	管玉	2.2	0.8	0.7	0.1~0.3	2.2	碧玉	一方向から穿孔	覆土下層	PL59

第23号土坑 (第230図)

位置 調査区の東部のC 4 a7区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第24号土坑の南部を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.35m、短軸1.20mの不整長方形で、長軸方向はN-57°-Wである。深さは36cmで、底面は皿状の不整形である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

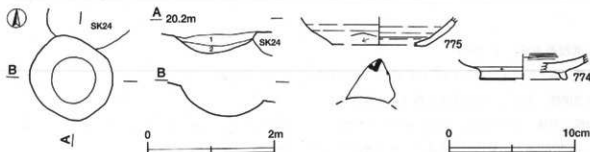
土層解説

1 暗褐色 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

2 暗褐色 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片9点、須恵器片13点が、覆土中から出土している。774の土師器高台付皿・775の須恵器杯は、いずれも覆土中から出土している。775の須恵器杯の体部外面には、墨書が確認されている。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。本跡は、第17・19・21号土坑とともに南北5m、東西2.5mの長方形を形成する位置にあり、同時に機能していた可能性が考えられる。



第230図 第23号土坑・出土遺物実測図

第23号土坑出土遺物観察表 (第230図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
774	土師器	高台付皿	-	(2.1)	[6.8]	長石・石英・赤色粒子・針状炭物	にぶい橙	普通	底部回転へら切り後、高台貼り付け、内面へら磨き	覆土中	10%
775	須恵器	杯	-	(2.3)	[7.4]	長石・石英	黄灰	良好	体部下端手持ちへら削り	覆土中	5%、体部外面墨書「□」

第24号土坑 (第231図)

位置 調査区の東部のB 4 J7区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第23号土坑に南部を掘り込まれている。

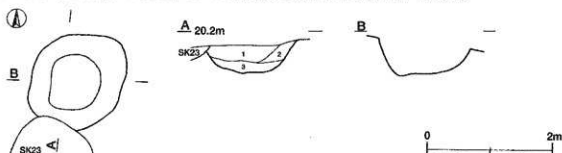
規模と形状 長軸1.73m、短軸1.49mの不整長方形で、長軸方向はN-8°-Eである。深さは56cmで、底面は若干凹凸のある不整長方形である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説		3	暗 褐色	ロームブロック少量
1	黒 褐色	炭上粒子・炭化粒子・ローム粒子微量		
2	黒 褐色	ロームブロック・炭上粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片5点、須恵器片5点が、覆土中から出土している。小片であり、図示することができなかった。

所見 時期は、重複関係や出土土器片から8世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第231図 第24号土坑実測図

第72号土坑 (第232図)

位置 調査区の中央部のD 3 d6区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第27号住居跡の南部中央を掘り込んでいる。

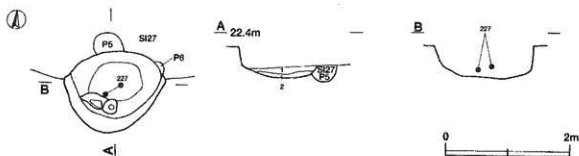
規模と形状 長径1.65m、短径1.34mの不整楕円形で、長径方向はN-82°-Eである。深さは56cmで、底面は平坦な不整長方形である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

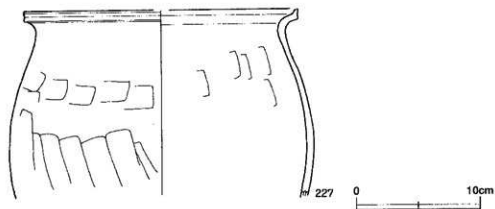
土層解説		2	暗 褐色	ロームブロック中量、炭上ブロック少量、炭化粒子微量
1	暗 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、炭上ブロック		

遺物出土状況 土師器片3点、須恵器4点が、覆土下層から出土している。227の土師器甕は、中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から、8世紀後半から9世紀前半と考えられる。性格は不明である。



第232図 第72号土坑実測図



第233図 第72号土坑出土遺物実測図

第72号土坑出土遺物観察表 (第233図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
227	土器	甕	[22.2]	(15.3)	-	長石・石英	橙	普通	口縁横ナナ、体部外面下位へう割り、外面下位・内面へラナナ	覆土1層	30%

第125号土坑 (第234図)

位置 調査区の東部のC 4 c6区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状 径0.7mほどの円形で、深さは50cmである。底面は平坦な円形で、中央部に深さ30cmほどの方形の垂直な掘り込みがある。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなる。ロームブロックの混入が多く、人為堆積と考えられる。

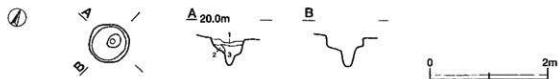
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック微量

- 3 緑褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片5点、須恵器2点が、覆土中から出土している。小片のため、図示することができなかった。

所見 時期は、出土器片から9世紀中葉と考えられる。本跡は、底面中央に深い掘り込みがある形状から柱穴の可能性が考えられる。



第234図 第125号土坑実測図

第129号土坑 (第235図)

位置 調査区の東部のC 4 f7区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状 径0.65mほどの不整形円形である。深さは29cmで、底面は円凹のある不整形円形である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 灰 褐色 ローム粒子微量

2 褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片1点が、覆土中から出土している。小片であり、図示することができなかった。

所見 時期は、出土土器片から9世紀後半と考えられる。本跡は北西方向3.5mに位置する第125号土坑と規模がほぼ同一で、柱穴の可能性も考えられる。



第235図 第129号土坑実測図

第235号土坑 (第236図)

位置 調査区の中央部のC3h1区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

重複関係 第19号掘立柱建物のP4に南東部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸0.8m、短軸0.6mほどの不整形長方形で、長軸方向はN78°Eである。深さは26cmである。

底面は平坦な長方形で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

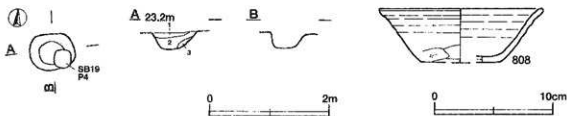
1 灰 褐色 ロームブロック微量

3 褐色 ロームブロック微量

2 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片1点、須恵器1点が、覆土中から出土している。808の須恵器坏は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第236図 第235号土坑・出土遺物実測図

第235号土坑出土遺物観察表 (第236図)

番号	性別	容積	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
808	須恵器	坏	13.8	4.5	6.6	熟練・長手・有葉	褐色	不良	体部下端手打ちへう張り	覆土中120%	

第241号土坑 (第237図)

位置 調査区の西部のC1a8区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

重複関係 第90号住居に南部を掘り込まれている。

規模と形状 確認された長径1.05m、短径0.83mの楕円形で、長径方向はN35°Wである。深さは40cmで、

底面は平坦な楕円形と推測される。壁は外傾して立ち上がっている。

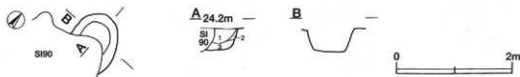
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量 3 暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 確認できなかった。

所見 時期は、重複関係から8世紀前半と考えられる。性格は不明である。



第237図 第241号土坑実測図

第242号土坑 (第238図)

位置 調査区の西部のC1a5区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

重複関係 第83号住居跡の北東コーナー部付近を掘り込み、第15号掘立柱建物のP5に南東部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.10m、短軸0.66mの不整長方形で、長軸方向はN-18°-Eである。深さは52cmで、底面は東に向かって緩やかに傾斜する不整長方形と推測される。壁は外傾して立ち上がっている。

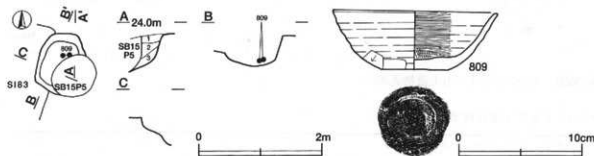
覆土 3層からなる。同時期の遺構との重複や第2層のしまりが弱いことから人為堆積の可能性が考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量 3 褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
2 褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片8点が、覆土中から出土している。809の土師器杯は、北東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。重複する第83号住居跡・第15号掘立柱建物跡も同じく9世紀後葉と考えられ、短期間の内に遺構の変遷があったものと考えられる。性格は不明である。



第238図 第242号土坑・出土遺物実測図

第242号土坑出土遺物観察表 (第238図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
809	土師器	杯	13.4	4.9	5.6	長石・石英	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き	覆土下層	60%, PL53

第243号土坑 (第239図)

位置 調査区の西部のB 1j6区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

重複関係 第15号掘立柱建物のP 8に北部を掘り込まれている。

規模と形状 長径2.19m、短径0.84mの不整形長方形で、長径方向はN-2°-Eである。深さは52cmで、底面は平坦な長方形である。壁は外傾して立ち上がっている。

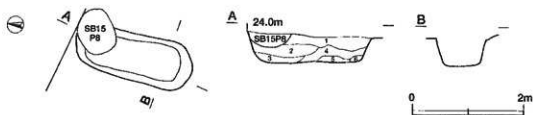
覆土 6層からなる。ロームブロックの混入が多く、堆積に乱れが見られることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 地	色	ロームブロック・炭化粒子微量	4 地	色	ロームブロック少量
2 地	色	ロームブロック少量	5 地	色	ロームブロック微量
3 地	色	ロームブロック少量	6 地	色	ローム粒子微量

遺物出土状況 確認できなかった。

所見 時期は、重複関係から奈良・平安時代と考えられる。性格は不明である。



第239図 第243号土坑実測図

第244号土坑 (第240図)

位置 調査区の西部のB 1j6区に位置し、平坦な台地の東部に立地している。

規模と形状 1辺1.0mほどの不整形方形である。深さは64cmで、底面は平坦な方形である。壁は外傾して立ち上がっている。

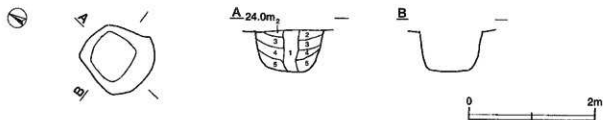
覆土 5層からなる。第1層が柱状で、その他は珪土と考えられる人為堆積である。

土層解説

1 地	形	色	炭化粒子・ローム粒子微量	4 地	形	色	ローム粒子微量
2 地	形	色	ローム粒子少量	5 地	形	色	ローム粒子微量
3 地	形	色	ロームブロック微量				

遺物出土状況 土師器片1点が、覆土中から出土している。小片であり、図示できなかった。

所見 覆土堆積状況から、掘立柱建物跡の柱穴と考えられる。時期は、柱穴の形状・規模から奈良・平安時代と考えられる。



第240図 第244号土坑実測図

表6 奈良・平安時代土坑一覽表

遺構 番号	位置	土軸方向 (長軸方向)	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	深さ (cm)	傾斜	底向	覆土	主要出土遺物	備考 (時期・注・新)
16	C4b6	—	円形	0.61×0.62	12	緩斜	平坦	人為	須恵器	8世紀前半 本跡・SK17
17	C4b6	—	不整形方形	1.20×1.17	36	外傾	凹凸	自然	須恵器	9世紀後半 SK16・本跡
19	C4b7	—	不整形方形	1.42×1.32	30	外傾	平坦	自然	須恵器	9世紀中葉
21	C4a6	—	不整形円形	1.35×0.99	41	緩斜	起伏	自然	灰釉陶器	9世紀中葉 SK22・本跡
22	B4j6	N-58°-W	不整形円形	1.23×0.94	32	緩斜	平坦	自然	菅瓦	8世紀前半 本跡・SK21
23	C4a7	N-57°-W	不整形長方形	1.35×1.20	36	緩斜	起伏	自然	土師器、須恵器	9世紀中葉 SK21・本跡
24	B4j7	N-8°-E	不整形長方形	1.73×1.49	56	緩斜	凹凸	自然		8世紀後半 本跡・SK23
72	D3d6	N 82° E	不整形円形	1.65×1.34	56	緩斜	平坦	自然	土師器	8世紀後半～9世紀前半 SK27・本跡
125	C4e6	—	円形	0.68×0.66	30	外傾	平坦	人為		9世紀中葉
129	C4f7	—	不整形円形	0.65×0.63	29	緩斜	凹凸	自然		9世紀後半
235	C3h1	N-78°-E	不整形長方形	0.79×0.60	26	外傾	平坦	自然	須恵器	9世紀中葉 本跡・SB19
241	C1a8	N-35°-W	楕円形	1.05×0.83	40	外傾	平坦	自然		8世紀前半 本跡・SB90
242	C1a5	N-18°-E	不整形長方形	1.10×0.66	52	外傾	傾斜	人為	土師器	9世紀後半 SK3→本跡・SB15
243	B1j6	N 2° E	不整形長方形	2.19×0.84	52	外傾	平坦	人為		奈良・平安時代 本跡・SB15
244	B1j6	—	不整形方形	1.08×0.98	64	外傾	平坦	人為		奈良・平安時代

(5) 溝跡

平面図は、遺構全体図に掲載する。

第2号溝 (第241図)

位置 調査区の東部のB4h3～D4f6区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第16・19・31・32・33・46・57号住居跡を掘り込み、第1号溝、第31・43・44・46・54・64・103号土坑、第1～3号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 調査区東部を北北西方向(N-19°-W)にやや湾曲しながら延びており、確認された長さは73mほどで、南東端は調査区外に延びている。規模は、上幅0.7～1.7mほど、下幅0.5～1.2mほど、深さ5～40cmである。形状は、底面が平坦で、横面は緩やかに立ち上がる箱葉研状を呈している。底面は、南に向かって緩やかに傾斜している。

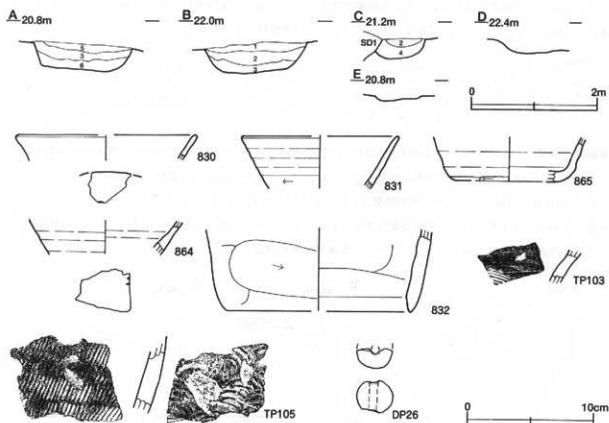
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量、焼土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック微量	6	暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片82点、須恵器片42点、土玉1点が、覆土中から出土している。墨書が確認された830・864の須恵器環は南部の覆土中から、832の須恵器甑は北部の覆土下層から出土している。831の須恵器環は、第57号住居跡からの流入と考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。底面の標高は北端が最も高く、南に向かって傾斜している形状から、排水施設の可能性も考えられるが性格は不明である。



第241図 第2号溝・出土遺物実測図

第2号溝出土遺物観察表 (第241図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
830	須恵器	環	[14.2]	(2.0)	-	雲母・長石・石英	にぶい黄緑	普通	口クロ整形	覆土中	5%。体部外面墨書□□、864と同一個体。
831	須恵器	環	[12.4]	(4.2)	-	長石・石英	灰	良好	体部下端へラ削り	覆土下層	5%
832	須恵器	甑	-	(6.6)	[14.6]	長石・石英	灰	良好	体部外面下位へラ削り、内面へラナデ、孔へラ削り	覆土下層	10%
864	須恵器	環	-	(2.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい黄緑	普通	口クロ整形	覆土中	5%。体部外面墨書□□、830と同一個体。
865	須恵器	環	-	(3.5)	[8.2]	雲母・長石・石英	にぶい黄	普通	底部別転へラ削り、体部下端手持ちへラ削り	覆土下層	10%
TP103	須恵器	葉	-	(2.6)	-	雲母・長石	にぶい黄	普通	器部外面波状文、内面へラナデ	覆土中	PL55
TP105	須恵器	葉	-	(6.2)	-	雲母・長石	黄灰	普通	体部外面斜位の平行印き、内面同心円の当て具痕	覆土上層	

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP26	土玉	2.5	[2.8]	0.7	(8.3)	土製	外面ナデ、一方向から穿孔	覆土下層	PL59

第6号溝 (第242図)

位置 調査区の西部のB114～C112区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

重複関係 第87号住居跡の西部と第11号掘立柱建物跡の西部を、いずれも掘り込んでいる。

規模と形状 調査区の最西端を北北東方向(N-22°-E)に直線的に延びており、確認された長さは28mほどで、南北両側とも調査区域外に延びている。規模は、上幅2.6mほど、下幅1.0mほど、深さ1.5mである。形状は、底面が平坦で、壁面は外傾して立ち上がる箱築研状を呈している。底面は南に向かって緩やかに傾斜している。

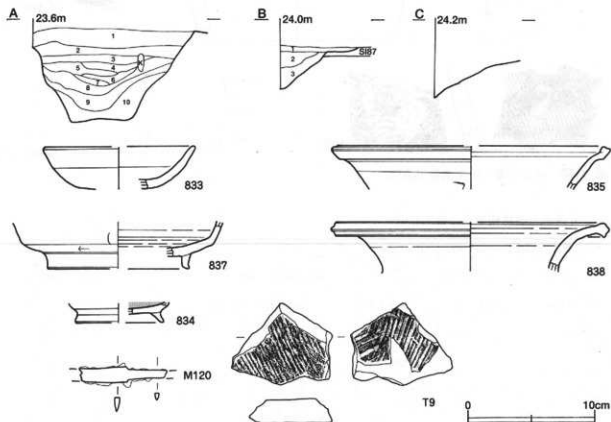
覆土 10層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐色	炭化粒子・ローム粒子微量	6 黒 褐色	ローム粒子微量
2 黒 褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量	7 暗 褐色	ロームブロック中量
3 暗 褐色	炭化物・ロームブロック少量	8 暗 褐色	ローム粒子中量
4 暗 褐色	ロームブロック少量	9 暗 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
5 黒 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	10 暗 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片195点、須恵器片128点、土師質土器1点、刀子1点、瓦1点が、覆土中から出土している。重複する第87号住居跡の西側の覆土下層からは、流入と思われる数点の遺物が集中して出土している。834の土師器高台付椀、835・838の須恵器壺は、いずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。東方2mに位置する同時期と考えられる第83号住居跡は本跡を意識した主軸方向をもっているため、本跡は区画的機能を有していた可能性が考えられる。



第242図 第6号溝・出土遺物実測図

第6号溝出土遺物観察表(第242図)

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	施装	手法の特徴	出土位置	備考
833	土師器	皿	12.0	3.3	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁・底部内面横ナデ	覆土中	10%
834	土師器	高台付甕	-	11.0	17.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台周り付け	覆土中	10%
835	須恵器	壺	21.2	3.4	-	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁横ナデ	覆土中	5%
837	須恵器	高台付杯	-	3.8	11.2	長石・石英・赤色粒子	黄灰	良好	底部回転ヘラ切り後、高台周り付け	覆土中	10%
838	須恵器	壺	21.2	3.9	-	長石	灰	良好	口縁横ナデ	覆土中	5%

番号	器種	全長	刀身長	身幅	刃長	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
M120	刀子	7.1	3.9	1.2	0.5	3.2	0.8	鉄	切先・基部欠損、両刃	覆土中層	PL61

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T9	平瓦	4.5	8.1	2.0	101.1	土製	凸面赤切り、平行明き、凹面赤切り、布目肌	覆土下層	PL63

第8号溝(第243図)

位置 調査区の北部のA4d1~B4g3区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第18号住居跡を掘り込み、第7・8・15号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 調査区の北部東寄りを中心方向(N-9°-W)に直線的に延びており、確認された長さは54mほどで、北端は調査区域外に延びている。規模は、上幅1.0~3.7m、下幅0.7~1.6m、深さ0.2~1.0mである。形状は、底面が平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる箱型形状を呈している。東側の壁には、底面より10~20cm高い部分に幅30cmほどのテラス状の平坦面が確認された。底面は、北に向かって緩やかに傾斜している。

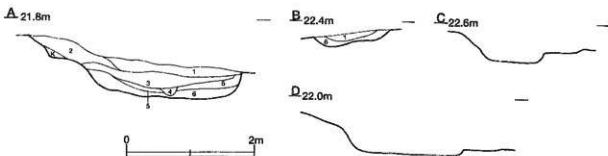
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 黒褐色炭化物・粘土粒少量、ロームブロック微量 | 4 黒褐色ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 5 暗褐色ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色ロームブロック少量 | 6 暗褐色ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片86点、須恵器片45点、土製支脚1点、鉄釘1点が、南部の覆土下層を中心に出土している。840の須恵器甕は、中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土器から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。底面の標高は南端が最も高く、北に向かって緩やかに傾斜していく形状から、第2号溝と同様に排水施設の可能性が考えられる。しかし、東側にテラス状の平坦面が設けられていることから第2号溝と違った性格をもっていた可能性も考えられ、性格は不明である。



第243図 第8号溝実測図



第244図 第8号溝出土遺物実測図

第8号溝出土遺物観察表 (第244図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	地成	手法の特徴	出土位置	備考
840	須恵器	甕	φ32.0	12.09	-	長石・石英	灰	普通	口縁環ナデ	覆土下層	5%

表6 奈良・平安時代溝一覽表

遺構番号	位置	土地方向	形状	電 探 (m)			断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考	
				確認長	上幅	下幅						深さ
2	B443-D416	N-19° W	円弧状	73.82	0.70-1.66	0.52-1.22	0.03-0.40	精美埴	平 坦	自然	土師器, 須恵器, 土系	9世紀中葉
6	B114-C412	N-22° E	直線	128.43	12.60	1.00	1.56	粗末埴	平 坦	自然	土師器, 須恵器, 土師器土器, 刀子, 瓦	9世紀後半
8	A401-B443	N 9°-W	直線	153.78	1.00-3.68	0.68-1.64	0.20-0.95	粗末埴	平 坦	自然	須恵器	8世紀後半 →9世紀前半

(6) 遺物包含層

第1号遺物包含層 (第245図)

位置 調査区の北部のA4d4~A4j6区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模 北部の調査区東側の北端に黒色土が堆積しており、この黒色土の堆積する区域の北部に南北約26m、東西4m、厚さ20cmほどにわたって土器片の包含がみられる。

覆土 4層からなる。遺物は第2層に集中している。

土層説明

- 1 黒 褐色 炭化物少量, ローム粒子微量
2 暗 褐色 炭化物・ローム粒子少量

- 3 黒 褐色 ローム粒子微量
4 暗 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 古墳時代の土師器片11点, 奈良・平安時代の土師器片63点, 須恵器片70点が出土している。古墳時代の土師器は、すべて坏片である。奈良・平安時代の土師器は坏片が2点のみで、その他はすべて甕片である。須恵器は、甕片22点, 坏片44点, 瓶底部片2点, 壺片2点である。

所見 本跡からは、器面の摩耗した土器に混じって破断面の鋭利な土器が確認されており、それらは自然に流れ込んだとは考えにくい。土器断面に人為的に掘り込んだ形跡が見られないことや完形の土器が出土していないことなどから、本跡は破損により使用できなくなった土器片が投棄された「土器捨て場」だった可能性が考えられる。しかし、出土した土器の量が少なく、付近には第12号住居跡だけが遺存していることから、第12号住居跡の土器が投棄されただけの可能性も考えられる。時期は、主体となる出土土器から9世紀中葉と考えられる。

A 21.2m



B



第245図 第1号遺物包含層実測図

(7) その他の遺構

第1号大形堅穴状遺構(第40号土坑)(第246図)

位置 調査区の中央部のD3d0区に位置し、平坦な台地の東端部に立地している。

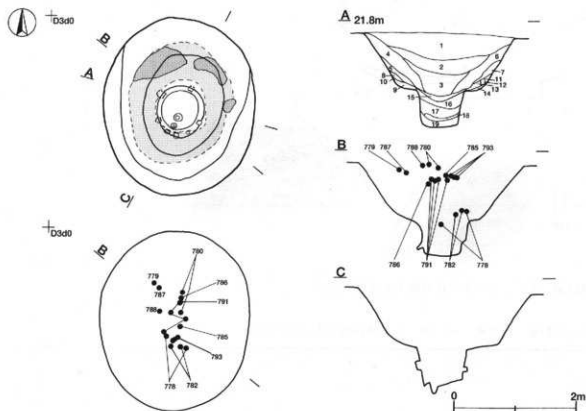
規模と構造 長径2.94m、短径2.24mの南北に長い楕円形で、長径方向はN-1°-Wである。深さは、1.55mである。底面にはほぼ平坦な不整楕円形で、底面は長径1.65m、短径1.30mである。底面中央部には、径80cmほどの楕円形で深さ50cmの掘り込みを有している。壁は、緩やかに立ち上がっている。

覆土 19層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。底面付近の第8~16層は焼土や炭化物の含有が多く、底面中央の掘り込み部の第17~19層には粘土粒子の含有が多い。

土層解説

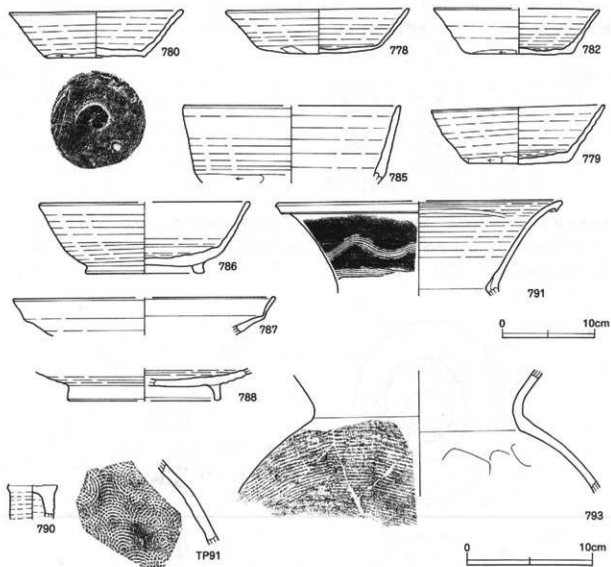
1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12	褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・灰微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・灰微量
3	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	15	黒褐色	炭化物・ローム粒子微量
5	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量	16	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
6	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	17	暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量	18	黒褐色	炭化物中量、焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
8	褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量	19	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子中量
9	褐色	焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子・灰微量			
10	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量			
11	黒褐色	炭化物少量、焼土粒子・ローム粒子・灰微量			

遺物出土状況 土師器片292点、須恵器片105点、炭化種子が、中央部の覆土中層から上層にかけて出土している。778の須恵器環は中央部の底面付近の覆土下層から、782の須恵器環は中央部の覆土中層から、791の須恵器環は中央部の覆土上層から出土している。



第246図 第1号大形堅穴状遺構実測図

所見 大形堅穴状遺構は、いずれも台地縁辺部に立地している。形状も底面の中央に掘り込みが認められ、本跡は水室状遺構と考えられる。底面上に焼土や炭化物を含む層が検出されたことから、焼失したものと考えられる。覆土上層から出土した遺物ほど細片が多く、下層のものより時期的に新しい。このことから、覆土上層の遺物は、焼失後、埋没した本跡への投げ込まれたものと考えられる。時期は、覆土下層から出土した土器から8世紀中葉と考えられる。



第247図 第1号大形堅穴状遺構出土遺物実測図

第1号大形堅穴状遺構 (SK-40) 出土遺物観察表(第247図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
778	須臾器	坏	14.5	3.5	10.3	雲母・長石・石英	灰白	良好	底部多方向のヘラ削り	覆土上層	100%, PL53
779	須臾器	坏	13.8	4.8	8.2	雲母・長石・石英	灰	良好	底部二方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	90%, PL54
780	須臾器	坏	13.8	4.6	7.8	長石	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	80%, PL54

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	胎土位置	備考
782	須恵器	杯	[13.3]	3.7	8.6	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ切り後、二方向のヘラ削り、下部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	50%, PL51
785	須恵器	高台付杯	[17.4]	(6.1)	-	雲母・石英	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	10%
786	須恵器	高台付杯	[16.6]	6.7	8.4	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後、高台盛り付け	覆土上層	60%
787	須恵器	壺	[20.8]	(3.0)	-	雲母・長石・石英	灰白	良好	口枠整形	覆土上層	10%
788	須恵器	高台付壺	-	(2.7)	(2.0)	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ切り後、高台盛り付け	覆土上層	30%
790	須恵器	高甕	-	(2.7)	-	長石・石英	灰	良好	口枠整形	埴土層	5%
791	須恵器	壺	[45.2]	(15.3)	-	雲母・長石・石英	灰白	良好	口枠整形、胴部外面波状文・区画文	覆土上層	15%, PL55
793	須恵器	壺	-	(10.0)	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き、内面ヘラナデ、布て具痕	覆土上層	30%
TP91	須恵器	壺	-	(7.0)	-	雲母・長石・小礫	黄灰	普通	体部外面同心円の叩き、内面ヘラナデ	覆土中	PL55

第2号大形堅穴状遺構(第86号土坑)(第248図)

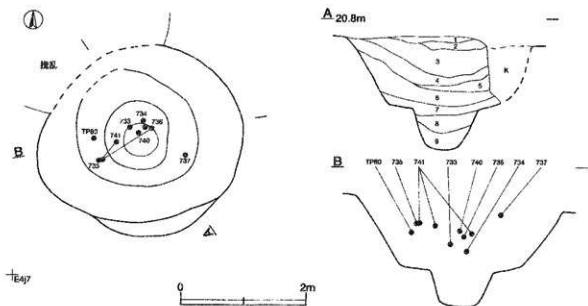
位置 調査区の南部のE47区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状 長径3.34m、短径3.08mの東西に長い楕円形で、長径方向はN-75°-Wである。深さは1.63mである。底面はほぼ平坦な不整形形で、長径1.95m、短径1.85mである。底面の中央部には、径1.00~1.10mの楕円形で深さ60cmほどの掘り込みを有している。壁は、緩やかに立ち上がっている。

覆土 9層からなる。第7~9層はロームブロックの混入が多く、人為堆積と考えられる。第1~6層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

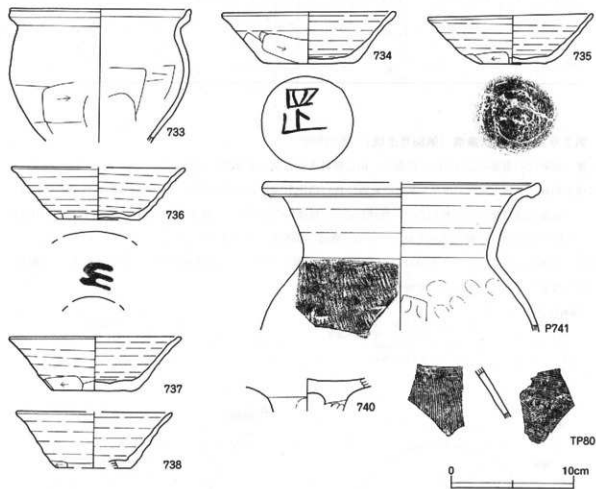
1 層	褐色	色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 層	色	炭化粒子・ローム粒子微量
2 層	褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 層	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 層	黄褐色	色	炭化粒子少量、ローム粒子微量	8 層	色	ロームブロック少量
4 層	褐色	色	ロームブロック・炭化粒子微量	9 層	色	ロームブロック中量
5 層	褐色	色	ローム粒子微量			



第248図 第2号大形堅穴状遺構実測図

遺物出土状況 土師器片14点、須恵器片33点、鉄滓3点が、中央部の覆土中層から出土している。734~737の須恵器・741の須恵器甕は、いずれも中央部の覆土中層から出土している。734の須恵器杯の底部と736の須恵器杯部の外面には、墨書が確認された。

所見 本跡は、立地・形状などから判断して氷室状遺構と考えられる。遺物は、人為堆積である第7層より上層から出土しており、埋め戻された後の投げ込みと考えられる。第7層の上面から734の墨書土器が出土していることから、9世紀中葉には人為的に埋め戻されていたことが考えられる。このことから、本跡が機能していたのは9世紀中葉以前と考えられる。



第249図 第2号大形竪穴状遺構出土遺物実測図

第2号大形竪穴状遺構 (SK-86) 出土遺物観察表 (第249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
733	土師器	小形鉢	14.7	(10.9)	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	覆土中層	30%
734	須恵器	杯	14.0	4.3	7.2	雲母・長石・石英	灰白	不良	底部一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	70%、底部外面墨書(正) PL54
735	須恵器	杯	13.4	4.2	5.6	雲母・長石・石英	灰白	不良	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	60%

番号	種類	器種	口径	器高	底径	蓋径	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
736	須恵器	坏	[14.2]	4.3	6.8	須恵・長石・石英・赤色粒子	灰	良好	底部同径ヘラ削り、一方側のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	30%、体部外面露出[E] PL54-56
737	須恵器	坏	14.0	4.5	6.8	雲母・長石・石英	灰	良好	体部一方側のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	50%、PI.54
738	須恵器	坏	[12.8]	4.5	[6.2]	長石・石英	灰黄	良好	底部同径ヘラ削り、一方側のヘラ削り、体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	30%
740	須恵器	高盤	-	[2.7]	-	雲母・長石・石英	黒褐色	不良	4孔式	覆土中層	10%
741	須恵器	素	[22.6]	[12.1]	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄褐色	普通	1:1麻焼マテ、体部外面斜位の平行叩き、内面ヘラナデ、指頭痕	覆土中層	20%
TP80	土師器	素	-	[4.2]	-	雲母・長石	浅黄褐色	普通	体部内・外面ハケ目調整	覆土中層	PL55

表7 奈良・平安時代大形堅穴状遺構一覧表

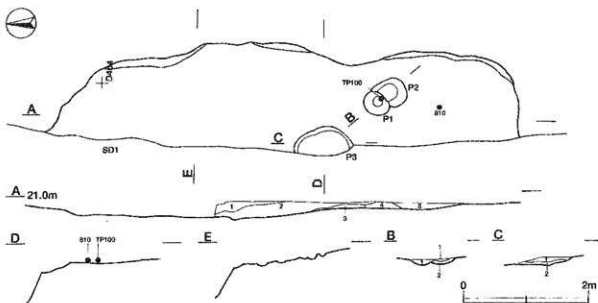
番号	位置	上層方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
1	D3d0	N-1°-W	楕円形	2.94×2.24	156	緩斜	平川	自然	土師器、須恵器、灰化種子	8世紀中葉
2	E417	N-75°-W	楕円形	3.34×3.08	163	緩斜	平坦	丸土	土師器、須恵器、鉄滓	9世紀初葉以前

第1号不明遺構 (第250図)

位置 調査区の東部のD4b3区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第1号溝に西部を掘り込まれている。

規模と形状 西側部分が第1号溝と重複しているため、長軸7.67m、短軸1.67mだけが確認された。形状は不整長方形と推定され、長軸方向はN 1°-Eである。深さはP3の北側が確認面から最も深く、確認面からの深さが30cmほどである。底面は、P3の北側に向けて緩やかに傾斜している。P3より北側は凹凸がある底面で、南側は平坦である。



第250図 第1号不明遺構実測図

ビット 3か所。P1・2は、深さ13cmほどの円形の小ビットであり、P1がP2を掘り込んでいる。P3は、深さ15cmで、遺構の中央部に位置すると推測される。

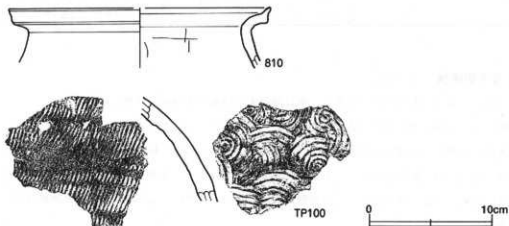
覆土 5層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|-------|---|------------------|--------|---|----------------|
| 1 褐色 | 色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 色 | ロームブロック少量 | 5 極暗褐色 | 色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒色 | 色 | ローム粒子多量 | | | |

遺物出土状況 土師器片49点、須恵器片5点、炭化種子が、南部を中心に覆土下層から出土している。810の土師器甕・TP100の須恵器甕は、いずれも南部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器片から8世紀前葉と考えられる。確認された平面形からは住居にも見えるが、第1号溝の西側からは遺構が検出できず、重複範囲の中に遺構がすべて含まれるとすれば長方形の形状となる。また、竈や炉も検出されていない。このことから、住居と考えることは難しい。規模や周囲に同時期の遺構がないこと、複数個体分の土師器瓶片が出土していることなどから作業場などの共同施設等の可能性も考えられるが、性格は不明である。



第251図 第1号不明遺構出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表（第251図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
810	土師器	甕	[21.4]	(4.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁横ナデ、体部内面ヘラナデ	覆土下層	5%
TP100	須恵器	甕	-	(8.5)	-	雲母・長石・小礫	黒褐	普通	体部外面斜位の平行引き後ヘラ削り、内面同心円の当て具痕	覆土下層	PL55

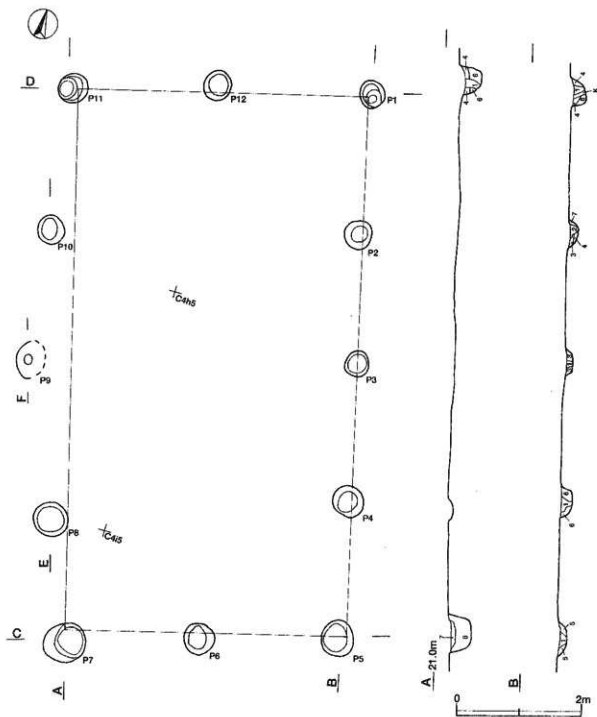
3 中世の遺構と遺物

今回の調査で、掘立柱建物跡2棟と地下式竈8基、方形堅穴遺構6基、土坑21基、溝1条を確認した。以下、検出された遺構及び遺物について記述する。

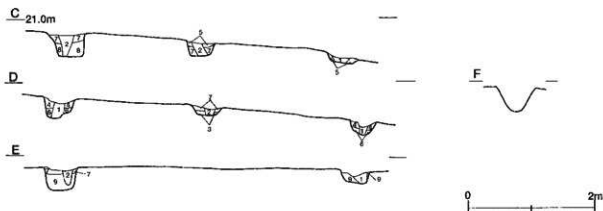
(1) 掘立柱建物跡

第4号掘立柱建物跡 (第252・253図)

位置 調査区の東部のC4h5区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。



第252図 第4号掘立柱建物跡実測図(1)



第253図 第4号掘立柱建物跡実測図(2)

規模と構造 桁行4間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行方向を $N-14^{\circ}-W$ とする南北棟である。規模は桁行8.77m、梁行4.70mである。柱間寸法は、桁行1.88~2.66m、梁行2.14~2.42mである。柱穴は規則的に配置され、柱筋もP9・10を除いて芯々を通っている。

柱穴 平面形はいずれも円形で、深さは12~38cmである。柱痕は第1・2層が相当し、その他は埋土と考えられる。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 灰褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 緑褐色 ロームブロック微量 | 7 緑褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子微量 | 9 灰褐色 ロームブロック少量 |
| 5 褐色 ローム粒子多量 | |

遺物出土状況 確認できなかった。

所見 土器が出土していないために時期決定が困難であるが、他の掘立柱建物跡と比べて柱穴の規模が小さく、構造も異なることから、中世の可能性が考えられる。

第19号掘立柱建物跡 (第254図)

位置 調査区の西部のC3h1区に位置し、南に傾斜する台地の東部に立地している。

重複関係 P3が第236号土坑の西部を、P4が第235号土坑の南東部を掘り込んでいる。

規模と構造 梁行1間の側柱式の建物跡で、桁行は東側が調査区域外のため2間のみ確認できた。桁行方向を $N-82^{\circ}-E$ とする東西棟である。規模は確認された桁行4.38m、梁行4.04mである。柱間寸法は、桁行2.16~2.34m、梁行2.00~2.40mである。柱穴は規則的に配置され、柱筋も芯々をほぼ通っている。

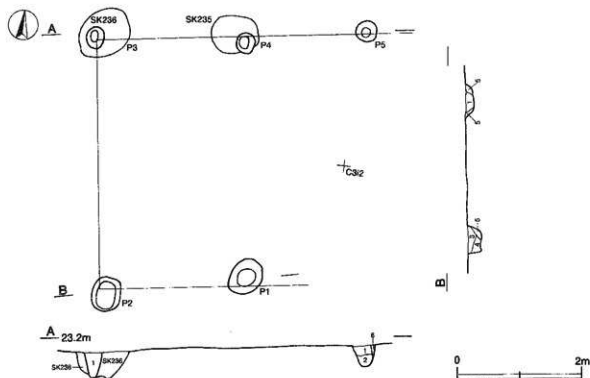
柱穴 平面形はいずれも楕円形で、深さは18~40cmである。柱痕は第1層が相当し、その他は埋土と考えられる。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1 灰褐色 ローム粒子微量 | 4 灰褐色 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土器碎片1点が、P2の埋土中から出土している。小片であり、図示することができなかった。

所見 土器碎片1点が出土しているが、時期決定は困難である。他の掘立柱建物跡と比べて柱穴の規模が小さいことから、中世の可能性が考えられる。



第254図 第19号掘立柱建物跡実測図

表8 中世掘立柱建物跡一覧表

遺構番号	位置	掘り方向	柱間数(桁×梁)	規模(m)	面積(m ²)	構造	掘り柱間(m)	梁柱間(m)	柱穴平面形	深さ(m)	主な出土遺物	備考(時期・H1→近)
4	C4h5	N 14° W	4 × 2	8.77×4.70	41.22	側柱	1.88-2.66	2.14-2.42	円形	12-38		中世
19	C3h1	N-82°-E	(2) × 1	(4.38)×4.04	(17.70)	側柱	2.16-2.34	2.00-2.40	楕円形	18-40		中世 SK235-236→本跡

(2) 地下式塼

第1 A号地下式塼(第255図)

位置 調査区の南部のE 3 c5区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第1 B号地下式塼の南部を掘り込んでいる。

壁坑 主室西壁の南寄りに位置し、長軸1.1m、短軸0.7mの長方形と推測される。深さは確認面から1.26mで、主室の底面より20cmほど高く、底面は主室に向かってなだらかに傾斜している。壁は、ほぼ直立している。

主室 底面は長軸2.91m、短軸1.95mの隅丸長方形で、確認面から底面までの深さは1.46mである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。天井部は、完全に崩落している。主軸方向は、N-88°-Wである。

覆土 20層からなる。第17層は、ロームブロックを含んでいることから天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

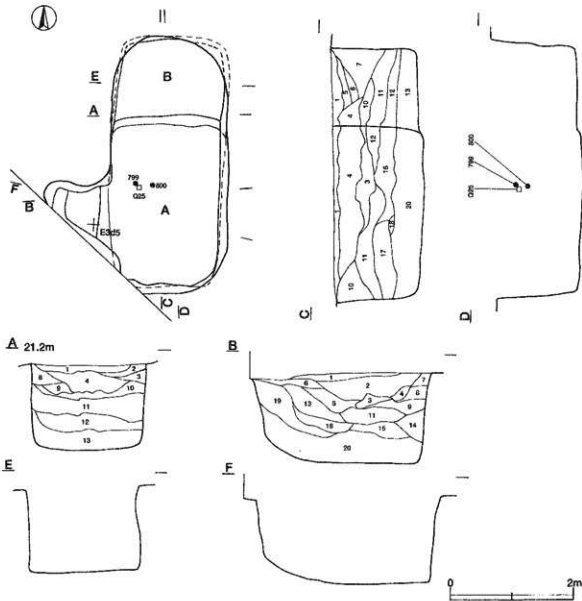
1 黒 褐色	色	ローム粒子微量	5 黒 褐色	色	ローム粒子微量
2 黒 褐色	色	炭化物少量、ロームブロック微量	6 暗 褐色	色	ロームブロック少量
3 暗 褐色	色	ロームブロック少量、黒色土粒微量	7 暗 褐色	色	ロームブロック微量
4 暗 褐色	色	ロームブロック少量	8 暗 褐色	色	ロームブロック少量

9	褐色	ロームブロック少量
10	褐色	ロームブロック微量
11	灰褐色	ロームブロック少量
12	灰褐色	ロームブロック微量
13	灰褐色	ロームブロック少量
14	褐色	ローム粒子少量

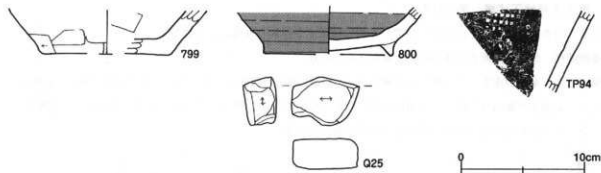
15	褐色	ロームブロック微量
16	暗褐色	ロームブロック微量
17	褐色	ロームブロック中量
18	褐色	ローム粒子微量
19	褐色	ロームブロック少量
20	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片55点, 須恵器片7点, 陶器1点, 砥石1点, 磨石2点, 鉄滓1点が, 覆土中から出土している。多くの遺物は, 天井部の崩落の際に流入したものと考えられる。800の須恵器長頸瓶は覆土中層から, TP94の常滑美片は覆土中から出土している。

所見 地下式墳は1か所に密集しており, 墓域として区画されていたと考えられる。時期は, 出土土器や第1B号地下式墳との関係から鎌倉時代後期の14世紀前半と考えられる。



第255図 第A・B号地下式墳実測図



第256図 第1A号地下式竈出土遺物実測図

第1A号地下式竈出土遺物観察表 (第256図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
799	須恵器	鉢	-	(3.6)	(10.2)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り、体部下端手持ちへう割り	覆土上層	5%
800	須恵器	長頸瓶	-	(3.9)	(10.4)	長石・石英	灰白	良好	底部一方向のへう割り後、高台貼り付け、体部内・外面へうナデ	覆土中層	5%
TP94	常滑	甕	-	(6.7)	-	雲母・長石・石英・礫	橙	良好	体部外面に押印文、内面ナデ	覆土中	PL55

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	紙石	5.5	(4.0)	2.6	(79.1)	片麻岩	紙面2面	覆土上層	

第1B号地下式竈 (第255図)

位置 調査区の南部のE3c5区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第1A号地下式竈に南部を掘り込まれている。

竪坑 確認できなかった。

主室 底面は確認された長軸1.34m、短軸1.91mの隅丸長方形で、確認面から底面までの深さは1.38mである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。天井部は北東・北西コーナー部に一部が遺存しているのみで、中央部は崩落している。主軸方向は、N-88°-Wである。

覆土 13層からなる。第11層は、ロームブロックを多量に含んでいることから天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

1	黒	褐色	色	ローム粒子微量	8	褐	色	ロームブロック少量	
2	暗	褐色	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9	黒	褐色	色	ロームブロック微量
3	褐	褐色	色	ローム粒子少量	10	褐	褐色	色	ロームブロック少量、黒色土粒微量
4	黒	褐色	色	炭化物少量、ロームブロック微量	11	灰	褐色	色	ロームブロック中量
5	暗	褐色	色	ロームブロック少量	12	褐	褐色	色	ロームブロック微量
6	暗	褐色	色	ロームブロック微量	13	褐	褐色	色	ロームブロック中量
7	褐	褐色	色	ロームブロック少量					

遺物出土状況 土師器片2点、須恵器片1点が、覆土中から出土している。遺物は、天井部の崩落の際に流入したものと考えられる。小片のため、図示することができなかった。

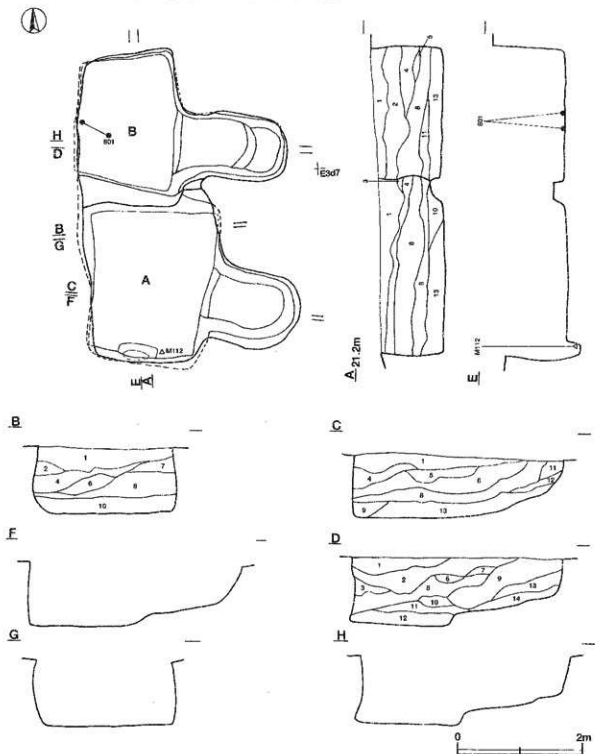
所見 地下式竈は1か所に密集しており、墓域として区画されていたと考えられる。時期は、出土遺物から鎌倉時代後期の13世紀後葉と考えられる。

第2A号地下式竈 (第257図)

位置 調査区の南部のE3d6区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第2B号地下式竈の南部を掘り込んでいる。

竈坑 主室東壁の南寄りに位置し、長軸1.55m、短軸1.27mの隅丸長方形である。深さは確認面から0.8mで、主室の底面より30cmほど高く、底面は主室に向かってなだらかに傾斜している。主室との境は、約30度の角度で急に落ち込んでいる。壁は、外傾して立ち上がっている。



第257図 第2A・B号地下式竈実測図

主室 底面は長軸2.74m、短軸2.30mの不整長方形で、確認面から底面までの深さは1.06mである。底面は平坦で、南壁際に長軸0.65m、短軸0.30mほどの長方形の落ち込みがある。壁は、ほぼ直立している。天井部は、完全に崩落している。主軸方向は、N-74°-Wである。

覆土 13層からなる。第9・10層は、ロームブロックを多量に含んでいることから天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

1 暗 褐色	ロームブロック中量	8 暗 褐色	ロームブロック少量
2 黒 褐色	ロームブロック少量	9 暗 褐色	ロームブロック多量
3 黒 褐色	ローム粒子微量	10 黒 褐色	ロームブロック多量
4 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	11 暗 褐色	ロームブロック少量
5 暗 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	12 暗 褐色	ロームブロック中量
6 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	13 暗 褐色	ロームブロック中量
7 極 暗 褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片71点、須恵器片16点、陶器4点、泥面子1点、古銭1点が、覆土中から出土している。多くの遺物は、天井部の崩落の際に流入したものと考えられる。TP96の常滑甕片は覆土中から、M112の古銭は南壁際の底面から出土している。

所見 地下式墳は1か所に密集しており、墓域として区画されていたと考えられる。時期は、出土土器片から鎌倉時代後期の13世紀後半と考えられる。



第258図 第2A号地下式墳出土遺物実測図

第2A号地下式墳出土遺物観察表(第258図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP96	常滑	甕	-	(5.8)	-	長石・小礫	にじい・黄褐色	良好	体部外面に押印文、内面ナデ	覆土中	PL55
TP97	須恵器	甕	-	(5.3)	-	長石	褐色	良好	体部外面に磨面状工具による押印文、内面ナデ	覆土中	

番号	銭名	径	孔	厚さ	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M112	皇宋通寶	2.4	0.8	0.1	2.7	寶元元年(1038)	銅	北宋銭、篆書、円形方孔、無背	底面	PL62

第2B号地下式墳(第257図)

位置 調査区の南部のE3c6区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第2A号地下式墳に南部を掘り込まれている。

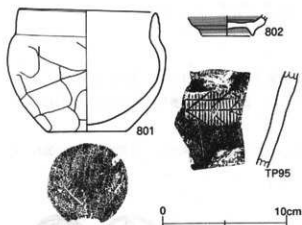
堅坑 主室東壁の南寄りに位置し、長軸1.74m、短軸1.08mの隅丸長方形である。深さは確認面から85cmで、主室の底面より30cmほど高く、底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。主室との境は、約60度の角度で急に落ち込んでいる。壁は、ほぼ直立している。

主室 底面は長軸2.38m、短軸1.65mの長方形で、確認面から底面までの深さは1.12mである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。天井部は、完全に崩落している。主軸方向は、N-77°-Wである。

覆土 14層からなる。第11・12層は、ロームブロックを含んでいることから天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

1	黒 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	8	黒 褐色	ロームブロック少量
2	黒 褐色	ロームブロック中量	9	暗 褐色	ロームブロック少量
3	暗 褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量	10	黒 褐色	ロームブロック微量
4	暗 褐色	ロームブロック少量	11	暗 褐色	ロームブロック中量
5	暗 褐色	ロームブロック少量	12	暗 褐色	ロームブロック中量
6	黒 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	13	黒 暗 褐色	ロームブロック少量
7	黒 暗 褐色	ロームブロック中量	14	暗 褐色	ロームブロック中量



第259図 第2B号地下式竈出土遺物実測図

第2B号地下式竈出土遺物観察表(第259図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
801	土師器	小形甕	11.2	10.0	6.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁横ナデ、体部外面へう配り、内面へうナデ	底 面	85%
802	磁器	青磁杯	-	(1.7)	4.2	緻密	灰白・明緑灰	良好	高台先端部とその周辺が露胎、龜裂窯系	覆土中	20%
TP95	常滑	甕	-	(7.8)	-	長石・赤色粒子・礫	にぶい黒	良好	体部外面に押印文、内面ナデ	覆土中	PL55

第3号地下式竈(第260図)

位置 調査区の南部のE3c7区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

竈坑 主室南壁の中央に位置し、長径1.70m、短径1.26mの楕円形である。深さは確認面から87cmで、主室の底面より70cmほど高く、主室との境は約40度の角度で急に落ち込んでいる。壁は、外傾して立ち上がっている。主室 底面は長軸2.71m、短軸1.70mの長方形で、確認面から底面までの深さは1.55mである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。天井部は北西コーナー部に一部が遺存しているだけで、中央部は崩落している。主軸方向は、N-4°-Eである。

覆土 18層からなる。第12・14・17層は、ロームブロックを多量に含んでいることから天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

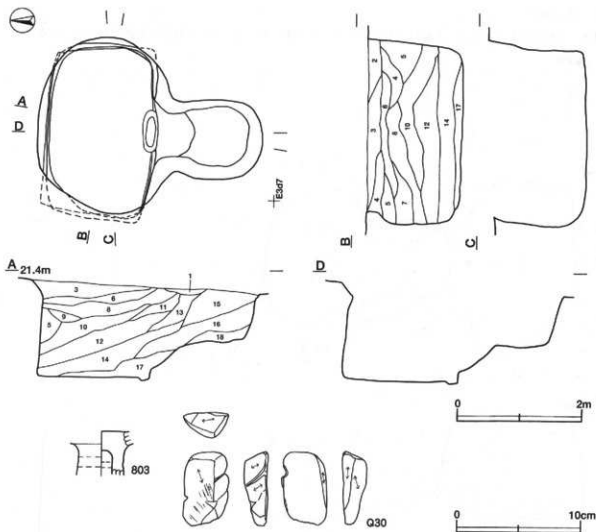
1	暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量	5	褐色	ロームブロック少量
2	暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	6	暗 褐色	ロームブロック中量
3	黒 褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量	7	暗 褐色	ロームブロック中量
4	黒 褐色	ロームブロック少量	8	黒 褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量

- 9 暗 褐色 ロームブロック中量
 10 黒 褐色 ロームブロック少量
 11 暗 褐色 ロームブロック中量
 12 暗 褐色 ロームブロック多量
 13 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

- 14 暗 褐色 ロームブロック中量
 15 暗 褐色 ロームブロック中量
 16 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 17 暗 褐色 ロームブロック中量
 18 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片24点、須恵器片4点、陶器1点、砥石1点が、覆土中から出土している。多くの遺物は、天井部の崩落の際に流入したものと考えられる。803の須恵器高盤は覆土中から出土しているが、天井部崩落時の流入と考えられる。

所見 地下式墳は1か所に密集しており、墓域として区画されていたと考えられる。時期は、出土土器や他の地下式墳との関係から鎌倉時代後期の13世紀後半から14世紀前半と考えられる。



第260図 第3号地下式墳・出土遺物実測図

第3号地下式墳出土遺物観察表(第260図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
803	須恵器	高盤	-	(3.6)	-	長石・石英	灰	良好	ロクロ成形	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q30	砥石	6.0	3.7	1.9	43.6	凝灰岩	紙面4面、溝状の紙面1か所	覆土中	

第4A号地下式墳（第261図）

位置 調査区の南部のE3c8区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 塚坑が第4B号地下式墳の堅坑を掘り込んでいる。

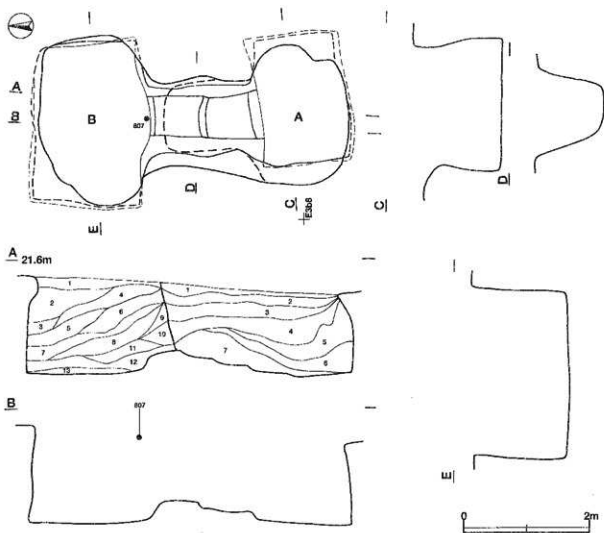
堅坑 主室北壁のやや西寄りに位置し、長軸1.55m、短軸1.34mの長方形である。深さは確認面から1.48mで、主室の底面より20cmほど高い。底面は平坦で、主室との境は約45度の角度で急に落ち込んでいる。壁は、外傾して立ち上がっている。

主室 底面は長軸2.45m、短軸1.64mの長方形で、確認面から底面までの深さは1.66mである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。天井部は東壁際に遺存しているが、中央部は完全に崩落している。主軸方向は、N-1°-Eである。

覆土 7層からなる。第3～6層は、ロームブロック主体であることから天井部の崩落土と考えられる。

土層解読

1 黒 褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量	5 樹 皮色	ロームブロック多量
2 灰 褐色	ロームブロック少量	6 陶 色	ロームブロック多量
3 褐 色	ロームブロック中量	7 黒 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 黒 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量		



第261図 第4A・B号地下式墳実測図

遺物出土状況 確認できなかった。

所見 地下式墳は1か所に密集しており、墓域として区画されていたと考えられる。時期は、第4B号地下式墳との関係から14世紀前半と考えられる。

第4B号地下式墳 (第261図)

位置 調査区の南部のE3c8区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 竪坑が第4A号地下式墳の竪坑に掘り込まれている。

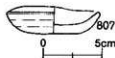
竪坑 主室南壁の中央に位置し、長軸1.62m、短軸1.36mの長方形である。深さは確認面から1.30mで、主室の底面より35cmほど高い。底面は平坦で、主室との境は約50度の角度で急に落ち込んでいる。壁は、外傾して立ち上がっている。

主室 底面は長軸2.80m、短軸1.66mの長方形で、確認面から底面までの深さは1.66mである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。天井部は北西コーナ一部に遺存しているが、中央部は崩落している。主軸方向は、N-1°-Wである。

覆土 13層からなる。第6・7層は、ロームブロック主体であることから天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

1	黒	褐色	炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量	8	暗	褐色	ロームブロック中量	
2	暗	褐色	ロームブロック中量	9	極	暗	褐色	ロームブロック中量
3	暗	褐色	ロームブロック中量	10	暗	褐色	ロームブロック中量	
4	黒	褐色	ローム粒子微量	11	暗	褐色	ロームブロック中量	
5	黒	褐色	炭化物少量、ローム粒子微量	12	黒	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	
6	暗	褐色	ロームブロック中量	13	極	暗	褐色	ロームブロック中量
7	暗	褐色	ロームブロック多量					



遺物出土状況 土師質土器1点が出土している。807の土師質土器小皿は、竪坑と主室の境の覆土上層から出土している。

所見 地下式墳は1か所に密集しており、墓域として区画されていたと考えられる。時期は、出土土器から鎌倉時代後期の13世紀後半と考えられる。

第262図 第4B号地下式墳出土遺物実測図

第4B号地下式墳出土遺物観察表 (第262図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
807	土師質土器	小皿	7.6	2.2	-	長石	藍	普通	口縁-体部内面縁ナテ	覆土上層	90%, PL54

第5号地下式墳 (第263図)

位置 調査区の南部のE3d7区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

竪坑 主室西壁のやや北寄りに位置し、長軸1.33m、短軸1.05mの長方形である。深さは確認面から1.05mで、底面は主室の底面に向かってなだらかに傾斜している。壁は、外傾して立ち上がっている。

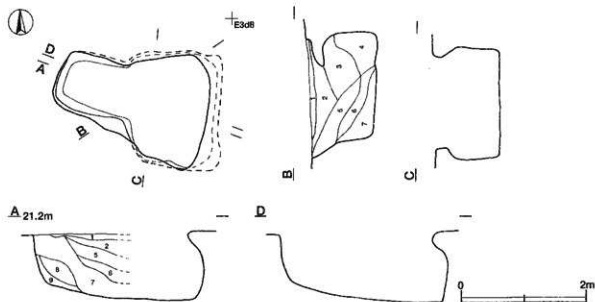
主室 底面は長軸1.97m、短軸1.18mの長方形で、確認面から底面までの深さは1.13mである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。天井部は東壁際が遺存しているだけで、中央部は崩落している。主軸方向はN-71°-Wである。

覆土 9層からなる。第4・6層は、ロームブロックを多量に含んでいることから天井部の崩落土と考えられる。

土層解説					
1	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量、炭化粒子極微量	6	褐色	ローム粒子中量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック少量	8	褐色	ロームブロック少量
4	褐色	ロームブロック多量	9	褐色	ロームブロック微量
5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片1点、鉄滓1点が、覆土中から出土している。遺物は、天井部の崩落の際に流入したものと考えられる。小片のため、図示することができなかった。

所見 地下式竈は1か所に密集しており、墓域として区画されていたと考えられる。時期は、他の地下式竈との関係から鎌倉時代後期の13世紀後半から14世紀前半と考えられる。



第263図 第5号地下式竈実測図

表9 地下式竈一覽表

番号	位置	軸方向	竈 掘 (m)						底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
			竈		坑		室					
			長軸×短軸	深さ	平面形	長軸×短軸	深さ	平面形				
1A	E3c5	N-88°-W	1.1×0.7	1.26	長方形	2.91×1.95	1.46	隅丸長方形	平坦	白・人	須置器、常滑焼、磁石、磁石、鉄滓	鎌倉時代後期
1B	E3c5	N-88°-W				0.34×1.91	1.38	隅丸長方形	平坦	白・人		鎌倉時代後期
2A	E3d6	N-74°-W	1.55×1.27	0.8	隅丸長方形	2.74×2.30	1.06	長方形	平坦	白・人	土師器、常滑焼、鹿角子、古銭	鎌倉時代後期
2B	E3c6	N-77°-W	1.74×1.08	0.85	隅丸長方形	2.38×1.05	1.12	長方形	平坦	白・人	常滑焼、磁器	鎌倉時代後期
3	E3c7	N-4°-E	1.70×1.26	0.87	楕円形	2.71×1.70	1.55	長方形	平坦	白・人	須置器、常滑焼、磁石	鎌倉時代後期
4A	E3c8	N-1°-E	1.53×1.34	1.48	長方形	2.45×1.64	1.66	長方形	平坦	白・人		鎌倉時代後期
4B	E3c8	N-1°-W	1.62×1.36	1.3	長方形	2.80×1.66	1.66	長方形	平坦	白・人	土師器片	鎌倉時代後期
5	E3d7	N-71°-W	1.33×1.05	1.05	長方形	1.97×1.18	1.13	長方形	平坦	白・人		鎌倉時代後期

(3) 方形竪穴遺構

第1号方形竪穴遺構 (第264図)

位置 調査区の東部のD4b4区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第2号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.11m、短軸2.94mの方形で、長軸方向はN-88°-Wである。壁高は36~59cmで、東壁は外傾して立ち上がり、他はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部に5cmほど粘土が貼り付けられて、よく踏み固められている。硬化面の北東部に炭化物の広がり確認できた。

ピット 2か所。主柱穴はP1・2が相当し、深さはP1が66cm、P2が80cmである。P1・2とも径50cm、深さ20cmのすり鉢状の掘り込みの後、一辺20cmほどの方形に掘り込まれている。覆土第8・9層は白色粘土を多量に含んでいる。また、覆土第5層のしまりは非常に弱く、覆土第6層のしまりは非常に強い。

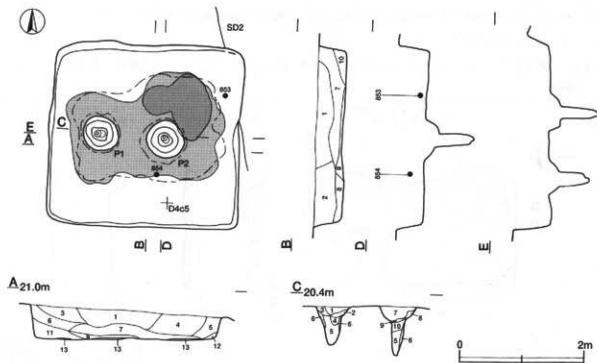
土層解説

1 暗褐色	色	ロームブロック少量	6 にぶい褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック微量	
2 暗褐色	色	ロームブロック微量	7 暗褐色	色	ロームブロック・粘土ブロック少量
3 暗褐色	色	ロームブロック微量	8 褐色	色	粘土ブロック中量
4 褐色	色	粘土ブロック少量、ロームブロック微量	9 にぶい褐色	色	粘土ブロック多量、ローム粒子微量
5 褐色	色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量	10 褐色	色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量

覆土 13層からなる。ロームブロックの混入が多いブロック状の堆積で、人為堆積と考えられる。第13層は、床面に貼り付けた粘土層である。

土層解説

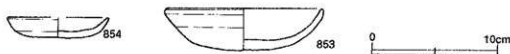
1 暗褐色	色	ロームブロック少量	8 褐色	色	ローム粒子少量
2 暗褐色	色	ロームブロック少量	9 褐色	色	ローム粒子微量
3 黒褐色	色	ロームブロック・炭化粒子微量	10 褐色	色	ロームブロック微量
4 暗褐色	色	ロームブロック微量	11 黒褐色	色	ロームブロック少量
5 褐色	色	ロームブロック微量	12 黒褐色	色	ローム粒子微量
6 暗褐色	色	ロームブロック・粘土粒子微量	13 にぶい褐色	色	粘土粒子多量、洗土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒微量
7 褐色	色	ロームブロック・炭化粒子微量			



第264図 第1号方形竪穴遺構実測図

遺物出土状況 土師器片28点、須恵器片21点、土師質土器2点、炭化材1点が、北部の覆土下層から散在した状態で出土している。853の土師質土器皿は北東コーナ一部の覆土下層から、854の土師質土器小皿は南部中央の覆土下層から出土している。

所見 硬化面の北東部で炭化物が確認され、有機物を燃やしたと考えられるが、目的や用途は不明である。長軸方向が第1A・B号地台式燼と同で、第3・4A・4B号地台式燼とはほぼ直交することから、地台式燼群とはほぼ同時期に機能していたものと考えられる。時期は、山上土器から鎌倉時代後期の13世紀後半から14世紀前半と考えられる。



第265図 第1号方形堅穴遺構出土遺物実測図

第1号方形堅穴遺構出土遺物観察表 (第265図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
853	土師質土器	皿	12.4	3.1	-	灰白色粘土	浅黄	普通	口縁・内面横ナデ	覆土下層	100%, 14, 54
854	土師質土器	小皿	18.0	1.6	-	灰白色粘土	橙	普通	口縁・内面横ナデ	覆土下層	30%

第2号方形堅穴遺構 (第266図)

位置 調査区の東部のD4a4区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

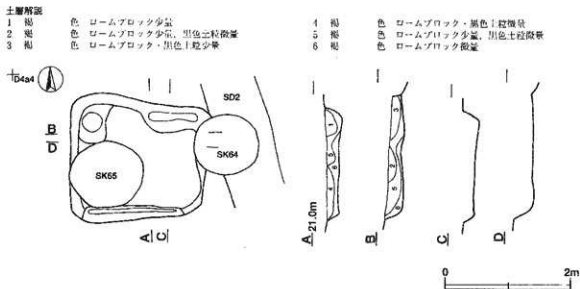
重複関係 第2号溝を掘り込み、第64号土坑に東壁を、第65号土坑に南西部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.19m、短軸2.03mの方形で、長軸方向はN-86°-Wである。壁高は18cmで、壁はいずれも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、北壁際に若干の落ち込みが見られる。硬化した面は確認できなかった。

ピット 確認できなかった。

覆土 6層からなる。ロームブロックが混入し、堆積に乱れがあることから、人為堆積と考えられる。



第266図 第2号方形堅穴遺構実測図

遺物出土状況 確認できなかった。

所見 形状・規模ともに第3号方形竪穴遺構と同様であり、同時期に機能していたものと考えられる。時期は、第1号方形竪穴遺構と長軸方向がほぼ同一なことから、鎌倉時代後期の13世紀後葉から14世紀前半の可能性が考えられる。

第3号方形竪穴遺構 (第267図)

位置 調査区の東部のC4区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 西部が第2号溝を、北西コーナーが第57号住居跡をいずれも掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.30m、短軸1.75mの長方形で、長軸方向はN-88°-Wである。壁高は32cmで、壁はいずれも外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、硬化した面は確認できなかった。

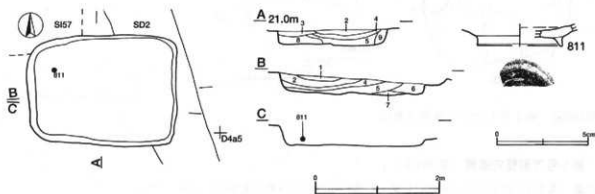
ピット 確認できなかった。

覆土 9層からなる。ロームブロックが混入し、堆積に乱れがあることから、人為堆積と考えられる。

土層解説					
1	黒 褐色	ロームブロック・炭粒子微量	6	暗 褐色	ロームブロック少量
2	暗 褐色	ロームブロック少量	7	褐色	ロームブロック少量
3	褐色	ロームブロック微量	8	褐色	ロームブロック中量
4	黒 褐色	ロームブロック微量	9	褐色	ロームブロック少量
5	暗 褐色	ロームブロック微量			

遺物出土状況 土師器片2点、須恵器片2点が、覆土中から出土している。811の須恵器高台付坏は、北西コーナー部の覆土下層から出土しているが、流入の可能性が考えられる。

所見 形状・規模ともに第2号方形竪穴遺構と同様であり、同時期に機能していたものと考えられる。時期は、長軸方向が第1号方形竪穴遺構と同一であることから、鎌倉時代後期の13世紀後葉から14世紀前半の可能性が考えられる。



第267図 第3号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第3号方形竪穴遺構出土遺物観察表 (第267図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
811	須恵器	高台付坏	-	(1.8)	(6.8)	栗母・灰石・石炭	にぶい黄	不良	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土下層	10%

第4号方形竪穴遺構 (第268図)

位置 調査区の南部のE3d6区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状 長軸2.33m、短軸2.00mの不整長方形で、長軸方向はN-11°-Eである。壁高は24cmで、壁はいずれも緩やかに立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、硬化した面は確認できなかった。南壁際の中央部には、ローム土を用いてスロープ状の出入口施設が付設され、上面は踏み固められて硬化している。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|--------|-----------|
| 1 暗 褐色 | ローム粘土多量 | 3 暗 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗 褐色 | ローム粘土中量 |

ピット 3か所。P1・2が主柱穴に相当し、深さはP1が25cm、P2が39cmである。P3は深さ47cmの小ピットで、性格は不明である。

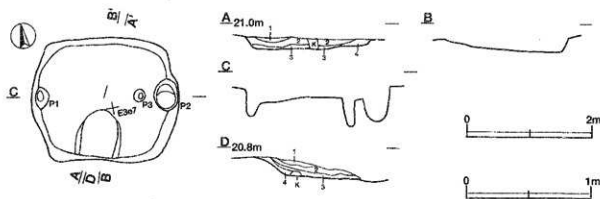
覆土 4層からなる。レンズ状堆積のように見えるが、すべての層にロームブロックが混入していることから、人為堆積の可能性も考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粘土少量 | 3 暗 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化した微量 | 4 暗 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片3点が、覆土中から出土している。小片のため、図示することができなかった。

所見 主軸方向が第6号方形竪穴遺構と直交することから、同時期に機能していた可能性が考えられる。北方に位置する地下式竪穴群と同一区画内にあると考えられる。時期は、地下式竪穴群との関係から鎌倉時代後期の13世紀後半から14世紀前半と考えられる。



第268図 第4号方形竪穴遺構実測図

第5号方形竪穴遺構 (第269図)

位置 調査区の南部のE3a0区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第154号土坑に北東コーナー部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.17m、短軸2.13mの方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は56cmで、壁はいずれも外傾して立ち上がっている。西壁際の中央部やや北寄りには、壁外へ30cmほど掘り込んだ出入口施設が付設されている。深さは確認面から5cmほどで、底面は平坦である。

床 はほぼ平坦で、硬化した面は確認できなかった。

ピット 2か所。主柱穴はP1・2が相当し、深さはP1が40cm、P2が20cmである。

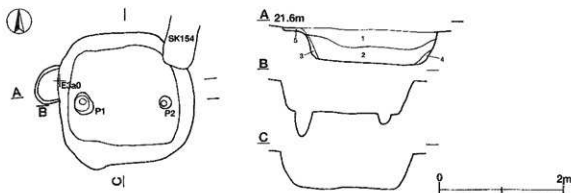
覆土 5層からなる。ロームブロックが混入したしまりの弱い覆土であることから、人為堆積の可能性が考えられる。

土層解説

- | | | | | | | | |
|---|---|----|-----------------|---|---|----|--------------|
| 1 | 黒 | 褐色 | 炭化物中量、ロームブロック少量 | 4 | 暗 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | 黒 | 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | 5 | 黒 | 褐色 | 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 3 | 黒 | 褐色 | 炭化粒子・ローム粒子多量 | | | | |

遺物出土状況 土師器片21点、須恵器片15点が、覆土中から出土している。小片のため、図示することができなかった。

所見 形状・規模ともに第6号方形堅穴遺構と同様であり、同時期に機能していたものと考えられる。時期は、長軸方向が第1号方形堅穴遺構とはほぼ同一であることから、鎌倉時代後期の13世紀後半から14世紀前半の可能性が考えられる。

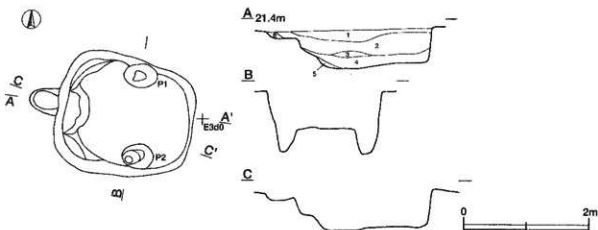


第269図 第5号方形堅穴遺構実測図

第6号方形堅穴遺構 (第270図)

位置 調査区の南部のE3c9区に位置し、南に傾斜する台地の東端部に立地している。

規模と形状 長軸2.18m、短軸1.96mの隅丸長方形で、主軸方向はN-101°-Eである。壁高は62cmで、壁はいずれもほぼ直立している。西壁際の中央部には、壁外へ45cmほど掘り込んだ出入口施設が付設されている。深さは確認面から10cmほどで、底面は平田である。



第270図 第6号方形堅穴遺構実測図

床 はほぼ平坦で、硬化した面は確認できなかった。西壁際の中央部には、掘り残しによって階段状の出入口施設が付設されている。

ピット 2か所。主柱穴はP1・2が相当し、深さは45cmほどである。

覆土 6層からなる。ロームブロックが多量に混入していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 培	色	ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量	4 魁	色	ロームブロック中量
2 培	色	ロームブロック中量、炭化物少量	5 堀	色	ローム粒子中量、炭化物少量
3 培	色	ロームブロック中量	6 堀	色	ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片6点が、覆土中から出土している。小片のため、図示することができなかった。

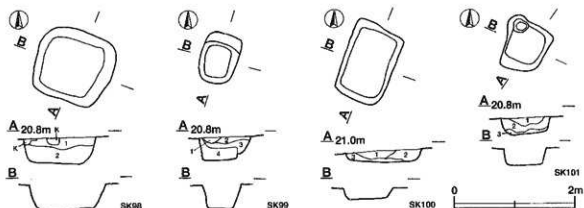
所見 形状・規模ともに第5号方形竪穴遺構と同様であり、同時期に機能していたものと考えられる。時期は、第4号方形竪穴遺構と長軸方向が直交することから鎌倉時代後期の13世紀後半から14世紀前半の可能性が考えられる。

表10 中世方形竪穴遺構一覧表

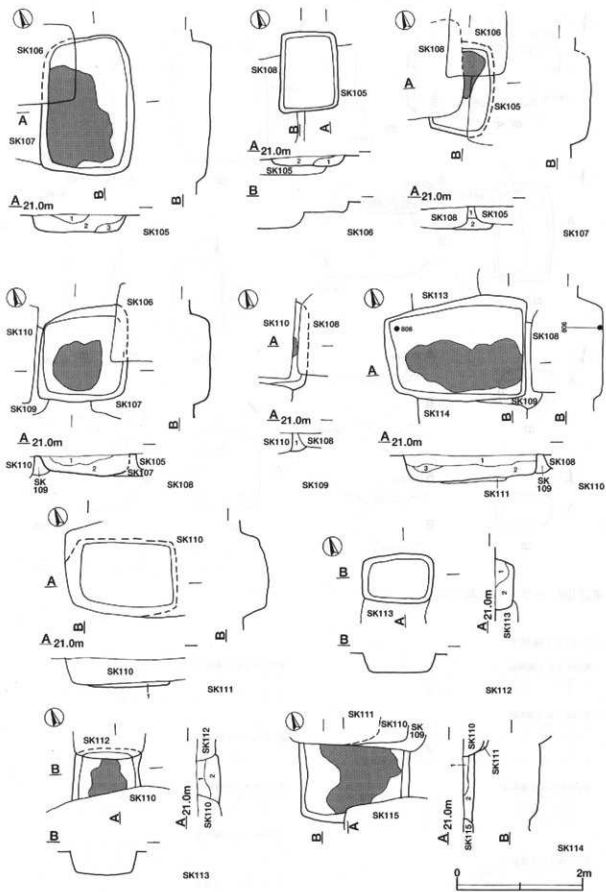
遺構番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期・1・面)
1	D4b4	N-88°-W	方形	3.11×2.94	36~50	直立	平坦	人為	土師瓦1器	鎌倉時代後期 SD2・本跡
2	D4a4	N-86°-W	方形	2.19×2.03	18	外傾	平坦	人為		鎌倉時代後期 SD2・本跡→SK64-65
3	C4J4	N-88°-W	長方形	2.30×1.75	32	外傾	平坦	人為	須恵器片	鎌倉時代後期 SIS7-SD2一本跡
4	E3d6	N-11°-E	不整形方形	2.33×2.00	24	垂直	平坦	人為		鎌倉時代後期
5	E3a0	N-101°-E	方形	2.17×2.13	56	外傾	平坦	人為		鎌倉時代後期 本跡→SK154
6	E3c9	N-79°-W	隅丸長方形	2.18×1.96	62	直立	平坦	人為		鎌倉時代後期

(4) 土坑

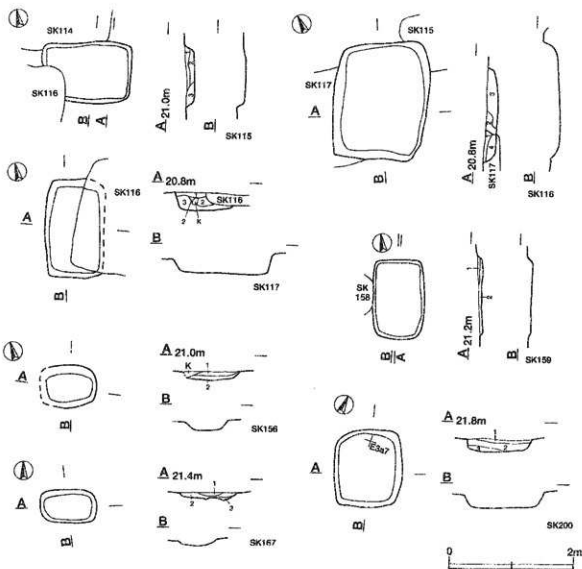
調査区南部の地下式竪穴や方形竪穴遺構の南東方向10mほどに土壌層が確認された。これらは長方形を基調とする形状で、平坦な底面をもつ規格性の高い土壌である。覆土はロームブロックが多量に混入した人為堆積で、地下式竪穴や方形竪穴遺構と同時期の墓壇の可能性が非常に高いと考えられる。以下、これらの土壌と類似する土壌について実測図と土層解説、一覧表を記載する。



第271図 中世土坑実測図(1)



第272图 中世土坑实测图(2)



第273図 中世土坑実測図(3)

中世土坑土層解説

第98号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第99号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、黒色土粒少量

第100号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第101号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物、ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第105号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第106号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第107号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第108号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

第109号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

- 第110号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 2 暗 褐色 ロームブロック中量
 3 暗 褐色 ローム粒子中量

- 第111号土坑土層解説
 1 極 暗 褐色 炭化物・ロームブロック少量

- 第112号土坑土層解説
 1 極 暗 褐色 ロームブロック少量
 2 暗 褐色 ロームブロック中量

- 第113号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック中量
 2 暗 褐色 ロームブロック多量

- 第114号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
 2 暗 褐色 ローム粒子中量

- 第115号土坑土層解説
 1 黒 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
 2 極 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
 3 暗 褐色 ロームブロック少量

- 第116号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 2 極 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
 4 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

- 第117号土坑土層解説
 1 黒 褐色 ローム粒子微量
 2 暗 褐色 ロームブロック中量
 3 極 暗 褐色 ロームブロック微量

- 第156号土坑土層解説
 1 黒 褐色 炭化物・ロームブロック少量
 2 暗 褐色 ロームブロック少量

- 第159号土坑土層解説
 1 褐色 ロームブロック少量
 2 極 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

- 第167号土坑土層解説
 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 2 暗 褐色 ロームブロック中量
 3 褐色 ロームブロック少量

- 第200号土坑土層解説
 1 黒 褐色 ロームブロック微量
 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
 3 黒 褐色 ロームブロック微量



第274図 第110号土坑出土遺物実測図

第110号土坑出土遺物観察表 (第274図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
806	須恵器	長頸瓶	-	(3.3)	-	長石・石英	黒褐色	良好	体部内・外面ヘラナデ、高台貼付付	覆土下層	5%

表11 中世土坑一覧表

土坑番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期・区→新)
98	E3e6	N-68°-W	隅丸方形	1.31×1.20	44	外傾	平坦	人為		鎌倉時代後期
99	E3e7	N-18°-E	長方形	0.84×0.62	40	外傾	平坦	人為		鎌倉時代後期
100	E3e8	N-20°-E	長方形	1.30×0.85	18	緩斜	平坦	人為		鎌倉時代後期
101	E3f8	N-22°-E	不整形長方形	0.82×0.66	28	直立	平坦	人為		鎌倉時代後期
105	E3f0	N-19°-E	隅丸長方形	2.15×1.47	22	外傾	緩斜	人為		鎌倉時代後期 SK107→本跡→SK106
106	E3f9	N-23°-E	長方形	1.26×0.91	16	外傾	平坦	人為		鎌倉時代後期 SK105-107-108→本跡
107	E3f9	N-24°-E	方形	1.51×1.43	36	緩斜	平坦	人為		鎌倉時代後期 本跡→SK105-106-108
108	E3f9	N-16°-E	隅丸方形	1.51×1.42	30	緩斜	平坦	人為		鎌倉時代後期 SK107-109→本跡

土坑 番号	位置	土坑方向 (長軸方向)	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	深さ (cm)	底面	法面	覆土	出土遺物	備考 (時期・目・新)
109	E 3 f 9	N-23° E	長方形*	0.22×1.45	30	緩斜	平直	人為		鎌倉時代後期 SK14→本跡・SK108-110-111
110	E 3 f 9	N-72° W	長方形	2.12×1.36	40	外傾	平直	人為	須志器片	鎌倉時代後期 SK109-111-113-114・本跡
111	E 3 f 9	N 70° W	長方形	1.73×1.23	42	外傾	傾斜	人為		鎌倉時代後期 本跡→SK110
112	E 3 e 9	N-72° W	隅丸長方形	1.15×0.79	32	外傾	平直	人為		鎌倉時代後期 SK113→本跡
113	E 3 e 9	N-25° E	長方形*	0.70×0.95	38	外傾	平直	人為		鎌倉時代後期 本跡→SK110-112
114	E 3 f 9	N 24° E	長方形*	1.25×1.22	15	緩斜	平直	人為		鎌倉時代後期 本跡→SK110-115
115	E 3 f 9	N-76° W	長方形	1.48×0.93	16	直立	平直	人為		鎌倉時代後期 SK114→本跡・SK116
116	E 3 f 8	N-26° E	長方形	1.91×1.51	22	緩斜	平直	人為		鎌倉時代後期 SK115-117・本跡
117	E 3 f 8	N-18° E	長方形	1.59×0.95	30	緩斜	緩斜	人為		鎌倉時代後期 本跡→SK116
156	E 3 c 8	N 72° W	隅丸長方形	10.90×0.68	16	緩斜	傾斜	人為		鎌倉時代後期
159	E 3 d 9	N-10° E	長方形	1.10×0.84	8	直立	平直	人為		鎌倉時代後期 本跡→SK158
167	E 2 d 0	N-87° W	隅丸長方形	0.90×0.55	10	緩斜	平直	人為		鎌倉時代後期
200	E 3 a 7	N-16° W	長方形	1.28×1.06	25	外傾	平直	人為		鎌倉時代後期

(5) 溝跡

平面図は、遺構全体図に掲載する。

第1号溝 (第275図)

位置 調査区の東部から南部のC 4 d3～E 4 f8区に位置し、東に傾斜する台地の東端部に立地している。

重複関係 第46・57・66号住居跡、第2号溝、第1号不明遺構を掘り込み、第47・51・67・69・80・84・87・202・203・231号土坑、第3・4号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区の東部の西端を北方向(N-2°-W)に直線的に延び、南部中央からほぼ直角に屈曲して東南東方向(N-80° W)に延びている。確認された長さは106mほどで、東端はさらに東へ延びるものと考えられるが、擾乱のために確認できなかった。遺存状態のよい北方向の規模は、上幅2.9m、下幅1.0m、深さ1.3mである。形状は底面が平坦で、壁面は外傾して立ち上がる箱型研状を呈している。底面の標高は北部が20.0mほど、南部は20.5mほどで、北部が若干低くなっている。

覆土 第1層は表土で、第2～23層が本跡の覆土である。22層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

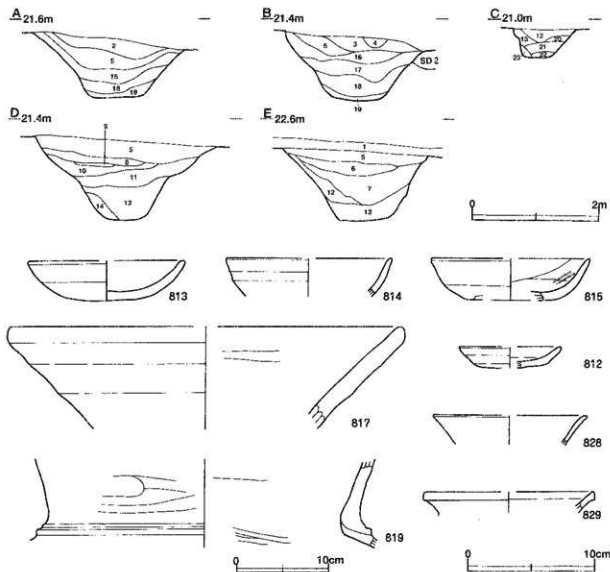
土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子微少	7	黒	褐色	ロームブロック・燻土粒子・炭化種子微塵
2	黒	褐色	燻土粒子・ローム粒子少量、炭化種子微塵	8	黒	褐色	ロームブロック・炭化種子中量
3	灰	暗褐色	ロームブロック少量、燻土粒子・炭化種子微少	9	黒	褐色	ローム粒子微塵
4	黒	褐色	ローム粒子少量、燻土粒子・炭化種子・砂粒微塵	10	暗	褐色	ロームブロック・燻土粒子・炭化種子微塵
5	黒	褐色	燻土粒子・ローム粒子微塵、炭化種子微塵	11	暗	褐色	ロームブロック少量、燻土粒子微塵
6	黒	褐色	燻土粒子・ローム粒子微塵	12	灰	褐色	ロームブロック微塵

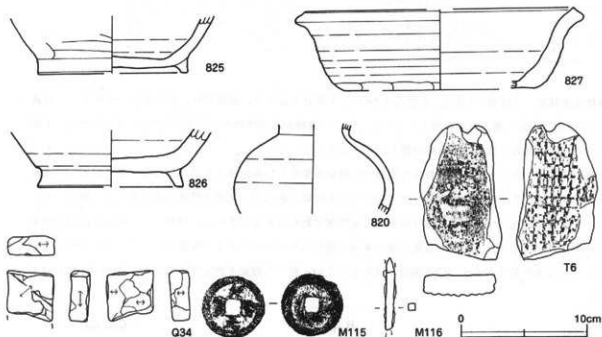
13	褐色	ロームブロック・炭化粒子混入	19	暗褐色	ロームブロック中層
14	褐色	ロームブロック微層	20	褐色	ロームブロック少層
15	黒褐色	ローム粒子多量・焼土粒子・炭化粒子混入	21	暗褐色	ロームブロック微層
16	黒褐色	ロームブロック少量・焼土粒子微層・炭化粒子微層	22	暗褐色	ロームブロック微層
17	黒褐色	ロームブロック中層・焼土粒子・炭化粒子微層	23	暗褐色	ロームブロック微層
18	暗褐色	ロームブロック中層・焼土粒子・炭化粒子微層			

遺物出土状況 土師器片731点、須恵器片298点、土師質土器4点、陶器22点、砥石1点、鉄滓2点、古銭1点、釘1点、瓦1点が、覆土中から出土している。多くの遺物が埋没時の流入と考えられる。812の土師質土器小皿、813~815の土師質土器皿は、南部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から鎌倉時代後期の13世紀後半から14世紀前半と考えられる。東に傾斜する台地の町を北方向に延びる部分は防御機能を想定することも可能であるが、南部が低地である東方向に屈曲してしまうことや北端が調査区中央部の北寄り付近から突然掘り始められることから、防御という観点には疑問が生じる。墓城の区画としても、方形竪穴遺構が溝の東西に設けられていることから疑問が生じる。底面の標高から溝には若干の保水効果はあるが、排水施設とは考えにくい。様々な機能を想定することができるが、性格は不明である。



第275図 第1号溝・出土遺物実測図



第276図 第1号溝出土遺物実測図

第1号溝出土遺物観察表 (第275・276図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎上	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
812	土師質土器	小皿	[8.2]	(1.7)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁・内面横ナデ	覆土中	40%
813	土師質土器	皿	[12.2]	3.2	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁・内面横ナデ	覆土中	30%
814	土師質土器	皿	[13.2]	(3.1)	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁・内面横ナデ	覆土中	10%
815	土師質土器	皿	[12.4]	3.3	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁・内面横ナデ	覆土中	10%
817	須恵器	壺	[31.0]	(8.2)	-	長石・礫	灰黄褐	普通	口縁・内面横ナデ	覆土下層	5%
819	須恵器	壺	-	(9.5)	-	長石・石英	オリーブ黒	普通	頸部内・外面横ナデ	覆土下層	20%
820	常滑	燕口壺	-	(7.2)	-	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	10%、PL.54
825	須恵器	長頸瓶	-	(4.5)	(12.0)	長石・石英	灰黄	良好	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け、体部外面下位ヘラ削り、内面ヘラナデ	覆土下層	10%
826	須恵器	長頸瓶	-	(4.5)	(11.6)	長石・赤色粒子	オリーブ黒	普通	底部ヘラ切り後、高台貼り付け、体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	10%、PL.54
827	須恵器	鉢	[21.4]	6.4	(15.2)	長石	褐灰	普通	体部外面下位ヘラ削り、内・外面ヘラナデ	覆土中	10%
828	灰輪陶器	高台付椀	[12.0]	(2.3)	-	長石	灰黄・灰白	良好	口クロ整形	覆土中層	5%
829	灰輪陶器	長頸瓶	[13.4]	(1.7)	-	長石	灰黄・灰白	良好	口クロ整形	覆土中	5%

番号	銭名	径	孔	厚さ	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M115	天聖元寶	2.4	0.6	0.1	3.1	天聖元年(1023)	銅	北宋銭、真書、円形方孔、無背	覆土中	PL.62

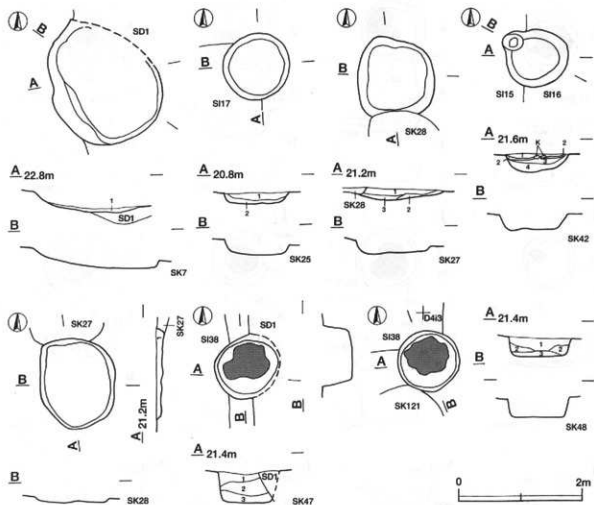
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q34	紙石	(4.0)	3.7	1.7	(35.5)	凝灰岩	紙面5面	覆土中	
M116	釘	(5.7)	0.7	0.6	(9.6)	鉄	断面方形の棒状	覆土中	PL.62
T6	平瓦	(12.8)	(6.5)	1.6	(136.0)	土製	凸面格子目の明瓦、凹面春日瓦	覆土上層	PL.63

4 その他の遺構と遺物

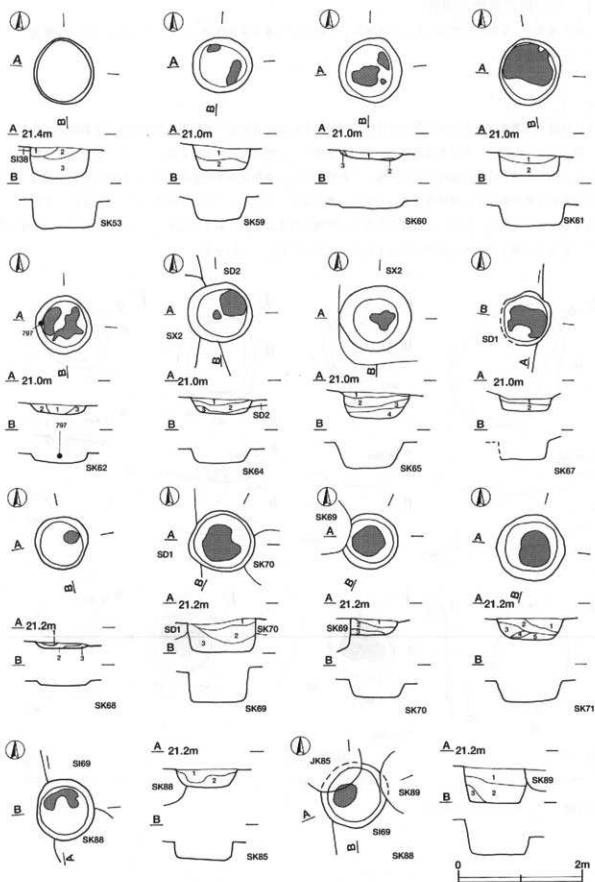
今回の調査で、墓塚の可能性のある土坑28基、土坑187基、溝4条を確認した。以下、検出された遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

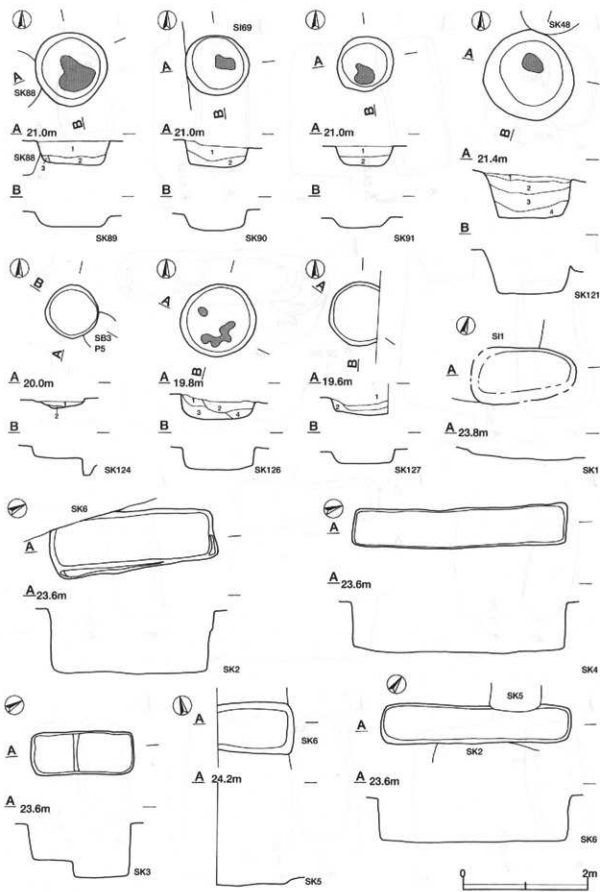
東に傾斜する調査区東部には、径1mほどの円形で平坦な底面をもつ規格性の高い土坑が多数確認されている。覆土はロームブロックが多量に混入した人為堆積で、遺物はほとんど伴わない。これらは、規模・形状などから近世の墓塚である可能性が非常に高いと考えられる。調査区南部の北側を中心に検出された土坑は、長方形の形状で壁が直立する規格性の高い土坑で、覆土はロームブロックの混入が多く、しまりが弱いことから、人為堆積と考えられる。しかし、遺物が少なく、時期や性格は不明である。以下、これらの土坑について実測図と一覧表を記載する。他の性格不明の土坑については一覧表にて紹介する。



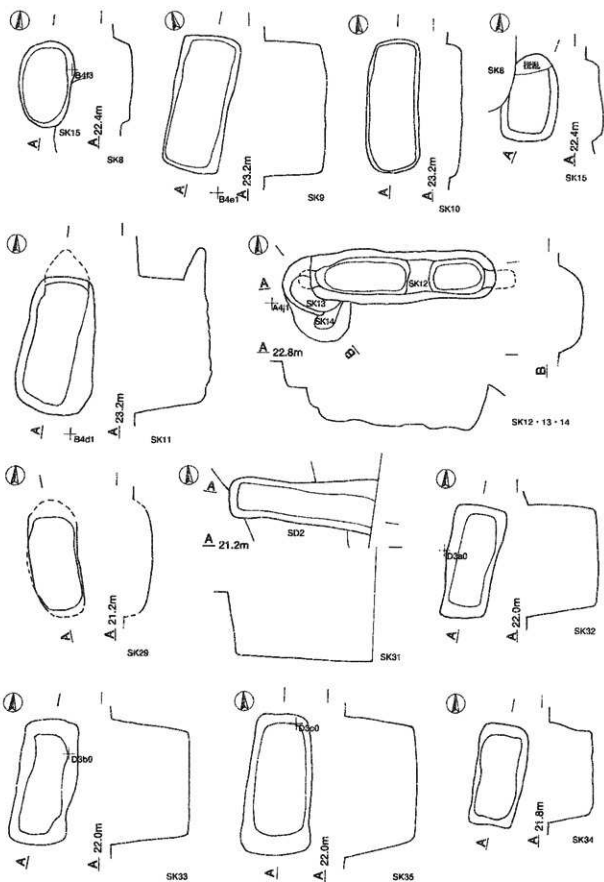
第277図 その他の土坑実測図(1)



第278図 その他の土坑実測図②



第279図 その他の土坑実測図(3)



第280図 その他の土坑実測図(4)